

神戸女子大学心理学部心理学科  
学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
  - ① 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
  - ② 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9
  
- (2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
  - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・ p.10
  - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・ p.11

## 神戸女子大学心理学部心理学科の学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生確保の見通し

神戸女子大学は、建学の精神として「本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっどび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある。」を掲げている。この建学の精神のもと、本学は昭和44年に文学部教育学科を設置し、そのコースのひとつとして平成7年に心理学コースを設定して教育・研究を行っている。心理学コースにおいては、心理学研究法や心理統計などを学ぶことにより心理学の方法論の基礎を修得する。また、平成18年には、国際的な都市である神戸の地において地域と世界との関わりと国際協働のあり方の基本を学ぶことを目標にして、文学部神戸国際教養学科を設置し、その後、平成30年に国際教養学科と名称変更した。この教育学科心理学コースと国際教養学科の教育・研究を基礎に、複雑で多様化した社会に生きる現代人の行動を心理学の視点から分析したうえで、心に問題を抱えている人に対して専門的な支援のできる人材養成が求められている状況に応え、また、人間にとって重要な営みである産業活動や消費行動を理解し、多様で複雑化したメディアから表出されるさまざまな情報を客観的に処理し、見通していくことができる人材を求める時代の要請に応えられるような体制を整える。こうして、建学の精神である「世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」ことを、人間の心理と行動を実証的な研究方法によって探究する心理学の分野から具現化するために、心理学部心理学科（入学定員80名）を設置することを計画した。なお、入学定員については、心理学部設置にあたり、同一キャンパスの神戸女子短期大学の入学定員を1年先行して削減（マイナス100名）することとしたため、学園全体では増加しない計画となっている（資料1）。

#### ア 定員充足の見込み

##### 入学定員設定の考え方

心理学部心理学科の入学定員設定の考え方は、後述する基礎学部等（教育学科及び国際教養学科）の志願者動向（資料2）が良好であること、さらに心理学科設置に伴い1年先行して減員する短期大学の入学定員の範囲内であること（3学科合計でマイナス100名）、また本学の学科ごとの平均入学定員が86.5名（入学定員合計865名、既存学科数10）であることなどの状況を踏まえ、教育の質を考慮して教育・研究を行ううえで適切な規模を検討し、本学では標準的な80名と設定した。

既存学科の定員充足率を見ても、入学定員80名未満が4学科で4年間の平均充足率が1.15倍、入学定員80～99名が4学科で平均充足率が1.00倍、入学定員100名超が2学科で平均充足率1.01倍（資料3）となっており、本学においては、定員の規模で充足率に偏りはなく、心理学科の80名も学生が確保できると考える。

また、後述する競合が見込まれる他大学5校の入学定員の平均は94名（資料4）であり、心理系学部学科として標準的な定員設定であると考えられる。

また、後述する令和3年5月に実施した高校生アンケートでは、定員の4.8倍の入学意向者を確認できており、設定した入学定員80人の充足は十分に見込めると考えている。

さらに、後述する企業等の人材需要アンケートにおいても、「採用したい」人数は定員の5.2倍となっており、定員80人に対する人材需要に懸念はないと考えている。

以上のことから、本学心理学部心理学科の入学定員80名は適切な設定である。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### 地域の状況

心理学部心理学科を設置するポートアイランドキャンパスは、神戸市の中心部に位置し、大阪方面からも姫路方面からも、非常に交通の便の良い場所にある。最寄り駅である「みなとじま駅」まで、大阪駅から約40分、姫路駅から約60分で到着し、「みなとじま駅」からキャンパスまでは徒歩5分であり、大阪市内、姫路市内とも十分通学圏にある。

18歳人口の減少は大学にとって大きな影響があるが、この通学圏内の人口推移を詳細に検証するため、平成27年の国勢調査の結果を用いた。これによると、令和4年度の18歳人口は1,118千人であり、10年後の令和14年には1,006千人（90.0%）にまで減少するとされている。

一方で、本学の主な通学圏である大阪～姫路間（大阪市、尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市、明石市、加古川市、姫路市）の18歳女子の人口推移をみると、令和4年度の25,751人が、10年後の令和14年には24,363人になるとされており、その割合は94.6%となる（資料5）。

また、府県単位とはなるが、学校基本調査から、大阪府、兵庫県の進学率を見てみると、全国の女子の大学等進学率が平成30年57.68%、令和元年57.77%、令和2年58.32%とこの間に0.64%増えているのに対し、大阪府は平成30年61.60%、令和元年62.72%、令和2年63.72%とこの間に2.12%増えている。同じく兵庫県は平成30年64.62%、令和元年64.88%、令和2年65.44%とこの間に0.82%増えている。大阪府、兵庫県ともに全国を上回って進学率が上昇している（資料6）。

これらのことから、今後10年で通学圏内の18歳女子の人口は5.4%減少するものの、減少は小幅に留まり、また全国と比較しても減少スピードが緩やかであること、また、進学率はもとより非常に高い地域であるが、さらに全国を上回って上昇していることから、中期的に見ても学生募集環境に大きな懸念はないと考えられる。

### 本学既設学科の状況

本学の直近4年の志願状況について、大学全体では、入学定員855人（令和元年から865人）に対し、毎年6,476人から8,591人の志願者があり、定員に対する志願倍率は7.48倍から10.04倍と、十分な志願者を確保している（資料7）。

学科別にみても、最も低い学科でも4年間の平均志願倍率は4.60倍、最も高い学科は18.76倍となっており、十分な水準となっている。

定員充足状況は、4年間の平均定員充足率で、10学科のうち、国際教養学科と社会福祉学科を除く8学科は、0.96倍～1.11倍となっており、定員管理を厳格に行いながら健全な運営ができています。

国際教養学科は、近年の国際関係の人気の影響を受け、また入学定員が40名と小さいために、入学者数の調整が難しく、4年間の平均定員充足率は1.41倍となっている。ただし、これについては定員増の認可申請を行い、令和3年度より入学定員を60名に増員している。

社会福祉学科は、4年間の平均定員充足率が0.89倍と唯一0.90倍をわずかに下回っている。福祉系の学科については、全国的に学生募集が厳しい状況であるが、本学の社会福祉士国家試験の合格率は非常に高い水準を誇っており、平成30年度78.6%（全国平均29.9%）、令和元年度80.5%（全国平均29.3%）、令和2年度57.4%（全国平均29.3%）の実績を残している。令和2年度はコロナ禍により対面による受験指導ができず、例年ほどの結果には至らなかったが、それでも全国平均は大きく上回っており、これらの実績をもとに学生募集を強化していく。

#### 心理学系統の状況

心理学部心理学科では、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していると日本心理学会が認定する「認定心理士」資格、及び認定心理士の中でも心理調査に関連する専門科目を履修した「認定心理士（心理調査）」資格が取得できるカリキュラムを配置している。

心理学の基礎的な資格である「認定心理士」の資格は、平成2年度から始まり、初年度は82名が取得、その後取得者数が増加し、平成30年度は3,620名が取得、累計では59,897名が取得している（資料8）。10年以上に亘り毎年の取得者が3,000名を超え、安定的に心理学の資格取得者がいることを示している。

さらに、平成27年9月に公認心理師法が成立し、心理学の国家資格として初めて「公認心理師」が誕生した。平成30年9月には、初の公認心理師として27,876人が国家試験に合格、その後も年間7,000名以上の公認心理師が合格し、保健医療、福祉、教育の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもつ者として活躍している。今後も公認心理師希望者は安定的に見込まれ、本学心理学部心理学科のカリキュラムは公認心理師にも対応していることから、定員充足につながるものと考え（資料8）。

また、リクルートカレッジマネジメントの調査（2019年）では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2018年時点で国公私立大学が設置していた5,174学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類、78の小分類に当てはめ、小分類ごとのライフサイクルについて分析が行われている。これによると、各小分類が、Ⅰ成長期、Ⅱ成熟期、Ⅲ衰退期、Ⅳ撤退期、Ⅴ再成長予兆期のいずれに該当するか考察されており、「小分類（心理学）」は、「1992年から概ね成長期と言える拡大を見せており、近年は定員の増加に対してやや大きな志願者増加が続いている」とされている。また、小分類ごとの志

願者増減ランキング（2015－2018年）でも、志願者増加人数で全体（78小分類）のうち8位に位置している（資料9）。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、心理学部の志願者は、平成28年度に15,051人だったものが、令和2年度は29,548人と約2倍（96%増）に増加している。この増加率は、同資料で同期間の比較が可能な90学部のうち7番目の伸び率であり、人文科学系12学部の中では最も高い伸び率である。

この人気もあり、心理学部の定員も平成28年度の2,195人が令和2年度は2,968人と35%増えているが、志願者の伸びには追いついていない状況である。このため、定員に対する志願倍率は、平成28年度の6.85倍が令和2年度は9.95倍と大きく上昇している（資料10）。また、定員充足率は平成28年度が1.00倍、令和2年度が1.04倍と安定している。

### 競合する他大学の状況等

まず、心理学部心理学科の基礎となる本学の学科等の状況について記述する。

本学の文学部と心理学科設置の基礎となる教育学科及び国際教養学科の直近4年間の募集状況を見てみると、定員に対する志願倍率の平均は、文学部全体では8.07倍、教育学科は7.01倍、国際教養学科は11.59倍と、安定的に十分な数の志願者を確保している（資料2）。

また、4年間の平均定員充足率は、文学部全体では1.11倍、教育学科が1.05倍、国際教養学科は1.41倍となっており、定員も安定的に充足している。心理学部心理学科は、教育学科と国際教養学科の教育内容を発展的に改組して設置するものであり、特に教育学科においては、平成7年に心理学コースを設定し、以後25年以上に亘り心理学の教育・研究実績を重ねて認定心理士などの心理人材を養成してきており、これらの学科の募集実績から学生募集の下地は確立できているものと考えている。

競合校については、主な競合大学の選定を次のとおり行った。令和2年9月のベネッセ模試のデータを活用し、本学文学部を第1志望にしている高校3年生の併願大学を集計し、10名以上が併願先としている大学を抽出した。対象は8校となったが、そこから、女子が多いという心理学の特性を考慮し、女子大学で、かつ、心理学系統の学科を設置している大学5校（武庫川女子大学、甲南女子大学、神戸女学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学）を主な競合校として選定した。

これらの大学の心理学系統の学科について、募集状況を見てみる。旺文社パスナビ入試結果は、直近3年間の入試結果が得られるため、この数値を利用する（資料4）。入学定員に対する志願者数の割合である志願倍率は、平成30年度が4.06倍～15.32倍で5校合計は10.03倍、令和元年度が、4.35倍～19.07倍で5校合計は11.05倍、令和2年度は4.91倍～19.77倍で5校合計は12.35倍と順調に推移している。5校合計の志願倍率は、上述した令和2年度の日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の心理学部における志願倍率9.95倍を上回っており、好調な全国の状況をさらに上回っている環境にある。

定員充足状況は、直近の令和2年度の定員充足率は1.04倍～1.26倍と5校すべてで1.00倍を上回っており、また、5校合計では1.12倍と、順調な状況である。神戸親和女子大学のみ、平成30年度、令和元年度で連続して定員充足率が1.00倍を下回っているが、令和2年度は入

学定員を充足している。これは、心理学系統の志願者人気の高まりと、公認心理師の受験資格に対応したカリキュラム設定により定員を充足したと考えられる。また、神戸親和女子大学を除く競合4校はすべて大阪から神戸のいわゆる阪神間の沿岸部に位置しているが、神戸親和女子大学は、六甲山系の内陸部に位置するため、学生の通学圏に違いがあるものと考えられる。

本学の心理学部心理学科は、公認心理師に対応したカリキュラムを設定し、また神戸の中心部で開設するため、上記のような募集上の懸念は少ないものと考えている。

さらに、神戸の中心に位置しながら、阪神間の競合4校との比較では、最も西に設置することになるため、兵庫県第2の都市である姫路市、子育て支援施策の充実により人口増となっている明石市などから、最も有利に学生を募集できるものと考えている（資料11）。

競合校5校の直近の志願者合計5,807名に対し、入学者が529名であることを考えても、心理学志望者の受け皿として、本学心理学部心理学科の入学定員80名は十分に需要があると考えられる。

### 高校生アンケート

本学心理学部心理学科への入学意向を把握するため、近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に1府10県（兵庫県、大阪府、和歌山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、高知県）に所在する高等学校の在学者で令和4年度の進学対象者である高校2年生の女子生徒を対象に、第三者機関である「一般財団法人日本開発構想研究所」を介してアンケートを実施した。調査は、令和2年11月から令和3年3月の期間で行った。調査方法は、神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に、129校に対して合計19,844人分のアンケート用紙と神戸女子大学心理学部のリーフレットを送付し、対象者が教室で直接アンケート用紙に記入する方法で実施した。しかしながら、アンケートの実施時は、兵庫県、大阪府には新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言が発令されており、アンケート実施が困難な高校が多く部分的な調査となった。

なお、アンケートの回答用紙は、高校から第三者機関へ直接郵送してもらい、その集計も第三者機関が行っている。

その結果、77校8,728人から回答があり、そのうち8,107人から有効回答（有効回収率約44.0%）を得た。

以下に第三者機関作成のアンケート報告（資料12）に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

#### ○神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について

高等学校卒業後に進学を希望している7,691人のうち、神戸女子大学心理学部心理学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは、140人（1.8%）である。「興味・関心がある」は444人（5.8%）、「すこし興味・関心がある」は1,373人（17.9%）で、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」、の合計1,957人（25.4%）が神戸女子大学心理学部心理学科に興味・関心を示している。

#### ○神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち「神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて、「興味・関心はない」2,613 人と「無回答」143 人を除いた 4,935 人に、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について調査した結果、「受験してみたい」と回答したのは、69 人（1.4%）、「受験先として検討したい」は 361 人（7.3%）、「わからない」が 2,192 人（44.4%）である。

リクルートの調査（カレッジマネジメント 219: 進路の意思決定を科学する）によると、2019 年に高校を卒業した全国の男女 5 万人を対象に調査を行い、大学進学者のうち高校 2 年生終了までに第一志望の学校を受験校に決めた割合は 24.3%となっている。進学者の 75%以上が高校 3 年生になってから進学する大学を決定しており、アンケート実施時には 3/4 以上の学生が進路を決定できていない中で、「受験してみたい」が 69 人、「受験先として検討したい」361 人を含めると合計 430 人が受験意向を示しており、定員 80 人の約 5.4 倍の水準となっている。

#### ○神戸女子大学心理学部への入学意向について

高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち、前述の「神戸女子大学心理学部への受験意向について」で、受験意向を示した 430 人に神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した結果、「入学を希望する」が 78 人（18.1%）、「入学を検討する」が 268 人（62.8%）となっている。

なお、このアンケート調査は、本学の近隣高校、または進学実績のある高校を中心として、約 2 万人の高校生に対し計画したものであったが、回収は半数以下に留まった。協力いただき回収できた部分だけでも十分と考えるが、未回収先にも進学実績の多い高校が含まれており、潜在的な入学希望者はさらに多くあると考えている。

#### 高校生アンケート（追加）

さらに、より確度の高い入学意向者数を調査するために、追加のアンケートを令和 3 年 5 月に実施した。神戸女子大学に資料請求を行った高校生（心理学科の母体となる文学部志望者を中心に抽出）、及び(株)進研アドに対し文学系統の資料請求を行った高校生のうち、高校 3 年生の女子を対象にアンケートを郵送し、(株)進研アドが回収し集計を行う方法で実施した。6,603 人へアンケート用紙と学科パンフレットを送付し、1,474 人（22.3%）から回答を得た。このアンケートでは、より入学意向を明確にするため、受験意向及び入学意向を問う際に、「わからない」等の不明確な選択肢をなくして実施した。

以下に第三者機関である(株)進研アド作成のアンケート報告（資料 12-2）に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

#### ○回答者の属性等について

回答者の属性（高校所在地）を調査した結果、アンケート回答者 1,474 人のうち「兵庫県」が 578 人（39.2%）と最も多く、次いで「大阪府」319 人（21.6%）、「京都府」88

人（6.0%）となった。通学圏内であるこの2府1県からの回答者が985人（66.8%）を占めた。

また、所属しているクラスは、多い順に「文系クラス」が912人（61.9%）、「理系クラス」が244人（16.6%）、「コース選択はない」が164人（11.1%）であった。

高校卒業後の進路（複数回答可）は、多い順に「私立大学に進学」が1,097人（74.4%）、「国公立大学に進学」が504人（34.2%）、「専門学校・専修学校に進学」が149人（10.1%）であった。

これら回答者の高校所在地、所属クラス、高校卒業後の進路の状況から、本学への入学確度の高い層へアンケートが実施できたと考えている。

#### ○興味ある学問系統について

興味のある学問系統を調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人（29.4%）でもっとも多く、次いで生活科学（食物・栄養学、被服学、児童学などを含む）346人（23.5%）、3番目が教員養成・教育学342人（23.2%）であった。

#### ○神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

受験意向について調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち、「受験したいと思う」は430人（29.2%）、「受験したいと思わない」は1,035人（70.2%）、「無回答」は9人（0.6%）であった。受験意向者430人は、入学定員80人の5.3倍の水準である。

#### ○神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について

上記の受験意向を示した430人に対し、合格した場合の入学意向を調査した結果、「入学したいと思う」は385人（89.5%）、「入学したいと思わない」は42人（9.8%）、「無回答」は3人（0.7%）であった。入学意向者385人は、入学定員80人の4.8倍の水準である。

当初のアンケート結果に加え、新たにアンケートを実施した調査結果からも入学定員80人の充足は十分に見込めると判断している。

#### まとめ

上記のとおり、主な通学圏の受験者層の推移に懸念が少ないこと、本学の既設学科の募集状況が順調であること、心理学系統の募集環境が好調であること、競合する他大学の状況及び立地条件等から募集上の不安が少ないこと、また2回の高校生アンケートの実施調査結果から十分な数の入学意向者が確認できたこと、また後述する企業等の人材需要アンケートにおいて、社会的人材需要が高いことが確認されたこと、心の健康に対する専門的知識を持つ心理職が様々な分野で求められ、ますますその活躍が期待されている状況にあることから、本学心理学部心理学科（入学定員80人）は長期的かつ安定的に学生を確保できると考える。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

本学では、教育の質的向上を図るための教育研究基盤の一層充実強化を図り、財政基盤の安定を目指す観点及び保証人の負担軽減を図ることから平成 28 年 4 月（平成 27 年 4 月設置の看護学部を除く）の入学生から初年度の納入金額に含まれる入学金 35 万円を 25 万円に値下げを行い、その値下げ分を在学年限で除算し、その金額を基に 2 年次から卒業年次の学費に上乗せすることとした。

学生納付金は、入学金の他、授業料、教育・施設充実費である。心理学部の学生納付金については、他学部（看護学部を除く）と同様に入学金 25 万円、授業料は、文学部と同額の 85 万円、教育・施設充実費は心理学部心理学科の基礎学部等となる文学部教育学科心理学コースと同額の初年次が 27 万円で 2 年次から卒業年次までを 30 万円と設定した。

これらにより、学生の初年度納付金は 137 万円、2 年次以降の納付金は 115 万円で、4 年間の総額が 482 万円であるが、これは、兵庫県内の女子大学の心理学系学科と同水準である。

（資料 13）

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学校法人吉学園では、設置している神戸女子大学及び神戸女子短期大学の学生募集や入学試験を一体的かつ機動的に実施していくため、学校法人吉学園入試・広報計画委員会を設置し、広報戦略及び入試戦略の基本方針を策定している。策定された基本方針に基づき入試広報部が活動部隊の主体となって広報誌・Web による情報提供、各種媒体への広報、オープンキャンパスの開催、進学説明会、高等学校に対する情報提供、及び多様な入試制度の提供等を教職協働で展開している。

### 広報誌・Web による情報提供

本学への受験情報の資料を請求してくる受験生が年間 2 万人近くおり、その資料請求者に対し大学の基本情報を記載した大学案内を郵送している。また、年 4 回～6 回大学独自の情報誌を発行し、大学案内とは異なる観点から大学の魅力を発信している。

更に、神戸女子大学のホームページでは受験生だけではなく、在学生・卒業生・保護者等に幅広く情報を発信し、受験生専用サイトでは入試情報やイベント情報はもとよりキャンパスライフ・学生ブログなど様々な情報を提供している。

### 各種媒体への広報

進学情報誌や進学情報サイトに参画し、全国に向け大学情報の発信に努めている。また、これらの媒体から資料を請求してきた受験生等に対しては、大学情報誌のほか、進学相談会やオープンキャンパスなど各種イベントの案内を発送している。

### オープンキャンパスの開催

毎年6月から9月にかけて6回開催しており、ミニ講義・展示等の学科別プログラム及び個別相談、入試対策講座、キャンパスツアー、国際交流・学生生活・入試の各相談コーナーなど様々なプログラムを用意し、大学の魅力を発信している。

#### 進学説明会

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、7月末まで高等学校で開催される進学ガイダンス及び進学相談会は、全て中止され、参加数が減少したが、例年であれば、兵庫県、大阪府を中心に、高等学校で開催される進学ガイダンスに年間130回程度参加し、本学の概要説明、学部・学科系統説明、模擬授業など訪問先学校の要望に沿った活動を行っている。また、キャンパス見学を随時受け入れるなど高等学校単位での進学説明の機会を活用している。

民間企業が開催する進学を支援する合同進学説明会に年間70会場程度参加するなど高校生や保護者への情報提供や受験アドバイスを行っている。

#### 高等学校に対する情報提供

本学には、高等学校訪問を専従とする職員が2名在職しており、年間で延べ800校以上を訪問し、中でも近隣の高等学校には多いところで年間6回以上も訪問しており、常に最新の情報提供を行うとともに、緊密な情報交換に努めている。

また、本学独自に近畿圏の高等学校教員を対象とする入試説明会を神戸と大阪で開催するとともに高等学校内ガイダンスも行う等様々な手法で迅速かつ効果的な情報提供に心掛けている。

#### 多様な入試制度の提供

本学では、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など年間で18種類の多種・多様な入学試験を実施し、受験生に選択の幅を多く提供できるよう努めている。

また、試験科目も教科・科目入試、公募制推薦入試で5科目（英語、国語、化学、生物、日本史）、一般入試で最大7科目（英語、国語、化学、生物、数学、日本史、世界史）を用意し、文系、理系どちらの受験生からも受験し易いように配慮している。更に、受験生の約半数が兵庫県外の高校生であることから、学外試験場について教科・科目入試で7会場（大阪、京都、和歌山、岡山、広島、高松、松山）、一般入試で13会場（東京、金沢、名古屋、大阪、京都、和歌山、米子、岡山、広島、福山、高松、松山、福岡）で行うなど広い地域で多様な受験生に受験してもらえるよう利便性の確保に努めている。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### <養成する人材像>

心理学部では、人間の心的過程と行動のメカニズムに深い関心を持ち、社会における人間の多様な営みを心理学の視点から理解し、他者と心理的な交流を深めて協同して活動することのできる人材を養成する。

心理学科では、心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を養成する。

## ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ＜地域的な人材需要＞

現在、本学では文学部、家政学部、健康福祉学部、看護学部の4学部を有しており、令和3年度の入学定員は885名である。

最近5年間の求人実績等（資料14）では、多数の求人件数があり、高い就職実績を維持している。この実績が、社会が求めている人材を輩出している高等教育機関として社会から期待されている表れであると考えられる。

近隣他大学の心理学系統の卒業生は、就職先として一番多いのが一般企業、次に公務員、心理系専門職の順となっている。一般企業の中でも人事職、営業職、マーケティング職といった分野への就業が見込まれる。特に本学が設置する心理学部では、3つのモデルを配置し、臨床心理モデルの卒業生は心理系専門職を目指し、メディア心理モデル、経営・消費者モデルの卒業生は、一般企業の人事職、営業職、マーケティング職等を目指すことが見込まれる。

本学が設置する神戸ポートアイランドは、平成10年より神戸医療産業都市懇談会が設置され20年以上経過し、医療機関が集積されるとともに進出企業・団体数は約370社（令和3年2月末）、雇用者数11,700人（令和2年3月末）を超えることとなった。そのため、医療機関には心理系専門職が求められ、一般企業も多数集積したことから人事職、営業職、マーケティング職等も求められることとなることが推測できる。これらのことから、心理学部の卒業生の多くが求められる。

### ＜人材需要の調査結果の概要＞

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の就職が見込まれる1都2府20県（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、愛知県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県、長崎県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施した。

調査は令和2年11月から12月の期間に神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる2,786件の調査対象企業等の採用担当者にアンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科の概要を示したリーフレットを送付する方法で実施した。有効回

答は、787 件で、有効回収率は約 28.2%であった。回答については、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送され、集計もこの第三者機関が行った。

回答のあった企業等 787 件のうち「企業」が 455 件 (57.8%) と最も多く、次いで「施設 (医療福祉)」279 件 (35.5%)、「その他」40 件 (5.1%)、「教育・研究機関」11 件 (1.4%) の順であった。

以下に第三者機関作成のアンケート報告 (資料 15) に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

#### ○事業所の業種について

回答企業等 787 件のうち 10 件以上のものを挙げると、「医療・福祉」が 332 件 (42.2%) と最も多く、次いで「卸売業・小売業」186 件 (23.6%)、「宿泊業・飲食サービス業」65 件 (8.3%)、「サービス業 (他に分類されないもの)」59 件 (7.5%)、「製造業」31 件 (3.9%)、「情報通信業」20 件 (2.5%)、「その他」20 件 (2.5%)、「生活関連サービス業・娯楽業」18 件 (2.3%)、「教育・学習支援業」13 件 (1.7%)、「金融業・保険業」13 件 (1.7%) の順になっている。※「無回答」2 件 (0.3%)

これらの回答から、4 割以上が「医療・福祉」の企業等であることから心理学への関心の高さが伺え、今後の需要は現状以上に高まっていくものと考えられる。

#### ○心理学部心理学科の社会的必要性について

回答企業等 787 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 448 件 (56.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」260 件 (33.0%)、「わからない」57 件 (7.2%)、「あまり必要性を感じない」18 件 (2.3%)、「必要性はない」2 件 (0.3%) の順になっている。※「無回答」2 件 (0.3%)

なお、神戸女子大学心理学部心理学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、708 件 (90.0%) となっている。

これらの回答から、心理学が社会的に必要性の高い分野であることが伺える。

#### ○心理学部心理学科の卒業生の採用意向について

回答企業等 787 件のうち、「採用を検討したい」が 402 件 (51.1%) と最も多く、次いで「採用したい」278 件 (35.3%)、「採用は考えない」96 件 (12.2%) の順になっている。※「無回答」11 件 (1.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、680 件 (86.4%) となっている。

#### ○心理学部心理学科の卒業生の採用人数について

前述で肯定的な採用意向を示した 680 件に対して、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 394 件 (57.9%) と最

も多く、次いで「1人」167件(24.6%)、「2人」84件(12.4%)、「3人」23件(3.4%)、「5人以上」9件(1.3%)、「4人」2件(0.3%)の順になっている。

※「無回答」1件(0.1%)

#### まとめ

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「心理学部心理学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定(※)」)を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」において、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、417人分となる。入学定員は80名であるため、約5.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は851人となり、これは、入学定員80名に対して、約10.6倍となる。

これらの調査結果と、今回の調査対象以外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

#### <専門知識を有する心理職の必要性>

また、平成29年9月に公認心理師法が施行され、「今日、心の健康の問題は、国民の生活に関わる重要な問題となっており、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場における心理職の活用の促進は、喫緊の課題となっている。しかしながら、我が国においては、心理職の国家資格がないことから、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職が必要とされてきた。法は、このような現状を踏まえ、公認心理師の国家資格を定めて、その業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とするものである。」(「公認心理師法の施行について」(29文科初第875号・障発0915第7号平成29年9月15日付通知))という背景とその必要性のもとに国家資格である公認心理師制度がスタートした。

この公認心理師資格は、以下のとおり示す諸課題に対して専門的知識を持つ心理職が必要なことから、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪および産業・労働といった様々な分野で活躍が期待されている。

・保健医療の分野では、厚生労働省「患者調査」により同省が作成した「精神疾患を有する患者数の推移」によると、精神疾患患者数は平成23年度320.1万人、平成26年度392.4万人、平成29年度419.3万人と年々増加している(資料16)。

・福祉の分野では、厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」によると、児童虐待の相談件数は平成 29 年度 133,778 件、平成 30 年度 159,838 件、令和元年度 193,780 件と大きく増加している（資料 17）。このため、平成 30 年に政府により「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」が策定され、公認心理師などが任用される児童福祉司を平成 29 年度の約 3,240 人から令和 4 年度までに 2,020 人増員し 5,260 人へ、また子どもへのカウンセリング等を充実させるため、児童心理司を平成 29 年の 1,360 人から令和 4 年度までに 790 人増員し 2,150 人へ、さらに令和 6 年度までに 350 人積み増して 2,500 人にする計画が進行中である（資料 18）。

・教育の分野では、文部科学省「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によると、「いじめの認知件数」は平成 29 年度 414,378 件、平成 30 年度 543,933 件、令和元年度 612,496 件と増加傾向にある。それに伴い、不登校児童生徒数や暴力行為の発生件数も高いままとまっている（資料 19）。また、文部科学省「令和 2 年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」によると、児童・生徒（小学校・中学校・高等学校）の自殺者数も、平成 28 年度の 289 人が、令和元年度は 339 人、令和 2 年度は 479 人と増加しており、ますますスクールカウンセラー等の心理職の活躍が必要とされている状況にある（資料 20）。

・司法・犯罪の分野では、法務省「令和 2 年度版再犯防止推進白書」にあるとおり再犯防止に係る専門的知識を持つ心理職による心理相談等の実施などの取組みが記載され、少年鑑別所や矯正施設でのその役割が重要視されている。

・産業・労働の分野では、厚生労働省「労働安全衛生調査（実態調査）」によると、メンタルヘルス不調により連続 1 カ月以上休業した労働者がいた事業所の割合は平成 29 年度 0.4%、平成 30 年度 6.7%で、また退職した労働者がいた事業所の割合は 0.3%から 5.8%へ急増している（資料 21）。

以上のように、心理に関する専門知識を有する心理職の重要性は年々高まっており、様々な分野で活躍を期待されていると判断できる。

上記のとおり、地域的な人材需要、アンケート調査結果、心の健康に対する社会のニーズや国の各種取組み等から本学心理学部心理学科の人材需要は高いものと考えられる。

(添付資料)

- 資料1. 神戸女子大学・神戸女子短期大学の入学定員について
- 資料2. 神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等
- 資料3. 神戸女子大学定員充足状況
- 資料4. 近隣女子大学心理学科系の志願者状況
- 資料5. 地域別の18歳人口の推移（令和4年～令和14年）
- 資料6. 高等学校を卒業した女子の大学等進学状況
- 資料7. 神戸女子大学既存学科の志願状況
- 資料8. 認定心理士・公認心理師資格取得者推移
- 資料9. リクルート「カレッジマネジメント」
- 資料10. 学部別の志願者動向
- 資料11. 近隣女子大学位置関係図
- 資料12. 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
- 資料12-2 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告（追加）
- 資料13. 近隣女子大学心理学科系学納金一覧
- 資料14. 神戸女子大学文学部3か年間の就職実績
- 資料15. 卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告
- 資料16. 精神疾患を有する患者数の推移（厚生労働省）
- 資料17. 児童相談所での児童虐待相談対応件数（厚生労働省）
- 資料18. 児童虐待防止対策体制総合強化プラン
- 資料19. いじめの認知（発生）件数の推移（文部科学省）
- 資料20. 自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移（文部科学省）
- 資料21. 労働安全衛生調査（平成29・30年）

(資料1)

## 神戸女子大学・神戸女子短期大学の入学定員について

大学	学部	学科	入学定員			
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度→4年度増減
神戸女子大学	文学部	日本語日本文学科	60	60	60	0
		英語英米文学科	60	60	60	0
		国際教養学科	40	60	60	20
		史学科	60	60	60	0
		教育学科	165	165	165	0
	家政学部	家政学科	80	80	80	0
		管理栄養士養成課程	150	150	150	0
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	80	80	0
		健康スポーツ栄養学科	80	80	80	0
	看護学部	看護学科	90	90	90	0
	心理学部	心理学科			80	80
	大学計			865	885	965
神戸女子短期大学	総合生活学科		120	100	100	▲ 20
	食物栄養学科		120	60	60	▲ 60
	幼児教育学科		100	80	80	▲ 20
	短大計		340	240	240	▲ 100
行吉学園	神戸女子大学・神戸女子短期大学 合計		1,205	1,125	1,205	0

## 行吉学園改組等の計画

年度	大学/短大	改組等の内容		
		学科等	種類	入学定員の増減
令和3年度	短期大学	総合生活学科	定員減	120→100 (▲20)
		食物栄養学科	定員減	120→60 (▲60)
		幼児教育学科	定員減	100→80 (▲20)
	大学	文学部国際教養学科	定員増	40→60 (+20)
令和4年度	大学	心理学部心理学科	設置	0→80 (+80)

(資料2)

## 神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	4ヵ年平均
文学部 (5学科計)	① 入学定員	385	385	385	385	385
	② 志願者数	2,613	3,304	3,810	2,715	3,111
	③ 受験者数	2,599	3,277	3,791	2,701	3,092
	④ 合格者数	864	1,033	1,077	889	966
	⑤ 入学者数	431	509	424	355	430
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.11	1.32	1.10	0.92	1.11
	⑦ 志願倍率 (②/①)	6.78	8.58	9.89	7.05	8.07
うち 教育学科	① 入学定員	165	165	165	165	165
	② 志願者数	1,182	1,258	1,200	992	1,158
	③ 受験者数	1,178	1,255	1,199	986	1,155
	④ 合格者数	354	377	386	323	360
	⑤ 入学者数	181	185	176	155	174
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.09	1.12	1.06	0.93	1.05
	⑦ 志願倍率 (②/①)	7.16	7.62	7.27	6.01	7.01
うち 国際教養学科 (平成29年度までは 神戸国際教養学科)	① 入学定員	40	40	40	40	40
	② 志願者数	344	458	649	405	464
	③ 受験者数	342	453	646	403	461
	④ 合格者数	105	143	149	113	128
	⑤ 入学者数	55	76	52	44	57
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.37	1.90	1.30	1.10	1.41
	⑦ 志願倍率 (②/①)	8.60	11.45	16.22	10.12	11.59

## 神戸女子大学定員充足状況

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
家政学部		230	252	1.09	230	245	1.06	230	227	0.98	230	213	0.92	1.01
	家政学科	80	85	1.06	80	88	1.10	80	97	1.21	80	85	1.06	1.10
	管理栄養士養成課程	150	167	1.11	150	157	1.04	150	130	0.86	150	128	0.85	0.96
文学部		385	431	1.11	385	509	1.32	385	424	1.10	385	355	0.92	1.11
	日本語日本文学科	60	74	1.23	60	83	1.38	60	66	1.10	60	46	0.76	1.11
	英語英米文学科	60	61	1.01	60	86	1.43	60	61	1.01	60	58	0.96	1.10
	国際教養学科	40	55	1.37	40	76	1.90	40	52	1.30	40	44	1.10	1.41
	史学科	60	60	1.00	60	79	1.31	60	69	1.15	60	52	0.86	1.08
	教育学科	165	181	1.09	165	185	1.12	165	176	1.06	165	155	0.93	1.05
健康福祉学部		160	163	1.01	160	149	0.93	160	160	1.00	160	129	0.80	0.93
	社会福祉学科	80	76	0.95	80	73	0.91	80	76	0.95	80	62	0.77	0.89
	健康スポーツ栄養学科	80	87	1.08	80	76	0.95	80	84	1.05	80	67	0.83	0.97
看護学部	看護学科	80	91	1.13	80	88	1.10	90	87	0.96	90	88	0.97	1.04
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

## 定員規模別の集計

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
	定員80名未満の学科：4学科 (日本語日本文学科、英語英米文学科、国際教養学科、史学科)	220	250	1.13	220	324	1.47	220	248	1.12	220	200	0.90	1.15
	定員80名～99名の学科：4学科 (家政学科、社会福祉学科、健康スポーツ栄養学科、看護学科)	320	339	1.05	320	325	1.01	330	344	1.04	330	302	0.91	1.00
	定員100名超の学科：2学科 (管理栄養士養成課程、教育学科)	315	348	1.10	315	342	1.08	315	306	0.97	315	283	0.89	1.01
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

(資料4)

近隣女子大学心理学系の志願者状況

大学名	学部学科名	平成30年度						令和元年						令和2年度								
		定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率			
武庫川女子大学	文学部 心理・社会福祉学科	160	1,836	1,668	270	143	11.47	0.89	160	1,749	1,551	407	177	10.93	1.10	160	2,020	1,766	452	172	12.62	1.07
神戸女学院大学	人間科学部 心理・行動科学科	90	899	828	233	111	9.98	1.23	90	969	897	248	108	10.76	1.20	90	878	763	255	114	9.75	1.26
甲南女子大学	人間科学部心理学科	90	1,379	1,350	538	109	15.32	1.21	90	1,717	1,666	483	110	19.07	1.22	90	1,780	1,737	404	94	19.77	1.04
神戸松蔭女子学院大学	人間科学部 心理学科	70	359	339	272	80	5.12	1.14	70	500	463	296	91	7.14	1.30	70	834	770	286	78	11.91	1.11
神戸親和女子大学	発達教育学部 心理学科	60	244	233	127	50	4.06	0.83	60	261	259	131	47	4.35	0.78	60	295	284	179	71	4.91	1.18
5大学合計		470	4,717	4,418	1,440	493	10.03	1.04	470	5,196	4,836	1,565	533	11.05	1.13	470	5,807	5,320	1,576	529	12.35	1.12

※志願者は、旺文社「大学受験ハスナビ 入試結果」より全ての入試の合計数から本学で作成

5大学の平均入学定員は、 $470 \div 5 = 94$ 人

## 地域別の18歳人口の推移（令和4年～令和14年）

集計	地域	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R4→14 増減率
男女	全国	1,118,555	1,098,898	1,061,074	1,059,128	1,066,954	1,075,000	1,054,736	1,043,969	1,040,723	1,012,766	1,006,691	90.0%
	全国	545,320	536,997	517,942	517,243	520,353	524,514	514,398	508,688	507,489	494,877	492,351	90.3%
	大阪府	37,767	37,284	35,426	35,342	35,910	35,557	35,081	34,627	34,864	34,015	33,715	89.3%
	兵庫県	24,603	24,090	23,289	23,183	23,088	23,638	22,989	22,549	22,628	21,745	21,518	87.5%
女	大阪市	9,673	9,455	9,024	8,998	9,384	9,543	9,341	9,382	9,649	9,607	9,958	102.9%
	尼崎市	1,686	1,628	1,584	1,567	1,607	1,704	1,653	1,620	1,598	1,591	1,667	98.9%
	西宮市	2,335	2,231	2,177	2,120	2,224	2,230	2,122	2,059	2,013	2,078	1,971	84.4%
	芦屋市	411	443	415	441	415	427	408	437	396	377	381	92.7%
	神戸市	6,434	6,196	6,238	6,069	6,068	6,168	5,989	6,051	6,008	5,680	5,630	87.5%
	明石市	1,305	1,322	1,278	1,186	1,297	1,306	1,270	1,268	1,333	1,287	1,330	101.9%
	加古川市	1,269	1,259	1,109	1,198	1,143	1,241	1,208	1,177	1,238	1,108	1,158	91.3%
	姫路市	2,638	2,552	2,480	2,501	2,428	2,453	2,450	2,304	2,389	2,314	2,268	86.0%
	大阪市～姫路市計	25,751	25,086	24,305	24,080	24,566	25,072	24,441	24,298	24,624	24,042	24,363	94.6%

※平成27年国勢調査結果から18歳の人口を記載

(資料6)

## 高等学校を卒業した女子の大学等進学状況

(単位：人・%)

都道府県名	高等学校卒業女子数			大学等進学者数			大学等進学率			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30→ 令和2年 増減
全国	524,159	519,975	513,507	302,353	300,392	299,499	57.68	57.77	58.32	0.64
大阪府	37,703	37,082	36,079	23,227	23,258	22,992	61.60	62.72	63.72	2.12
兵庫県	23,418	23,047	22,585	15,135	14,954	14,781	64.62	64.88	65.44	0.82

※「学校基本調査報告書」（平成30から令和2年度）より本学で作成

神戸女子大学既存学科の志願状況

(単位：人、倍)

学部	学科	定員	平成29年度						平成30年度						令和元年度						令和2年度						4年間平均	
			志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	定員充足率	志願倍率
文	日本語 日本文学科	60	460	458	165	74	1.23	7.66	573	567	185	83	1.38	9.55	703	698	173	66	1.10	11.71	446	441	154	46	0.76	7.43	1.11	9.08
	英語 英米文学科	60	344	340	128	61	1.01	5.73	581	576	184	86	1.43	9.68	733	730	174	61	1.01	12.21	407	407	141	58	0.96	6.78	1.10	8.60
文	国際教養 学科	40	344	342	105	55	1.37	8.60	458	453	143	76	1.90	11.45	649	646	149	52	1.30	16.22	405	403	113	44	1.10	10.12	1.41	11.59
	史学科	60	283	281	112	60	1.00	4.71	434	426	144	79	1.31	7.23	525	518	195	69	1.15	8.75	465	464	158	52	0.86	7.75	1.08	7.11
家政	教育学科	165	1,182	1,178	354	181	1.09	7.16	1,258	1,255	377	185	1.12	7.62	1,200	1,199	386	176	1.06	7.27	992	986	323	155	0.93	6.01	1.05	7.01
	家政学科	80	398	394	170	85	1.06	4.97	561	552	201	88	1.10	7.01	526	523	247	97	1.21	6.57	544	542	188	85	1.06	6.80	1.10	6.33
健康 福祉	管理栄養士 養成課程	150	1,616	1,605	316	167	1.11	10.77	1,878	1,867	306	157	1.04	12.52	1,481	1,477	348	130	0.86	9.87	1,008	1,002	277	128	0.85	6.72	0.96	9.97
	社会福祉 学科	80	372	369	158	76	0.95	4.65	369	368	157	73	0.91	4.61	356	355	177	76	0.95	4.45	377	377	164	62	0.77	4.71	0.89	4.60
看護	健康 福祉 ソ 栄養学科	80	541	541	142	87	1.08	6.76	614	610	163	76	0.95	7.67	580	578	182	84	1.05	7.25	420	418	130	67	0.83	5.25	0.97	6.73
	看護学科	80 (R1~90)	1,593	1,588	200	91	1.13	19.91	1,865	1,852	192	88	1.10	23.31	1,456	1,454	227	87	0.96	16.17	1,412	1,398	230	88	0.97	15.68	1.04	18.76
	計	855 (R1~865)	7,133	7,096	1,850	937	1.09	8.34	8,591	8,526	2,052	991	1.15	10.04	8,209	8,178	2,258	898	1.03	9.49	6,476	6,438	1,878	785	0.90	7.48	1.04	8.83

## 認定心理士資格取得者数年度別推移

年度	取得者数	取得者累計
平成21年度	3,401	30,004
平成22年度	3,179	33,183
平成23年度	3,138	36,321
平成24年度	3,689	40,010
平成25年度	3,035	43,045
平成26年度	3,002	46,047
平成27年度	3,212	49,259
平成28年度	3,508	52,767
平成29年度	3,510	56,277
平成30年度	3,620	59,897
10年間平均取得者数	3,329	—
10年間増加数	—	29,893

※公益社団法人 日本心理学会HPより本学で作成

## 公認心理師試験受験者数推移

試験	受験者数	合格者数	合格率 (%)
第1回 (H. 30. 9)	35,020	27,876	79.6
第1回 (H30. 12) 追加	1,083	698	64.5
第2回 (R1. 8)	16,949	7,864	46.4
第3回 (R2. 12)	13,629	7,282	53.4

※一般財団法人 日本心理研修センターHPより本学で作成

# 「複合化」が進む学部・学科改編

鹿島 梓／鈴木規子 カレッジマネジメント編集部

## 1章 学科のライフサイクルとマーケット・トレンド

本調査では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2018年時点で国公立大学が設置していた5174学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類、78の小分類(図表1)に分類した。この78分類に当てはまった3458学科を「単独分野」と定義。また、複数分野が融合して78分類に当てはまらなかった1716学科を「複

合分野」と定義した。以下、単独分野と複合分野に分けて、考察を行うこととする。本章では、まず1992年から2018年までの26年間に、学科のライフサイクルがどのように変化してきたかを単独分野について概観する。

### 単独分野から見る学科系統のライフサイクル

では、まず単独分野の学科系統の

ライフサイクルから見ていこう。

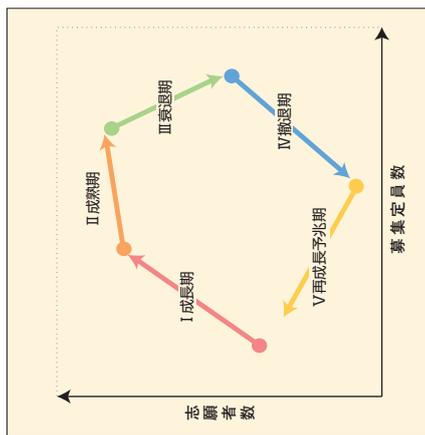
縦軸に志願者数、横軸に募集定員数を置き、図表上の矢印で、ライフサイクルのパターンがどのように変化してきたかを示したのが、学科系統のライフサイクル図である(P.6図表2-1参照)。さらにここでは、Ⅰ成長期、Ⅱ成熟期、Ⅲ衰退期、Ⅳ撤退期、Ⅴ再成長予兆期という、5つの段階があると仮説を立てた。

図表1 学科の78学問分類と2016-2018トレンド一覧 ※トレンド：↗(成長期)、→(成熟期)、↘(衰退期)、↙(撤退期)、↖(再成長予兆期)

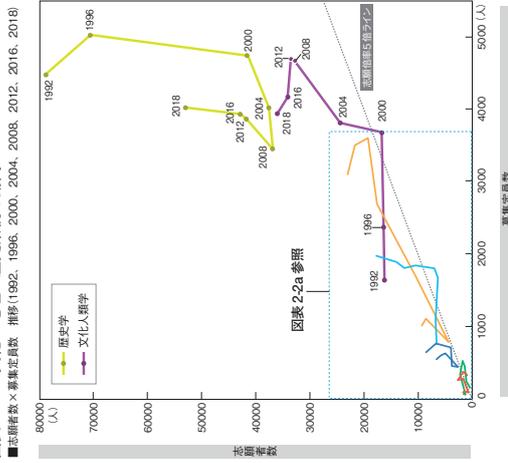
学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド
1 文化・地理・歴史	1 地理学	↖	6 生物	27 住居学	→	11 スポーツ・健康・医療	53 語学(外国語)	↗
	2 歴史学	↗		28 生活科学	↖		54 語学(日本語)	↗
	3 考古学	↖		29 生物学	↘		55 スポーツ学	→
	4 文化人類学	↖		30 生命科学	↘		56 健康科学	↗
	5 日本文化学	↗		31 農学	↘		57 医学(専門課程)	→
	6 言語学	→		32 森林科学・水産学	→		58 歯学(専門課程)	↘
	7 教養学	↖		33 獣医・畜産学	↙		59 薬学	↘
2 芸術・文学・表現	8 音楽	↙	7 社会・マスコミ	34 社会学	↗	12 工学・建築・技術	60 看護学	↗
	9 美術	↗		35 観光学	↗		61 保健衛生学	↘
	10 デザイン	↖		36 情報学	↖		62 リハビリテーション学	↘
	11 舞台・演劇学	→		37 図書館情報学	↗		63 医療技術学	→
	12 日本文学	↗		38 コミュニケーション学	↙		64 機械工学	↙
	13 外国文学	↖		39 マスコミ学	↗		65 航空・船舶・自動車工学	↙
	14 児童文学	—		40 メディア学	↗		66 システム・制御工学	↖
	15 文芸学	↖		41 哲学・宗教学	↗		67 情報工学	↗
3 数学・物理学・化学	16 数学	→	8 人間・心理・教育・福祉	42 心理学	↗	68 通信工学	↖	
	17 物理学	↙		43 人間科学	↙	69 電気工学	↗	
	18 化学	↙		44 教育学	→	70 電子工学	↖	
4 法律・政治・経済	19 法学	↖	9 地球・環境・エネルギー	45 保育・児童学	↘	71 画像・音響工学	↖	
	20 政治・政策学	↗		46 福祉学	↖	72 建築学	↗	
	21 総合政策学	↗		47 地球・宇宙学	↗	73 土木工学	↗	
	22 経済学	↗		48 環境科学	→	74 環境工学	↖	
	23 経営学	↖		49 エネルギー・資源工学	↗	75 応用物理学	↖	
5 家政・生活	24 商学	↗	10 国際・語学	50 原子力工学	↗	76 応用化学	↙	
	25 栄養・食物学	↘		51 国際関係学	↖	77 材料工学	↙	
	26 服飾・被服学	↘		52 国際文化学	↖	78 経営工学	↙	

※リクルート独自分類

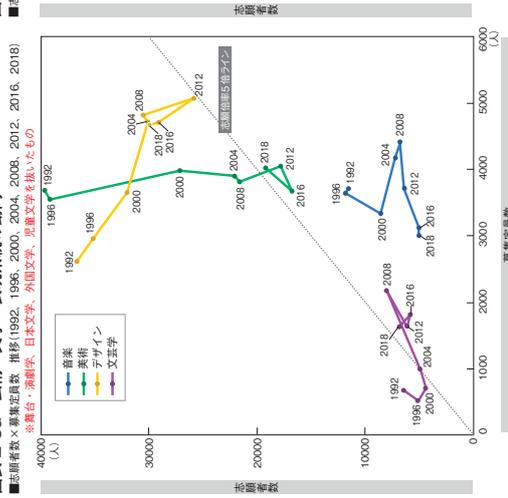
図表 2-1 学科システムのライフサイクル図



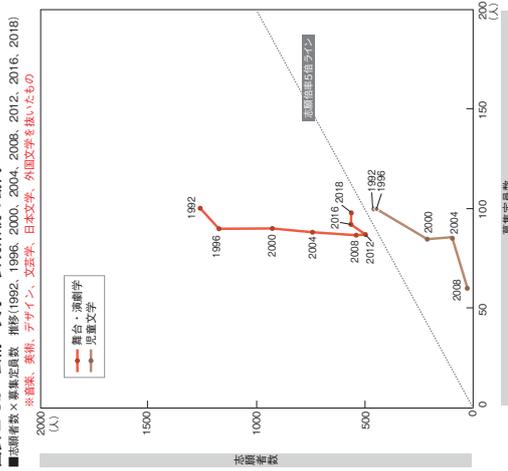
図表 2-2 文化・地理・歴史系統の動向



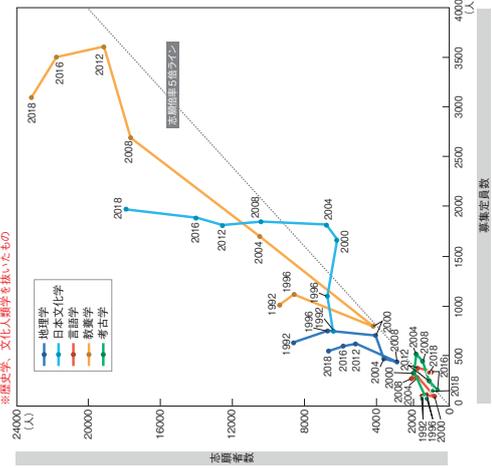
図表 2-3a 芸術・文学・表現系統の動向



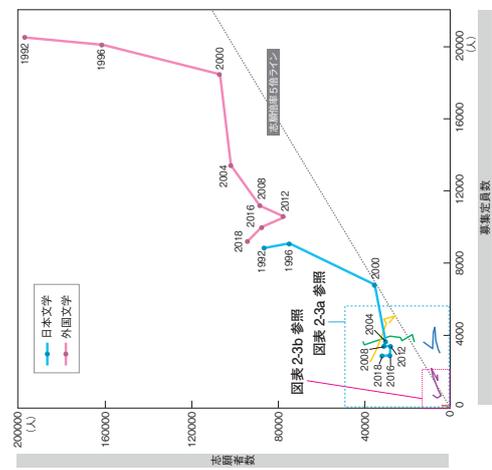
図表 2-3b 芸術・文学・表現系統の動向



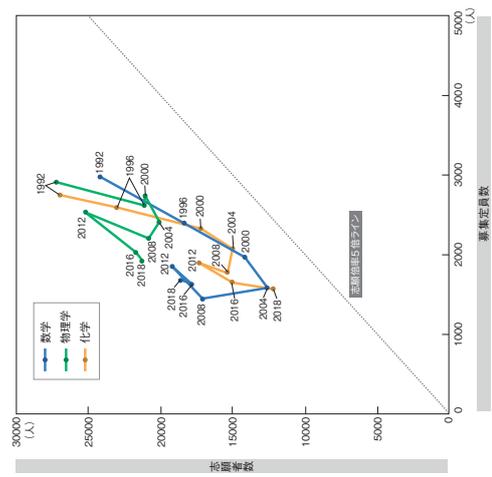
図表 2-2a 文化・地理・歴史系統の動向



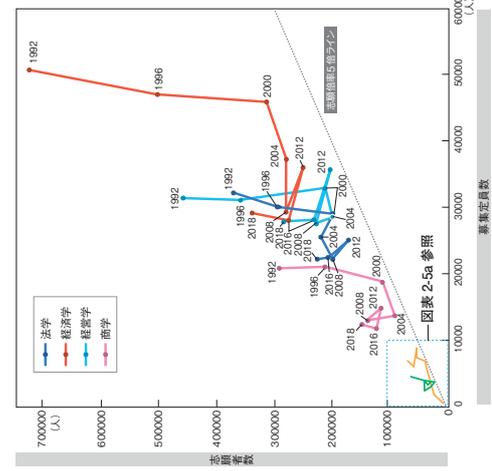
図表 2-3 芸術・文学・表現系統の動向



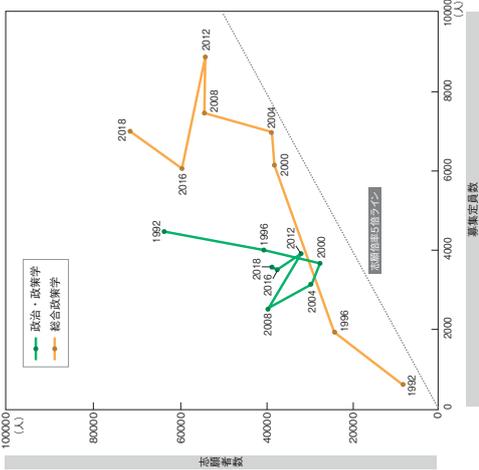
図表 2-4 数学・物理学・化学系統の動向



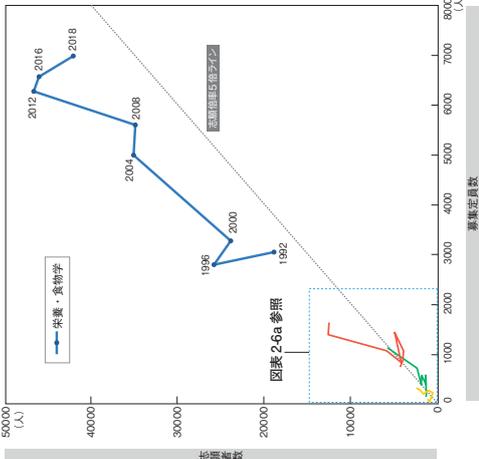
図表 2-5 法律・政治・経済系統の動向



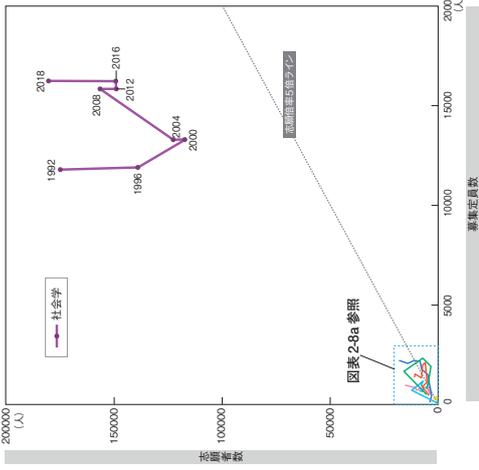
図表 2-5a 法律・政治・経済系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※法学, 経済学, 経営学, 商学を抜いたもの



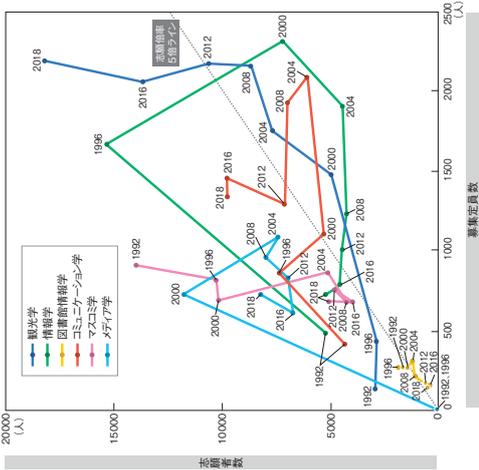
図表 2-6 家政・生活系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



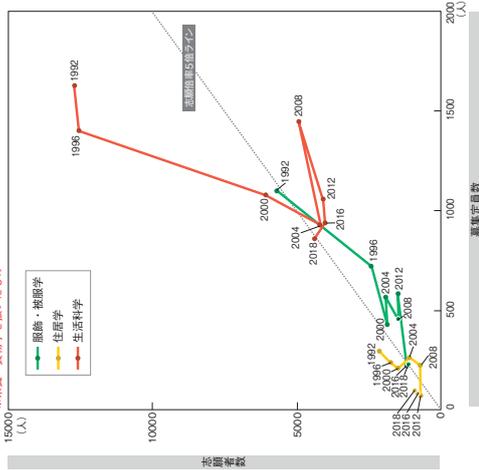
図表 2-8 社会・マスコミ系統の動向



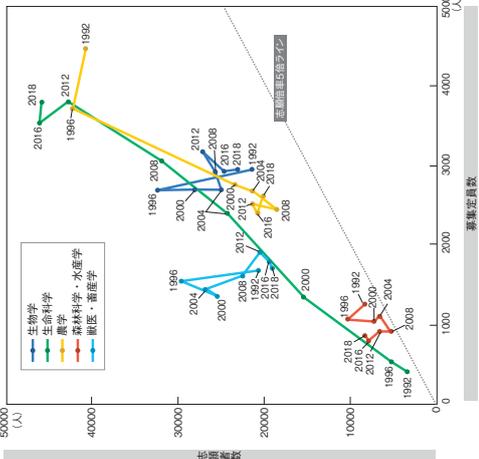
図表 2-8a 社会・マスコミ系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※社会学を抜いたもの



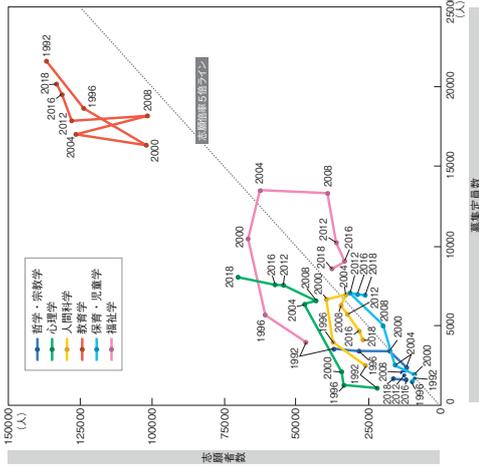
図表 2-6a 家政・生活系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※栄養・食科学を抜いたもの



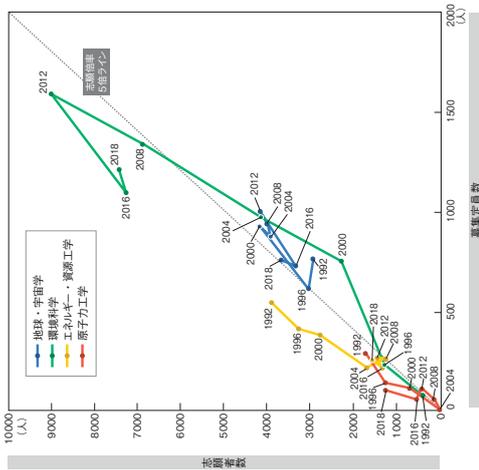
図表 2-7 生物系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



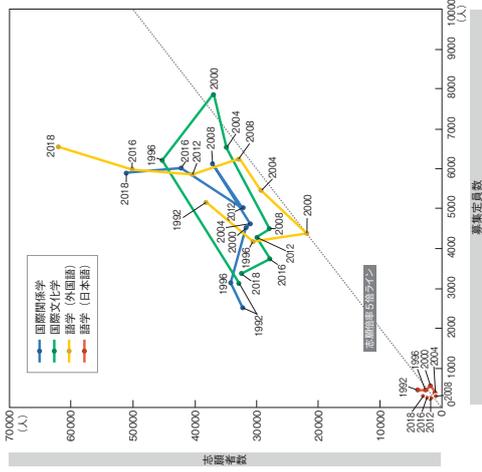
図表 2-9 人間・心理・教育・福祉系統の動向



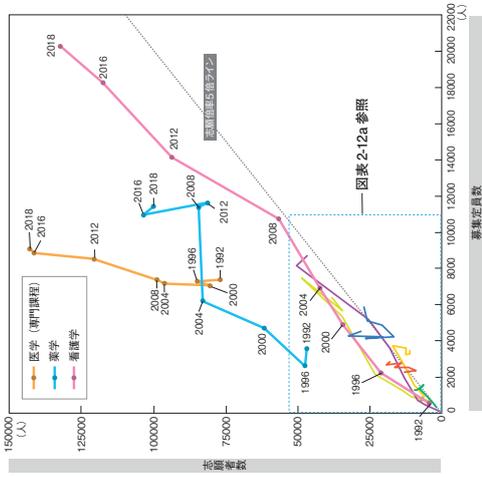
図表 2-10 地球・環境・エネルギー系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



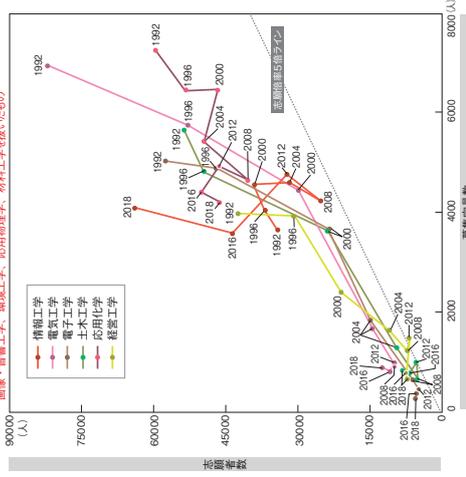
図表 2-11 国際・語学系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※国際系(国際系、国際文化学、国際言語学、国際英語学、国際日本語学)  
 ※語学系(外国語学、日本語学(日本語))



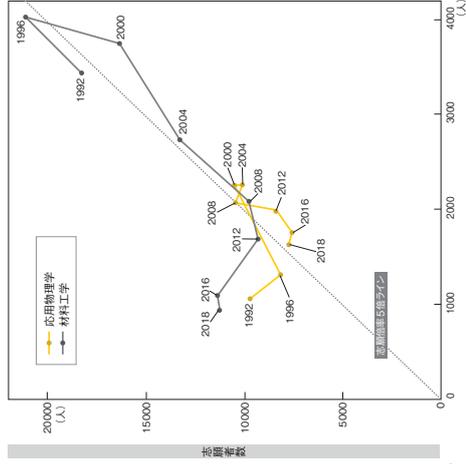
図表 2-12 スポーツ・健康・医療系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※医学系(医学(専門課程)、薬学、看護学)



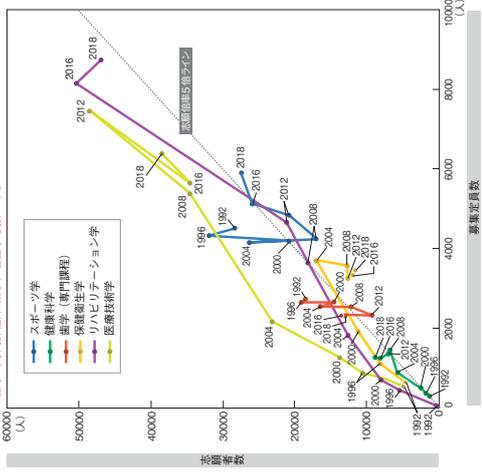
図表 2-13a 工学・建築・技術系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※情報系(情報工学、電気工学、電子工学、システム工学、ソフトウェア工学、情報デザイン)  
 ※機械系(機械工学、航空工学、船舶工学、宇宙工学、航空宇宙工学、航空宇宙デザイン)  
 ※土木系(土木工学、建築工学、都市工学、都市デザイン)



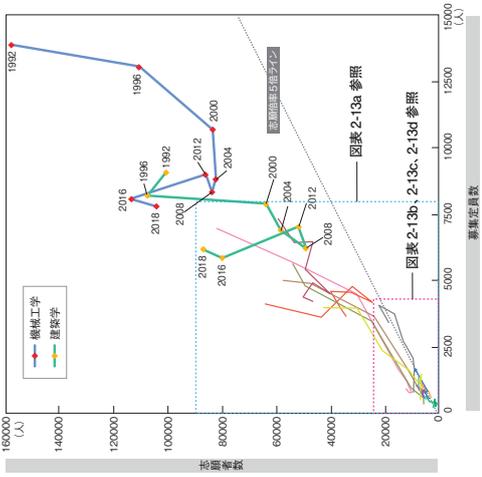
図表 2-13b 工学・建築・技術系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※応用物理系(応用物理学、材料工学)



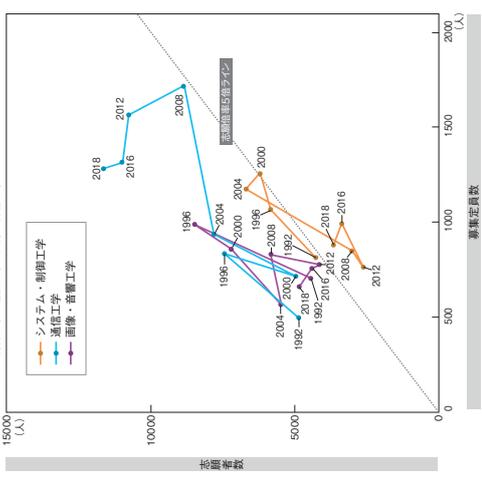
図表 2-12a スポーツ・健康・医療系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※医学系(医学(専門課程)、薬学、看護学を扱いたくないもの)



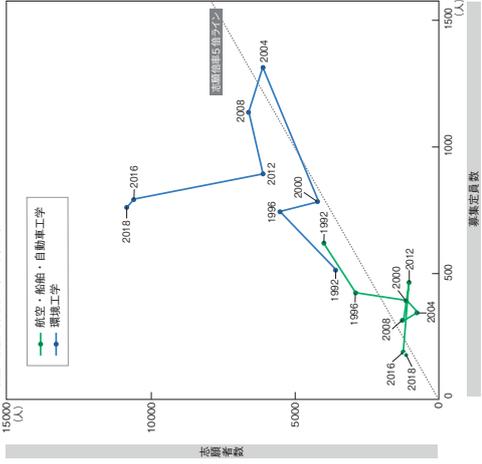
図表 2-13 工学・建築・技術系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※システム系(システム工学、制御工学、画像工学、音響工学)  
 ※航空系(航空工学、船舶工学、宇宙工学、航空宇宙工学、航空宇宙デザイン)  
 ※土木系(土木工学、建築工学、都市工学、都市デザイン)



図表 2-13c 工学・建築・技術系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※航空系(航空工学、船舶工学、宇宙工学、航空宇宙工学、航空宇宙デザイン)



図表 2-13d 工学・建築・技術系統の動向  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)  
 ※航空系(航空工学、船舶工学、宇宙工学、航空宇宙工学、航空宇宙デザイン)





人間・心理・教育・福祉系統(図表2-9)

系統内で最大のマーケットである教育学は2012年以降成熟期に入り、緩やかに市場を拡大している。心理学も1992年から概ね成長期と言え、拡大を見せ続けており、近年は定員の増加に対してやや大きな志願者増加が続いている。一方で2012年まで長きにわたる成長期にあった保育・児童学は2012年以降、人間科学は2008年以降、それぞれ撤退期に入っている。長らく市場縮小が続く福祉学は2016年より志願者数がやや持ち直し、再成長予兆期に入っている。

地球・環境・エネルギー系統(図表2-10)

マーケット規模はあまり大きくないが、近年動きが大きいの環境科学。1996年以降長く成長の一途であったが2012年を機に撤退期に入り2016年以降成熟期に転じた。地球・宇宙学、エネルギー・資源工学、原子力工学はいずれも2016年から成長期に入り、緩やかに市場を拡大しつつある。

国際・語学系統(図表2-11)

2012年以降マーケット伸長している国際関係学は再成長予兆期だが、定員は大きく増えずに志願者が増加している状態。語学(外国語)も同様の状態である。国際文化はきれいなライフサイクルを描いており、2016年から再成長予兆期に入っている。語学(日本語)は分野全体から見ると小さなマーケットではあるが、2012年から成長期に入っ

いる。

スポーツ・健康・医療系統(図表2-12、2-12a)

好調なのは、医学(専門課程)、看護学である。医学(専門課程)は成長期に入ったが、看護学は20年以上成熟期にある。薬学は2004年まで成長期、薬退期を経て再成長予兆期にあったが、2016年から再び薬退期に入った。健康促進や予防医療の文脈で学際化が増えているスポーツ学は、単独で見ても2008年以降成長期にあったが、現在は成熟期だ。健康科学は長らく成長期にあったが2008年以降はやや鈍化。歯学(専門課程)は2012年以降志願者が増加し、2016年以降やや減少。

比較的好調な系統が多い中、相対的に不調と言えるのは、2004年以降衰退・撤退期を行き来している保健衛生学、同じく薬退期にあるリハビリテーション学である。

工学・建築・技術系統(図表2-13、2-13a、2-13b、2-13c、2-13d)

1992年時点が最大の志願者数で減少トレンドという系統が多い中、好調なのは情報工学である。2016年以降成長期に入り、志願者も2016年4.3万人→2018年6.4万人と2万人増加している。建築学も2016年以降成長期に入っている。

単独分野の志願者数の動向(2008-2012、2015-2018)

このようにライフサイクル図を見ると、系統・分野のトレンドは社会情

勢を反映したものであることが分かる。では近年のトレンド全体像はどうなっているのか。まずは単独分野について見てみたい。

直近の4年間(2015-2018年)で志願者数の増減が大きい学科系統分野を図表3に示した。比較対象として2008-2012年の内容を左側に置いた。左列は2008年にリーマンショック、2011年に東日本大震災もあり、景況が悪化し、大卒求人倍率が低迷した時期である。そのため、高校生の進路選択が保守的になり、資格取得が仕事に直結する学問分野が志願者を集めた。右列は、2012年安倍政権発足以降のアベノミクスによる景気回復により就職状況が改善した社会科学系、Society5.0で注目を集める電気電子や情報、ロボティクスといった分野、東京五輪需要に沸く建築土木関係等に関係する学部・学科に人が集まり、トレンドの入れ替わりが起きている。

減少においても同様に変化が見られる。2015-2018の志願者減少上位は薬学、栄養・食物学、保育・児童学、リハビリテーション学といった資格取得を軸にした分野のほか、機械工学、化学、農学といった分野であるが、いずれも他分野と融合し、新たに複合分野として発展を見せているものが多い。現実的に学際化が難しい国家資格系の学問分野を除き、単独分野だけでは志願者等の観点から厳しくなっている分野をどのように組み合わせて改組するかという点も注目される。

2章 複合分野のトレンド分析

本章では複合分野について考察を深めたい。

単独分野と複合分野のシフト推移(1992-2018)

まず単独分野と複合分野の比率であるが、設置数の比率を図表4に示した。募集定員比率では単独分野:複合分野は概ね7:3、志願者比率では75:25となっており、単独分野の比率が高いが、過去からの推移で見ると複合分野が増加、単独分野が減少傾向にある。

マーケットシェアを徐々に高める複合分野だが、その実態はなかなか見えにくい。文部科学省の学校基本調査上でも既存の系統分類に合わないといわれたものは大分類の「その他」または系統別の中分類「その他」に多

く分類されているが、その内容は多岐に渡る。大分類「その他」だけで1つの大分類として成り立つ分量であり、かつ、各系統の中分類としても「その他」が存在するのだ。もちろんその全てが小誌で扱う「複合」とは限らないが、複合的な分野は既存の系統に当てはまりづらく、把握が難しいのは確かである。

複合分野の志願者数の動向(2008-2012、2015-2018)

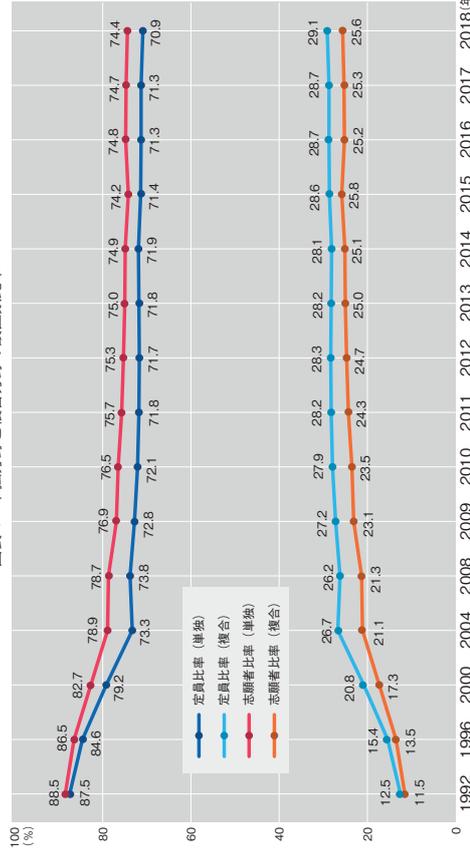
まず、1章で単独分野の志願者数の動向を見たように、複合分野についてもトレンドを見てみたい。図表5は、2008-2012年と2015-2018年それぞれの際に志願者数が増加した複合分野の上位20位を表したものだ。もともとその学科が持っていた分野

がA分野、新たに追加された分野がB～F分野である。表中の色分けは、オレンジが同じ期間における単独分野の志願者数増加上位20位、ブルーが同じく志願者数減少上位20位を示している。

2008-2012年は1位スポーツ×健康科学(2008→2012年で1万1156人増)、2位社会学×コミュニケーション学×マスコミ学×メディア学(1万621人増)、3位教育学×保育・児童学(7479人増)と、関連周辺領域での複合が上位に並んだ。1位は設置数29件のうち新増設19件、3位は41件中22件が新増設と、いずれも新設学科が牽引したマーケットであった。

2015-2018年は、1位日本文学×外国文学(2015→2018年で9018人増)、2位システム・制御工学×情報工学×

図表4 単独分野と複合分野の設置数比率



図表5 複合分野の志願者数増加ランキング(もともとその学科が持っていた分野がA分野、新たに追加された分野がB～F分野)

順位	2008年～2012年志願者増加						2012年設置数	2008～2012年設置数
	A分野	B分野	C分野	D分野	E分野	F分野		
1	スポーツ学	健康科学	コミュニケーション学	メディア学			11156	19
2	社会学	栄養・食物学	コミュニケーション学	メディア学			10821	1
3	教育学	健康科学					7479	41
4	建築学	環境工学					6484	12
5	電気工学	健康科学	情報工学				5799	10
6	電気工学	電子工学					5011	46
7	社会学	国際関係学					4548	7
8	社会学	物理学					4484	18
9	栄養・食物学	健康科学					3753	34
10	経済学	経営学					3468	18
11	社会学	情報学					3461	16
12	日本文化学	スポーツ学					3386	4
13	教育学	健康科学					3384	6
14	人間科学	健康科学					3285	5
15	化学	生命科学					3108	8
16	健康科学	栄養・食物学					3004	2
17	物理学	生命科学	応用化学	健康科学			2711	1
18	社会学	経営学		電気工学			2638	1
19	情報工学	情報学					2586	20
20	情報学	情報工学					2570	11

通信工学(6679人増)、3位情報学×情報学(5987人増)、4位経営学×電子工学(5927人増)と続く。いずれも設置数に占める新増設の比率が低いという特徴がある。つまり、改めて設置したのではなく既存領域として存在していたものが、社会ニーズの変化等に呼応して注目されているということだ。上位5位中3つの複合で情報系が登場しているのもその証左となろう。

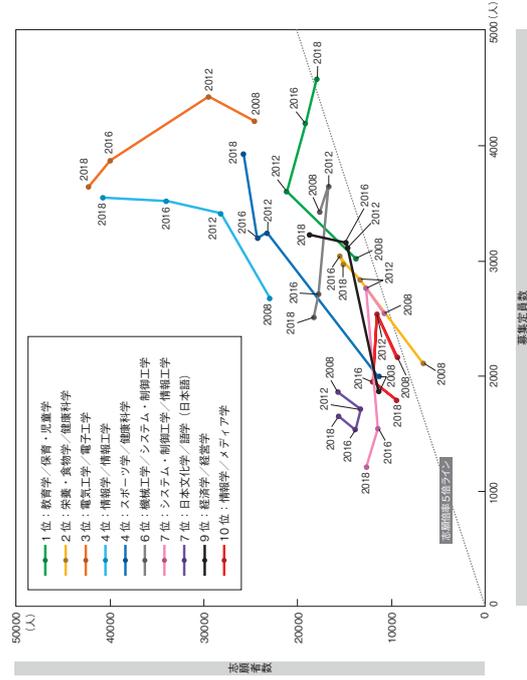
データサイエンスに特化した大学は、も様変わりしつつある。そうした教育との接続の意味でも、大学においてこれまでになかった領域の開発や既存分野の組み合わせが志向されるのは当然とも言える。以上が志願者数から見た複合分野のランキングである。

図表6 2018年複合分野設置数ランキング

順位	A分野	B分野	設置数	新増設	志願者数	志願倍率
1	教育学	保育・児童学	52	4	18087	3.9
2	栄養・食物学	健康科学	41	-	14895	5.0
3	電気工学	健康科学	40	1	42252	11.6
4	情報学	情報工学	36	1	40719	11.5
5	スポーツ学	健康科学	36	2	25644	6.5
6	機械工学	システム・制御工学	32	3	18282	7.3
7	システム・制御工学	情報工学	23	1	12860	10.5
8	日本文化学	教育学	23	-	15687	9.5
9	経済学	経営学	22	2	18738	5.8
10	情報学	メディア学	21	-	9528	5.3

データサイエンスに特化した大学は、も様変わりしつつある。そうした教育との接続の意味でも、大学においてこれまでになかった領域の開発や既存分野の組み合わせが志向されるのは当然とも言える。以上が志願者数から見た複合分野のランキングである。

図表7 【複合分野のライフサイクル】設置数:2018年上位10位



データサイエンスに特化した大学は、も様変わりしつつある。そうした教育との接続の意味でも、大学においてこれまでになかった領域の開発や既存分野の組み合わせが志向されるのは当然とも言える。以上が志願者数から見た複合分野のランキングである。

設置数上位の複合学部の  
ライフサイクル

次に、編集部では、最近特設置数が多い複合分野の変遷を視覚的に追うことができず、1章に徹して設置数上位の組み合わせについて図表化を試みた。まず図表は、2018年の複合学科学設置数上位10位を、それぞれのライフサイクルをまとめて図表7に示した。それぞれ詳しく見ていきたい。

設置数1位 教育学×保育・児童学 (52件)

ライフサイクル(図表7)で見ると現在衰退期であるが、募集定員は2008年3020人→2018年4581人と約1.5倍、志願者は2008年1万3765人→2012年1万8087人と約1.3倍になっている。グラフの通り、特に2008～2012年に成長した市場だ。市場を構成している大学を見ると、国立大学の教育学部が乳幼児領域を編入しているケースと、女子大学の保育領域が改組等で初等教育も包含するようになったケースが多いようである。

P.9にある通り、教育学は単独で見ると成熟期、保育・児童学は衰退期にある。衰退期にある保育・児童学に親和性の高い教育学という付加価値を付与することで成長トレンドに戻そうとしたとも見ることができそう。こうした学際において重要なのは教育コンテンツやその他リソースにおける「分野同士の親和性」であろう。

設置数2位 栄養・食物学×健康科学 (41件)

ライフサイクルで見ると2016→2018年にかけて撤退期に入っているが、定点で見ると募集定員は2008年2100人→2018年2980人、志願者は2008年6662人→2018年1万4895人と大きく拡大した。既知の通り、「栄養・食物学」は管理栄養士や栄養士といった資格取得を軸にしたマーケティングであるが、P.8にある通り単独では衰退期にある。その一方で健康科学と複合化し、マーケティングを広げているのである。高齢社会を見据え、健康維持促進と食を掛け合わせたマーケティングで、極めて蓋然性が高い組み合わせと言えらるだろう。

設置数3位 電気工学×電子工学 (40件)

2012年から再成長予兆期に入っている分野。募集定員は2008年4214人→2018年3640人と減少するも、志願者は2008年2万4485人→2018年4万2252人と大きく拡大した。電気工学は単独では成長期、電子工学は再成長予兆期であり、単独も複合も市場拡大の兆しが見える。

設置数4位 情報学×情報工学／スポーツ学×健康科学(36件)

まず情報学と情報工学の複合分野は、2008年から長らく成長期である。募集定員は2008年2681人→2018年3553人、志願者は2008年2万3007人→2018年4万719人と大きく拡大した。次にスポーツ学と健康科学の複合

分野は概ね右肩上がりに市場を拡大し、現在は成長期である。募集定員は2008年1985人→2018年3931人と1.9倍、志願者は2008年1万1410人→2018年2万5644人と2.25倍にも拡大した。

設置数6位 機械工学×システム・制御工学(32件)

再成長予兆期に入っている分野。募集定員は2008年3414人→2018年2508人と減少する一方、志願者は2008年1万7395人→2018年1万8282人と微増している。過去の水準を見ても、志願者が乱高下するようなフェーズはなく、粛々と進んでいる分野だ。なお、単独で見ると機械工学は撤退期、システム・制御工学は再成長予兆期にある。

設置数7位 システム・制御工学×情報工学／日本文学×言語(23件)

まずシステム・制御工学と情報工学の複合は再成長予兆期にある。募集定員は2008年2537人→2018年1211人と約半減、志願者は2008年1万779人→2018年1万2660人と増加している。いずれも第4次産業革命に大きく関連する分野であるがゆえに、どちらの分野も他の複合パターンでよく見られるようになっており、様々な複合パターンに分散傾向であることが推察される。

次に、日本文学と言語(日本語)の複合である。2016年から成長期に入っている分野だが、募集定員は2008年1856人→2018年1647人、志

願者は2008年1万5655人→2018年1万5687人と大きな変化はない。変動は少ないが常に同じ規模のマーケットを維持している分野と言えるだろう。

設置数9位 経済学×経営学(22件)  
成長期にある複合分野。募集定員は2008年1864人→2018年3229人、志願者は2008年1万1189人→2018

3章 学部・学科改編のマーケット・トレンド

本章では、学部・学科改編、いわゆる新増設の動向を見ていきたい。

まずは認可・届出件数の動向についてだが、2000年以降の認可・届出件数は志願倍率の推移を示したのが図

年1万8738人と大きく拡大した。サイクル図の通り、2008→2012年よりも2016→2018年の成長幅が大きく、戦後最大の景気回復期の進捗に合わせて市場が形成されている様子が垣間見える。

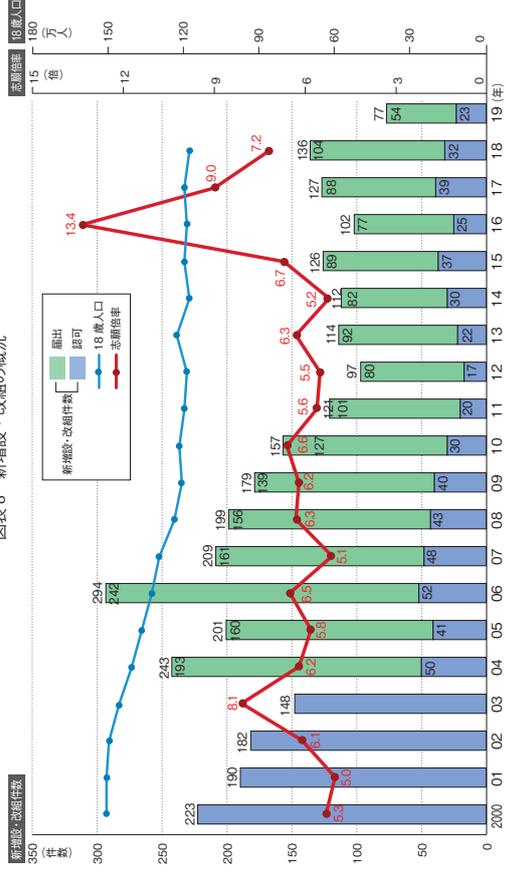
設置数10位 情報学×メディア学 (21件)  
トレンドとしては撤退期に入っ

表8である。周知の通り、2004年の届出制導入により認可・届出件数は増加し、全体の8割を届出が占める。届出は明らかに大学の学部・学科の新設代辦を促進したが、その一方で、昨今の

いる分野。募集定員は2008年2157人→2018年1787人と減少、志願者は2008年9415人→2018年9528人と概ねイーブンとなっている。推移で見ると2008→2012年に伸びたがその後は縮小トレンドである。単独で見ると情報学は再成長予兆期、メディア学は成長期にあり、複合より単独の方が成長している分野といえる。

大学設置分科会からは「準備不足や安易な申請が目立つ」といった指摘もある。2016年度開設分から審査スケジュールが従来より前倒しとなり、2018年度には専門職大学・短期大学

図表8 新増設・改組の概況



・1 18歳人口は日本統計学会「全国短期大学専修学校一覧」を基に編集部集計。2011～2014は文科科学集計。  
・2 新増設・改組件数は1991～2000は(財)文部科学省「国立大学設置審議会」報告書、設置申請データベース。  
・3 新増設・改組件数は「リクルート入試要綱調査」を基に、大学新設、学部・学科改組による新増設・改組件数を集計。

図表9 単独分野の新増設・合計設置数ランキング (2008-2018年)

順位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2018	2015-2018
学系系統(小)名称	設置数	平均倍率											
1 看護学	9	11	11	8	8	8	16	16	6	12	13	118	6.7
2 医療技術学	8	6	13	5	7	11	6	2	6	7	4	75	6.2
3 リハビリテーション学	9	6	4	12	4	7	1	9	5	6	6	69	4.7
4 心理学	6	6	5	2	5	2	6	4	3	5	9	55	6.8
5 経営学	9	7	1	6	4	4	7	3	4	4	3	52	6.9
6 保育・児童学	7	7	8	4	2	2	3	4	4	7	3	42	4.3
7 教育学	4	5	2	2	2	2	4	4	7	5	3	40	11.6
8 栄養・食物学	5	-	5	3	3	-	3	2	3	3	3	30	7.0
9 語学(外国語)	5	2	2	2	2	2	4	-	1	2	5	27	6.4
10 福祉学	8	1	3	2	3	2	1	2	2	-	-	24	3.1
11 デザイン	3	3	2	2	-	1	1	3	1	3	-	19	6.2
12 社会学	3	1	3	1	1	2	1	4	-	1	2	19	11.5
13 経済学	4	3	1	1	-	2	1	2	-	1	2	17	8.7
14 国際関係学	1	1	1	1	-	1	2	2	3	4	1	17	6.8
15 建築学	2	3	-	3	-	-	1	1	2	3	3	17	7.7
16 機械工学	3	1	2	-	-	1	1	1	2	2	2	15	10.9
17 生命科学	5	1	2	-	2	-	-	-	1	3	-	14	14.3
18 美術	1	-	4	1	3	-	2	-	1	1	-	13	4.4
19 総合政策学	1	-	1	3	2	-	1	-	-	2	2	12	7.4
20 観光学	3	-	2	1	-	1	-	2	-	1	2	12	5.2

※平均倍率は、公表のみ集計 ※リクルート入試要項調査より、私大のみ

図表10 複合分野の新増設・合計設置数ランキング (2008-2018年)

順位	A分野	B分野	C分野	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2018	2015-2018		
				設置数	設置数	平均倍率												
1 教育学	保育・児童学			7	4	4	4	3	2	3	-	1	2	4	4	94	5.1	
2 スポーツ学	健康科学			7	2	2	2	4	4	1	2	-	4	2	28	7.3	7.1	
3 栄養・食物学	健康科学			5	4	3	2	-	2	2	2	-	2	-	23	3.9	5.1	
4 情報学	情報工学			-	4	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	15	8.5	10.1
5 機械工学	システム・制御工学			4	2	1	1	1	1	-	-	2	-	3	15	4.7	6.9	
6 電気工学	観光学			2	4	1	-	1	3	-	1	1	1	-	13	3.3	3.2	
7 経営学	電子工学			5	-	1	-	2	1	1	1	1	1	1	13	6.3	10.1	
8 経済学	物理学			1	4	-	-	1	1	1	1	1	1	2	12	9.6	10.5	
9 社会学	経営学			-	4	-	-	1	3	1	-	-	-	2	12	5.5	5.2	
10 システム・制御工学	情報工学			3	1	1	1	2	1	-	1	1	1	1	11	4.4	8.7	
11 デザイン	建築学			-	-	-	-	1	-	-	1	4	2	1	9	6.0	9.0	
12 情報工学	電気工学	電子工学		1	2	-	1	-	3	-	1	1	1	1	8	9.3	9.1	
13 生命科学	応用化学			1	2	-	2	-	-	-	-	-	1	-	7	3.7	4.5	
14 社会学	人間科学			2	-	-	1	-	-	1	1	-	-	2	7	3.3	4.0	
15 情報学	メディア学			3	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	7	4.4	5.6	
16 人間関係学	教育学			3	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	7	3.7	3.4	
17 教育学	スポーツ学			2	2	-	1	-	1	1	-	-	-	1	7	4.7	5.5	
18 土木工学	環境工学			-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	7.1	9.9	

※平均倍率は、専任職員・志願者数が公表のみ集計 ※リクルート入試要項調査より

の新設認可も加わったが、その認可率の低さとともに、こちらも「制度創設初年度であるものの、総じて準備不足で法人として大学設置に取り組み体制が不十分」という指摘がなされており、厳格化ムードが一層強まっている。

次に志願倍率である。大きく上昇した年は大規模大学の増設に伴うもので、下降する年も個別の理由によるものであろうが、概ね50〜80倍の幅で推移しており、高校生は新しい学部学科を好意的に見ているようである。では昨今人気のある分野について見ていこう。

### 単独分野の新増設トレンド (2008-2018) 図表9

単独分野の新増設では、設置数トップ3が医療系で占められ、1位の看護学は設置数118と群を抜いている。毎

年一定数が設置されているが、近年は2016年を除き毎年2校の設置数となっている。2015-2018年の平均志願倍率は7.2倍と未だ高い状態だ。2位の医療技術学は設置数75件、平均志願倍率は6.3倍。3位のリハビリテーション学は69件、60倍といずれも高めの水準。上位5位までは2015-2018年の志願倍率が2008-2012年当時よりも高くなっており、順調に市場が形成されていると言えるだろう。

なお、平均倍率が100倍を超える分野に注目すると、7位教育学(11.6倍)、11位社会学(11.9倍)、14位経済学(11.2倍)、同建築学(5.5倍)、17位機械工学(5.6倍)、18位生命科学(16.0倍)、20位総合政策学(10.5倍)が挙げられる。これらは市場規模に対し定員が大幅に不足している状態とも言え、今後設置数が伸びることが予想される。ただし、大規模大学が多く設置することとで相対的に倍率が上昇するケースもある。

### 複合分野の新増設トレンド (2008-2018) 図表10

複合分野の新増設は、1位教育学×保育・児童学(34件)、2位スポーツ学×健康科学(28件)、3位栄養・食物学×健康科学(23件)、4位は情報学×情報工学と機械工学×システム・制御工学が15件ずつで並んだ。上位13位までの組み合わせでは、教育学、健康科学、情報学、情報工学、電気工学、電子工学…と、トレンドの分野が多く並ぶ。平均倍率が100倍を超える人気が、4位情報学×情報工学(101倍)、6位電気工学×電子工学(101

倍)、8位数学×物理学(105倍)が挙げられる。いずれも技術革新の期待が大きいのと思われる分野であり、まだまだ志願のニーズが高い状態にあると推察される。

本原稿執筆中に、東京理科大学と第一生命の包括連携協定が発表された。社会ニーズの高いデータサイエンスと生命医科学分野での人材育成・研究を共同で行っていくという趣旨である。特定の職種について、社会ニーズからバックキャスト的に大学での人材育成を志向する場合、これまでは大学は既存の教育組織の工夫または該当領域を新増設して対応するのが常であった。しかし、2018年11月26日に中央教育審議会より出された「2040年に向けた高等教育のフロンティアデザイン答申」においても、「大学の多様な強みを強化し、社会ニーズに迅速に対応しつつ大学教育の質保証の観点からも「大学等の連携・統合」の必要性がたわれている。社会に求められる全てを自前で対応するのではなく、共通目的を置いて協力していく動きが必要」というわけである。新しい人材育成に当たり、学部・学科新増設で内包するのではなく、他大学や企業との連携によって行っていく流れが今後どの程度加速するのか。そうした流れが加速すれば、当然学部・学科の動きだけではトレンドをつかみきれなくなってくる可能性もある。注目していきたい。

※1 STEM教育「Science Technology Engineering Mathematics」を中心とした、学部・学科・学部の教育分野の総称

※2 STEAM教育「STEM教育」に芸術(Art)を加えられた教育

## 学部別の志願者動向

増減率 順位	学部区分	学部名	平成28年度 志願者数	令和2年度 志願者数	増減率 (%)
1	社会科学系	経済経営学部	2,204	7,940	360%
2	社会科学系	国際経営学部	2,547	7,928	311%
3	社会科学系	総合経営学部	1,460	3,573	244%
4	社会科学系	現代社会学部	11,771	28,055	238%
5	その他	情報メディア学部	515	1,188	230%
6	その他	国際コミュニケーション学部	4,871	11,071	227%
7	人文科学系	心理学部	15,051	29,548	196%
8	その他	国際学部	23,860	45,697	191%
9	社会科学系	情報学部	12,240	22,907	187%
10	社会科学系	現代ビジネス学部	4,348	7,918	182%

## 心理学部の状況

学部名	平成28年度	令和2年度	増減率
志願者	15,051	29,548	196%
入学定員	2,195	2,968	135%
入学者	2,198	3,098	141%
定員充足率	1.00	1.04	
志願倍率	6.85	9.95	

※「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）より本学で作成

※平成28年度及び令和2年度の学部区分において一致する学部名を比較

近隣女子大学位置関係 (拡大図)



近隣女子大学位置関係 (広域図)



神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への  
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

令和3年3月

一般財団法人 日本開発構想研究所

# 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への高校生の入学意向に関する アンケート調査報告

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

令和4年4月に予定している神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

### (2) 調査対象高等学校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に、1府10県（兵庫県、大阪府、和歌山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、高知県）に所在する高等学校の在学者で令和4年度大学進学対象となる高校2年生の女子生徒。

### (3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心とした129校へ、アンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要を示したリーフレットを配布し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高等学校から直接郵送。

この結果、高校2年生の女子生徒8,107人から有効回答があった。

集計結果より、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への入学意向を分析した。

### (4) 調査実施期間

令和2年11月～令和3年3月

### (5) 有効回答者数

調査対象者数：高等学校129校19,844人

有効回答者数：高等学校77校8,728人の回答のうち、高校2年生の女子生徒8,107人

有効回収率：約44.0%（有効回答者8,728人÷調査対象者19,844人）

※神戸女子大学にて設置を構想している心理学部心理学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

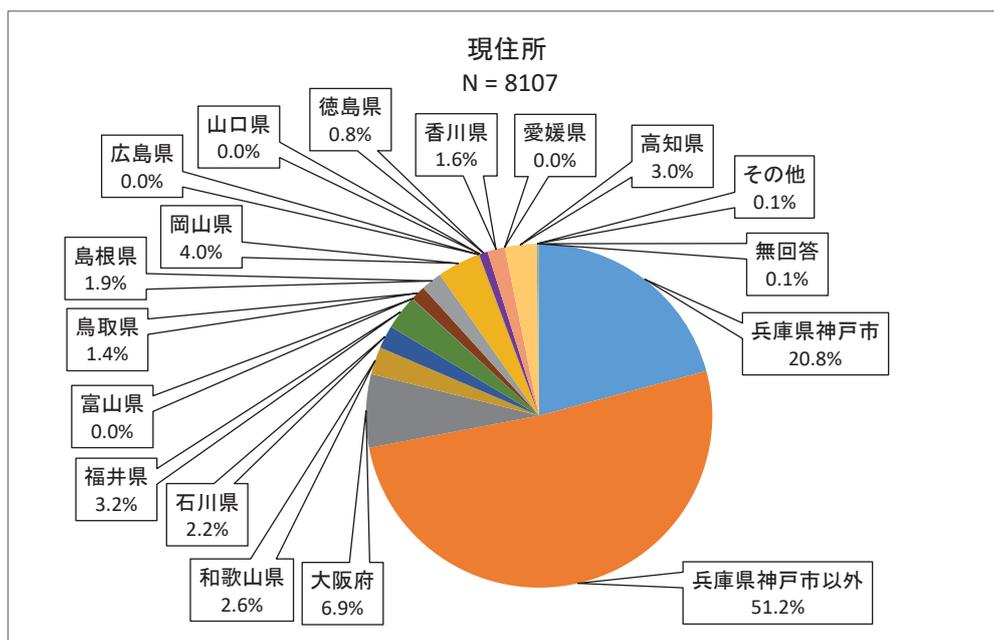
## 2. 調査結果

### (1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 8,107 人のうち、「兵庫県神戸市以外」が 4,150 人（51.2%）と最も多く、次いで「兵庫県神戸市」1,687 人（20.8%）、「大阪府」559 人（6.9%）、「岡山県」328 人（4.0%）、「福井県」263 人（3.2%）、「高知県」242 人（3.0%）、「和歌山県」211 人（2.6%）、「石川県」175 人（2.2%）、「島根県」158 人（1.9%）、「香川県」132 人（1.6%）、「鳥取県」114 人（1.4%）、「徳島県」66 人（0.8%）、「その他」8 人（0.1%）、「富山県」3 人（0.0%）、「広島県」2 人（0.0%）の順になっている。

※「無回答」9 人（0.1%）

現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	1,687	20.8
2	兵庫県神戸市以外	4,150	51.2
3	大阪府	559	6.9
4	和歌山県	211	2.6
5	石川県	175	2.2
6	福井県	263	3.2
7	富山県	3	0.0
8	鳥取県	114	1.4
9	島根県	158	1.9
10	岡山県	328	4.0
11	広島県	2	0.0
12	山口県	0	0.0
13	徳島県	66	0.8
14	香川県	132	1.6
15	愛媛県	0	0.0
16	高知県	242	3.0
17	その他	8	0.1
	無回答	9	0.1
	N ( %ベース)	8,107	100

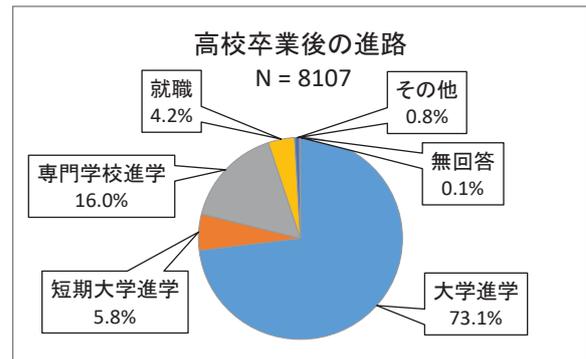


(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 8,107 人のうち、5,924 人 (73.1%) が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は 469 人 (5.8%)、合わせて 6,393 人 (78.9%) が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」1,298 人 (16.0%) を合わせると、7,691 人 (94.9%) が高等学校卒業後、進学を希望している。

※「無回答」12 人 (0.1%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	5,924	73.1
2	短期大学進学	469	5.8
3	専門学校進学	1,298	16.0
4	就職	342	4.2
5	その他	62	0.8
	無回答	12	0.1
	N ( %ベース)	8,107	100



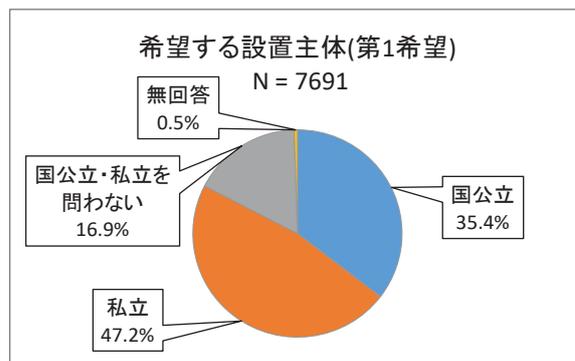
(3) 希望する設置主体について

3-1 希望する設置主体（第1希望）について

進学を希望する 7,691 人に、希望する設置主体（第1希望）について調査した結果、「私立」が 3,630 人（47.2%）と最も多く、次いで「国公立」2,723 人（35.4%）、「国公立・私立を問わない」1,301 人（16.9%）の順になっている。 ※「無回答」37 人（0.5%）

希望する設置主体(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	2,723	35.4
2	私立	3,630	47.2
3	国公立・私立を問わない	1,301	16.9
	無回答	37	0.5
	N ( %ベース)	7,691	100

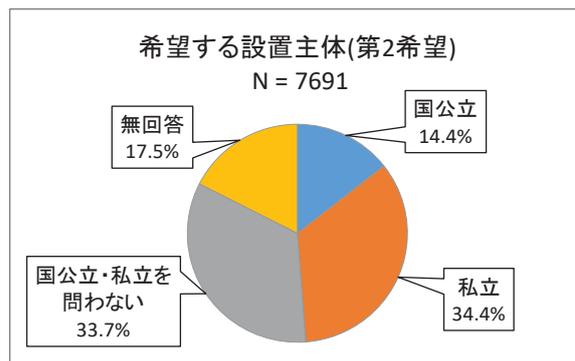


3-2 希望する設置主体（第2希望）について

進学を希望する 7,691 人に、希望する設置主体（第2希望）について調査した結果、「私立」が 2,642 人（34.4%）と最も多く、次いで「国公立・私立を問わない」2,595 人（33.7%）、「国公立」1,111 人（14.4%）の順になっている。 ※「無回答」1,343 人（17.5%）

希望する設置主体(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	1,111	14.4
2	私立	2,642	34.4
3	国公立・私立を問わない	2,595	33.7
	無回答	1,343	17.5
	N ( %ベース)	7,691	100



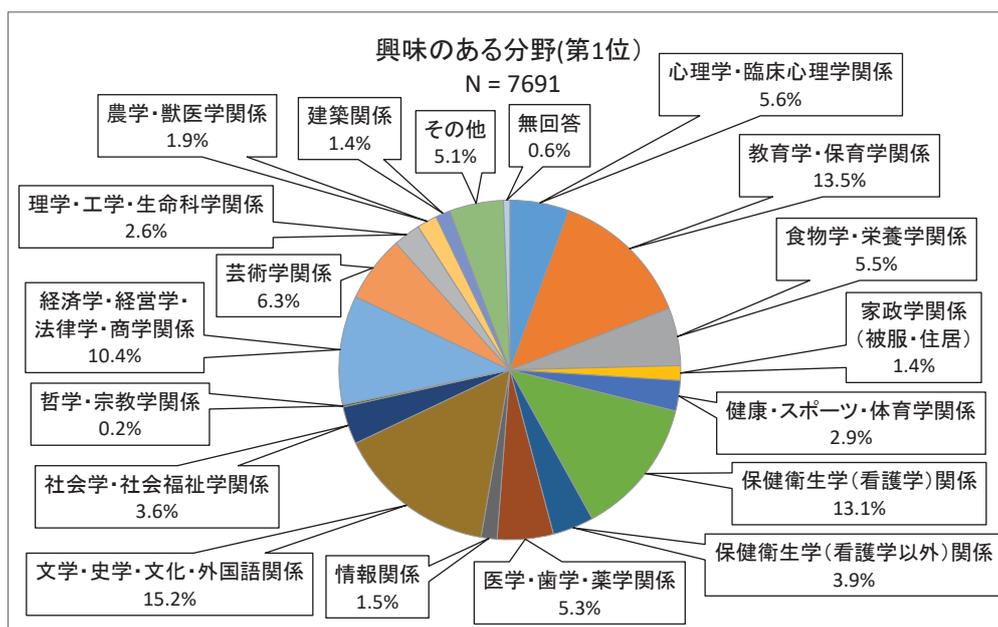
(4) 興味のある分野について

4-1 興味のある分野（第1位）について

進学を希望する 7,691 人に、興味のある分野（第1位）について調査した結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「文学・史学・文化・外国語関係」が 1,171 人（15.2%）と最も多く、次いで「教育学・保育学関係」1,039 人（13.5%）、「保健衛生学（看護学）関係」1,004 人（13.1%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」798 人（10.4%）、「芸術学関係」487 人（6.3%）、「心理学・臨床心理学関係」430 人（5.6%）、「食物学・栄養学関係」420 人（5.5%）、「医学・歯学・薬学関係」404 人（5.3%）、「その他」392 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」48 人（0.6%）

興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	430	5.6
2	教育学・保育学関係	1,039	13.5
3	食物学・栄養学関係	420	5.5
4	家政学関係(被服・住居)	111	1.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	222	2.9
6	保健衛生学(看護学)関係	1,004	13.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	300	3.9
8	医学・歯学・薬学関係	404	5.3
9	情報関係	112	1.5
10	文学・史学・文化・外国語関係	1,171	15.2
11	社会学・社会福祉学関係	276	3.6
12	哲学・宗教学関係	19	0.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	798	10.4
14	芸術学関係	487	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	200	2.6
16	農学・獣医学関係	147	1.9
17	建築関係	111	1.4
18	その他	392	5.1
	無回答	48	0.6
	N( %ベース)	7,691	100

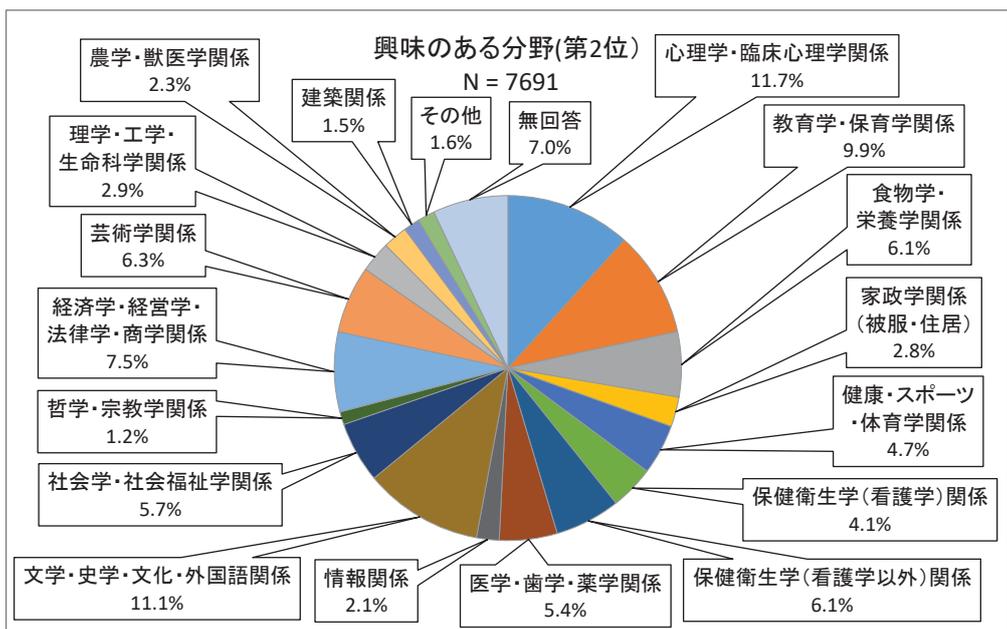


#### 4-2 興味のある分野（第2位）について

進学を希望する 7,691 人に、興味のある分野（第2位）について調査した結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「心理学・臨床心理学関係」が 901 人（11.7%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」851 人（11.1%）、「教育学・保育学関係」765 人（9.9%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」575 人（7.5%）、「芸術学関係」484 人（6.3%）、「保健衛生学（看護学以外）関係」472 人（6.1%）、「食物学・栄養学関係」470 人（6.1%）、「社会学・社会福祉学関係」440 人（5.7%）、「医学・歯学・薬学関係」412 人（5.4%）の順になっている。 ※「無回答」541 人（7.0%）

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	901	11.7
2	教育学・保育学関係	765	9.9
3	食物学・栄養学関係	470	6.1
4	家政学関係(被服・住居)	213	2.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	363	4.7
6	保健衛生学(看護学)関係	313	4.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	472	6.1
8	医学・歯学・薬学関係	412	5.4
9	情報関係	163	2.1
10	文学・史学・文化・外国語関係	851	11.1
11	社会学・社会福祉学関係	440	5.7
12	哲学・宗教学関係	94	1.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	575	7.5
14	芸術学関係	484	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	221	2.9
16	農学・獣医学関係	179	2.3
17	建築関係	113	1.5
18	その他	121	1.6
	無回答	541	7.0
	N(パーセント)	7,691	100



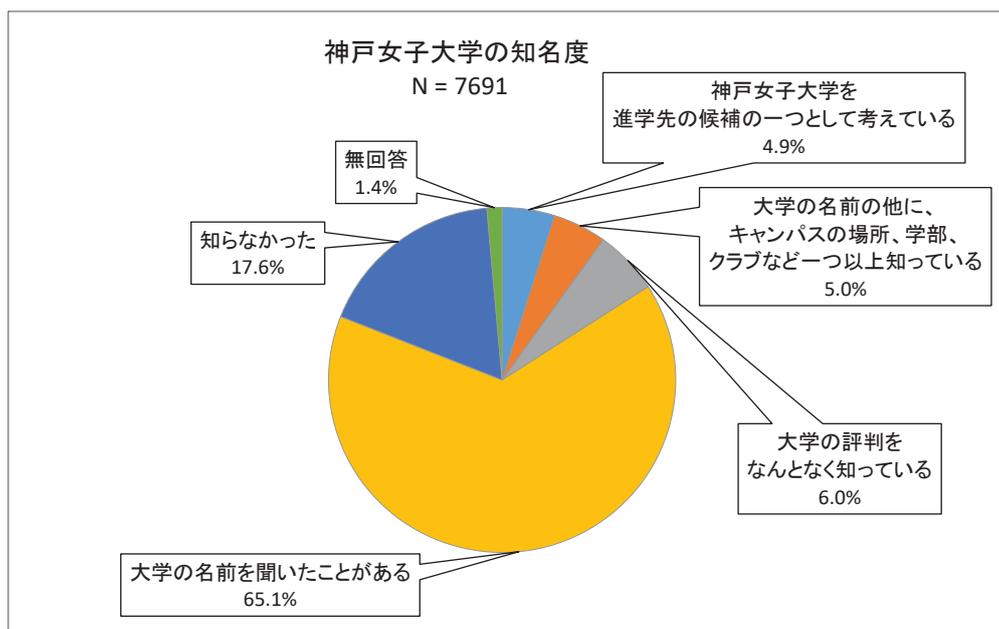
(5) 神戸女子大学の知名度について

進学を希望する 7,691 人に、神戸女子大学の知名度について調査した結果、「大学の名前を聞いたことがある」が 5,008 人 (65.1%) と最も多く、次いで「知らなかった」1,351 人 (17.6%)、「大学の評判をなんとなく知っている」465 人 (6.0%)、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」382 人 (5.0%)、「神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている」379 人 (4.9%) の順になっている。

※「無回答」106 人 (1.4%)

神戸女子大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている	379	4.9
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	382	5.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	465	6.0
4	大学の名前を聞いたことがある	5,008	65.1
5	知らなかった	1,351	17.6
	無回答	106	1.4
	N ( %ベース)	7,691	100

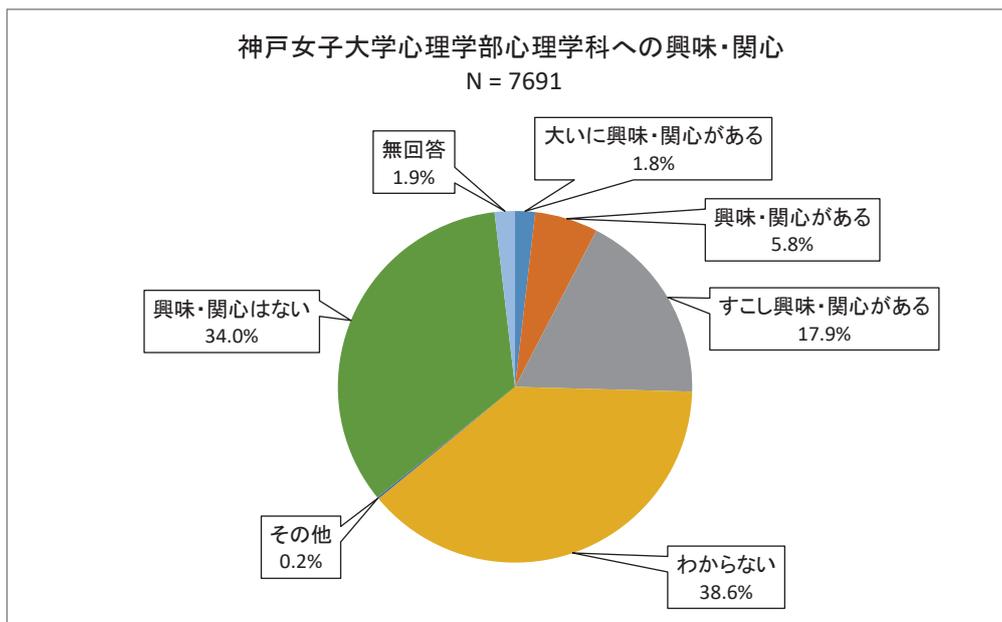


(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について

進学を希望する 7,691 人のうち、神戸女子大学心理学部心理学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 140 人 (1.8%) である。また、「興味・関心がある」444 人 (5.8%)、「すこし興味・関心がある」1,373 人 (17.9%) との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 1,957 人 (25.4%) が神戸女子大学心理学部心理学科に興味を示している。 ※「無回答」143 人 (1.9%)

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	140	1.8
2	興味・関心がある	444	5.8
3	すこし興味・関心がある	1,373	17.9
4	わからない	2,966	38.6
5	その他	12	0.2
6	興味・関心はない	2,613	34.0
	無回答	143	1.9
	N ( %ベース)	7,691	100



(7) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由について

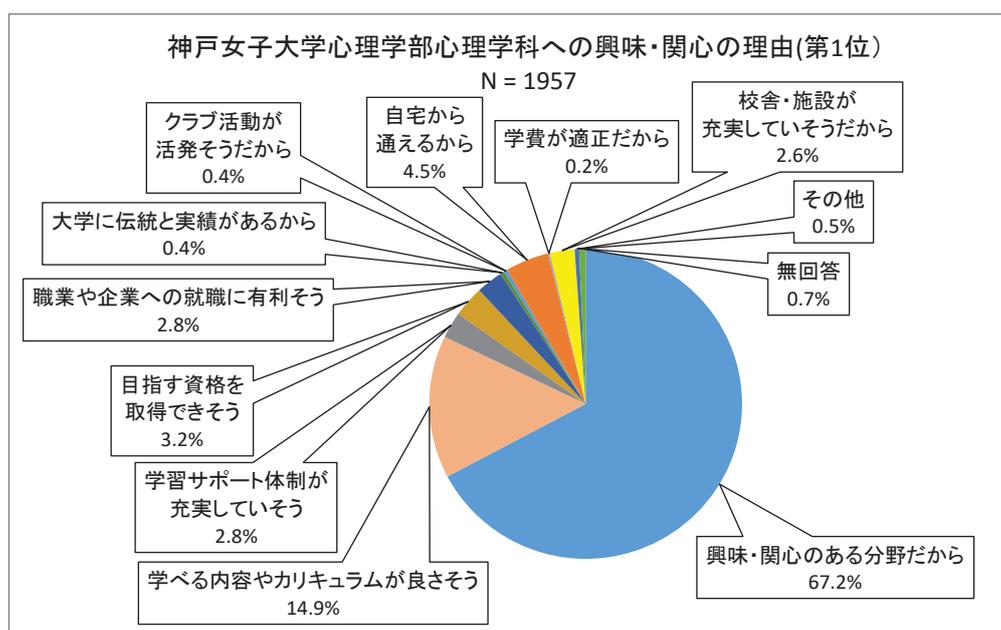
7-1 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由（第1位）について

「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答した1,957人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果、「興味・関心のある分野だから」が1,316人(67.2%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそう」291人(14.9%)、「自宅から通えるから」88人(4.5%)、「目指す資格を取得できそう」63人(3.2%)、「学習サポート体制が充実していそう」54人(2.8%)、「職業や企業への就職に有利そう」54人(2.8%)、「校舎・施設が充実していそうだから」50人(2.6%)、「その他」9人(0.5%)、「大学に伝統と実績があるから」8人(0.4%)、「クラブ活動が活発そうだから」7人(0.4%)、「学費が適正だから」4人(0.2%)の順になっている。 ※「無回答」13人(0.7%)

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	1,316	67.2
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	291	14.9
3	学習サポート体制が充実していそう	54	2.8
4	目指す資格を取得できそう	63	3.2
5	職業や企業への就職に有利そう	54	2.8
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	7	0.4
8	自宅から通えるから	88	4.5
9	学費が適正だから	4	0.2
10	校舎・施設が充実していそうだから	50	2.6
11	その他	9	0.5
	無回答	13	0.7
	N(ベース)	1,957	100



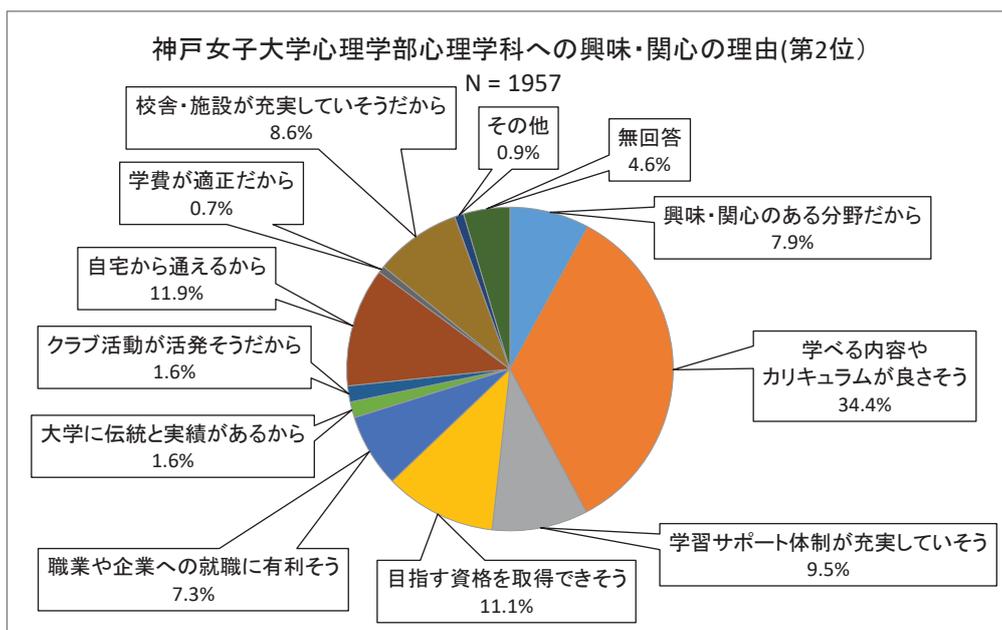
## 7-2 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由（第2位）について

「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答した1,957人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が673人（34.4%）と最も多く、次いで「自宅から通えるから」232人（11.9%）、「目指す資格を取得できそう」218人（11.1%）、「学習サポート体制が充実していそう」186人（9.5%）、「校舎・施設が充実していそうだから」169人（8.6%）、「興味・関心のある分野だから」154人（7.9%）、「職業や企業への就職に有利そう」143人（7.3%）、「大学に伝統と実績があるから」31人（1.6%）、「クラブ活動が活発そうだから」31人（1.6%）、「その他」17人（0.9%）、「学費が適正だから」13人（0.7%）の順になっている。 ※「無回答」90人（4.6%）

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	154	7.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	673	34.4
3	学習サポート体制が充実していそう	186	9.5
4	目指す資格を取得できそう	218	11.1
5	職業や企業への就職に有利そう	143	7.3
6	大学に伝統と実績があるから	31	1.6
7	クラブ活動が活発そうだから	31	1.6
8	自宅から通えるから	232	11.9
9	学費が適正だから	13	0.7
10	校舎・施設が充実していそうだから	169	8.6
11	その他	17	0.9
	無回答	90	4.6
	N( %ベース)	1,957	100



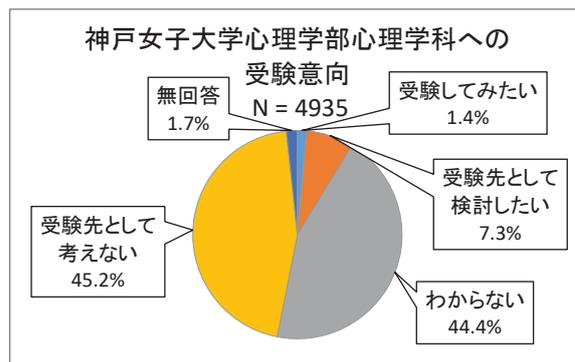
(8) 神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

進学を希望する 7,691 人のうち、「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「興味・関心はない」2,613 人と「無回答」143 人を除いた 4,935 人に、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験してみたい」69 人 (1.4%)、「受験先として検討したい」361 人 (7.3%) の合計 430 人 (8.7%) が神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向を示している。

※「無回答」82 人 (1.7%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	69	1.4
2	受験先として検討したい	361	7.3
3	わからない	2,192	44.4
4	受験先として考えない	2,231	45.2
	無回答	82	1.7
	N ( %ベース)	4,935	100



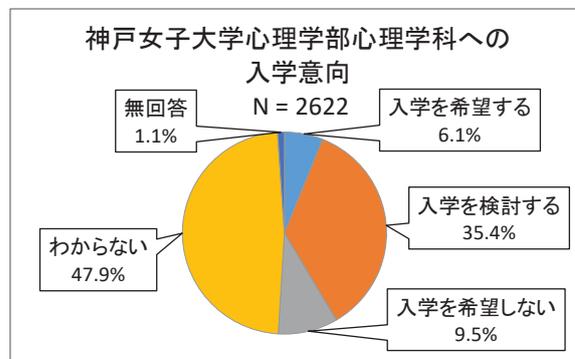
(9) 神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について

「(8) 神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について」にて、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向を示した 430 人と、「わからない」と回答した 2,192 人、合計 2,622 人に、神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果、「入学を希望する」が 160 人 (6.1%)、「入学を検討する」が 928 人 (35.4%) となり、合計 1,088 人 (41.5%) が神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向を示している。

※「無回答」30 人 (1.1%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	160	6.1
2	入学を検討する	928	35.4
3	入学を希望しない	248	9.5
4	わからない	1,256	47.9
	無回答	30	1.1
	N ( %ベース)	2,622	100



### 3. 調査結果のまとめ

「(9) 神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について」より、神戸女子大学心理学部心理学科へ「入学を希望する」と回答した高校2年生は160人いることがわかる。これによって、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員80名に対して2.0倍の入学意向を確保しているといえる。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生が、合算で1,088人いることから、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員80名に対して13.6倍の入学意向を示したといえる。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

# 調查票

# 神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）設置に係るアンケート調査

- 神戸女子大学では令和4年4月を目途に、心理学部心理学科（仮称）の設置を計画しています。このアンケート調査は、その基礎資料にするため、高校2年生の女子生徒のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
  - このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
  - 回答は、該当する番号を回答欄の  の中へ直接記入してください。
- \*内容は構想中であり、変更となる場合があります。

## 〔あなたに関することについてお答えください〕

【回答欄】

番号でご回答ください

問1 あなたの学年をおたずねします。

- 1 高校2年生                      2 その他（                      年生）

問2 あなたの性別についておたずねします。

- 1 女子                      2 男子

1を選ばれた方は問3へお進みください。  
2を選ばれた方は問12へお進みください。

問3 あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

- 1 兵庫県神戸市              5 石川県                      9 島根県                      13 徳島県                      17 その他（                      ）  
2 兵庫県神戸市以外      6 福井県                      10 岡山県                      14 香川県  
3 大阪府                      7 富山県                      11 広島県                      15 愛媛県  
4 和歌山県                      8 鳥取県                      12 山口県                      16 高知県

## 〔卒業後の進路についてお答えください〕

問4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけお選びください。

- 1 大学進学  
2 短期大学進学  
3 専門学校進学  
4 就職  
5 その他（                      ）

1、2、3を選ばれた方は問5へお進みください。  
4、5を選ばれた方は問12へお進みください。

問5 あなたはどのような設置主体の学校に進学したいですか。次の中からあてはまるものを 第2 希望までお選びください。

- 1 国公立  
2 私立  
3 国公立・私立を問わない

第1希望

第2希望

問6 あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを 第2 位までお選びください。

- |                  |                                    |     |
|------------------|------------------------------------|-----|
| 1 心理学・臨床心理学関係    | 10 文学・史学・文化・外国語関係                  |     |
| 2 教育学・保育学関係      | 11 社会学・社会福祉学関係                     |     |
| 3 食物学・栄養学関係      | 12 哲学・宗教学関係                        | 第1位 |
| 4 家政学関係（被服・住居）   | 13 経済学・経営学・法律学・商学関係                |     |
| 5 健康・スポーツ・体育学関係  | 14 芸術学関係                           | 第2位 |
| 6 保健衛生学（看護学）関係   | 15 理学・工学・生命科学関係                    |     |
| 7 保健衛生学（看護学以外）関係 | 16 農学・獣医学関係                        |     |
| 8 医学・歯学・薬学関係     | 17 建築関係                            |     |
| 9 情報関係           | 18 その他（具体的に                      ） |     |



次のページへお進みください 

ここからは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）リーフレットを  
ご覧いただいたうえでお答えください。

問 7 あなたは神戸女子大学を知っていますか。次の中から 1 だけお選びください。

- 1 神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている
- 2 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
- 3 大学の評判をなんとなく知っている
- 4 大学の名前を聞いたことがある
- 5 知らなかった

問 8 あなたは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）について、どのように考えますか。  
次の中から 1 だけお選びください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に
- 6 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい。  
4、5 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。  
6 を選ばれた方は問 12 へお進み下さい。

問 9 問 8 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方  
におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から第 2 位までお選びください。  
回答後は問 10 へお進みください。

- |                     |                     |       |                          |
|---------------------|---------------------|-------|--------------------------|
| 1 興味・関心のある分野だから     | 7 クラブ活動が活発そうだから     | 第 1 位 | <input type="checkbox"/> |
| 2 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8 自宅から通えるから         |       |                          |
| 3 学習サポート体制が充実していそう  | 9 学費が適正だから          | 第 2 位 | <input type="checkbox"/> |
| 4 目指す資格を取得できそう      | 10 校舎・施設が充実していそうだから |       |                          |
| 5 職業や企業への就職に有利そう    | 11 その他              |       |                          |
| 6 大学に伝統と実績があるから     | （具体的に               |       |                          |

問 10 あなたは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）を受験したいと思いますか。  
次の中から 1 だけお選びください。

- 1 受験してみたい
- 2 受験先として検討したい
- 3 わからない
- 4 受験先として考えない

1、2、3 を選ばれた方は問 11 へお進み下さい。  
4 を選ばれた方は問 12 へお進み下さい。

問 11 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）に合格した場合の入学意向について、次の中から 1 だけお  
選びください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 入学を希望しない
- 4 わからない

問 12 本学の心理学部心理学科（仮称）設置の計画にあたり、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせくだ  
さい。

◆ご協力ありがとうございました。

# 計画概要

# 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

## 学科の概要

開設時期：2022年4月  
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2  
 修業年限：4年  
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定  
 取得学位：学士（心理学）※予定  
 取得資格：認定心理士、情報処理士等  
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

## 設置の理念

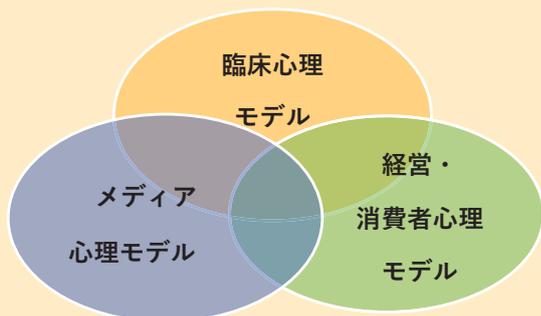
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

## 養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、興味のある進路に向けて、以下のような履修モデルがあります。



### <臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）  
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

### <経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

### <メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

## 心理学の基礎に関する科目

### <心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

## 学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。  
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。  
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

## アクセス

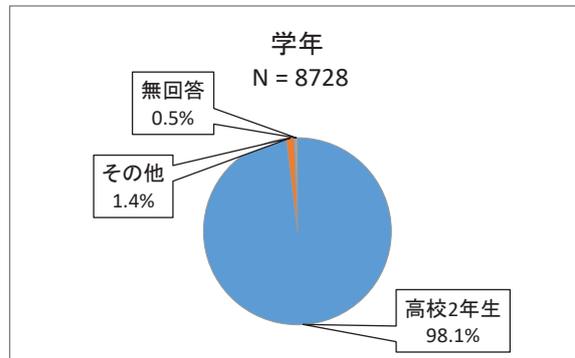


上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

# 單純集計表

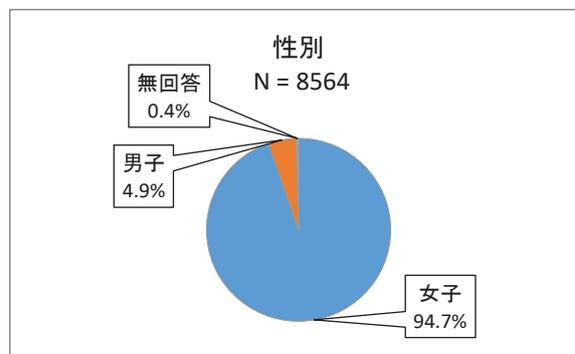
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	8,564	98.1
2	その他	118	1.4
	無回答	46	0.5
	N ( % <sup>^</sup> -ス)	8,728	100



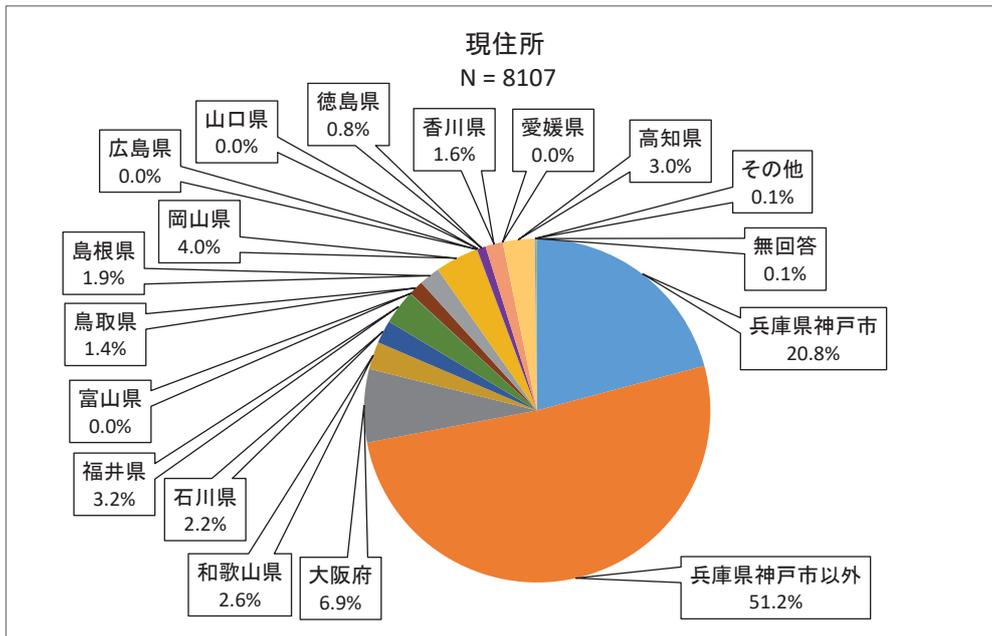
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	女子	8,107	94.7
2	男子	419	4.9
	無回答	38	0.4
	N ( % <sup>^</sup> -ス)	8,564	100



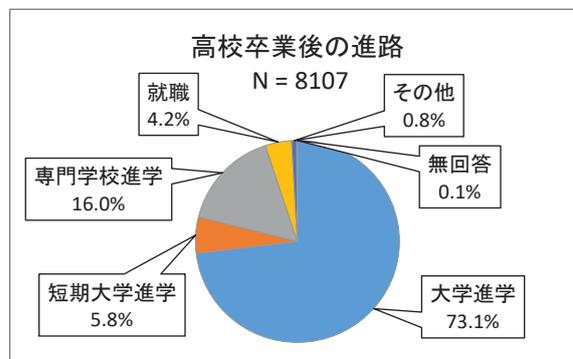
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	1,687	20.8
2	兵庫県神戸市以外	4,150	51.2
3	大阪府	559	6.9
4	和歌山県	211	2.6
5	石川県	175	2.2
6	福井県	263	3.2
7	富山県	3	0.0
8	鳥取県	114	1.4
9	島根県	158	1.9
10	岡山県	328	4.0
11	広島県	2	0.0
12	山口県	0	0.0
13	徳島県	66	0.8
14	香川県	132	1.6
15	愛媛県	0	0.0
16	高知県	242	3.0
17	その他	8	0.1
	無回答	9	0.1
	N ( %ベース)	8,107	100



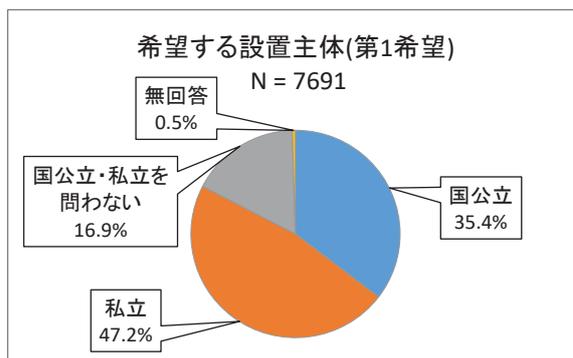
高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	5,924	73.1
2	短期大学進学	469	5.8
3	専門学校進学	1,298	16.0
4	就職	342	4.2
5	その他	62	0.8
	無回答	12	0.1
	N ( % <sup>*</sup> -)	8,107	100



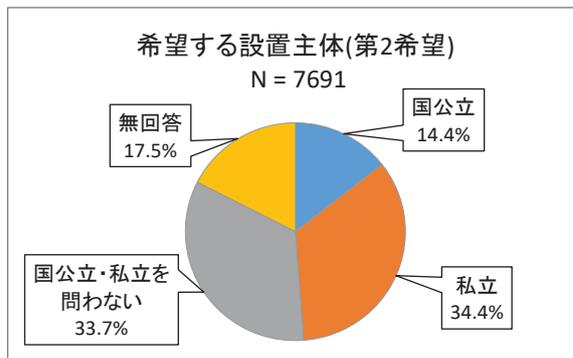
希望する設置主体(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	2,723	35.4
2	私立	3,630	47.2
3	国公立・私立を問わない	1,301	16.9
	無回答	37	0.5
	N ( % <sup>*</sup> -)	7,691	100



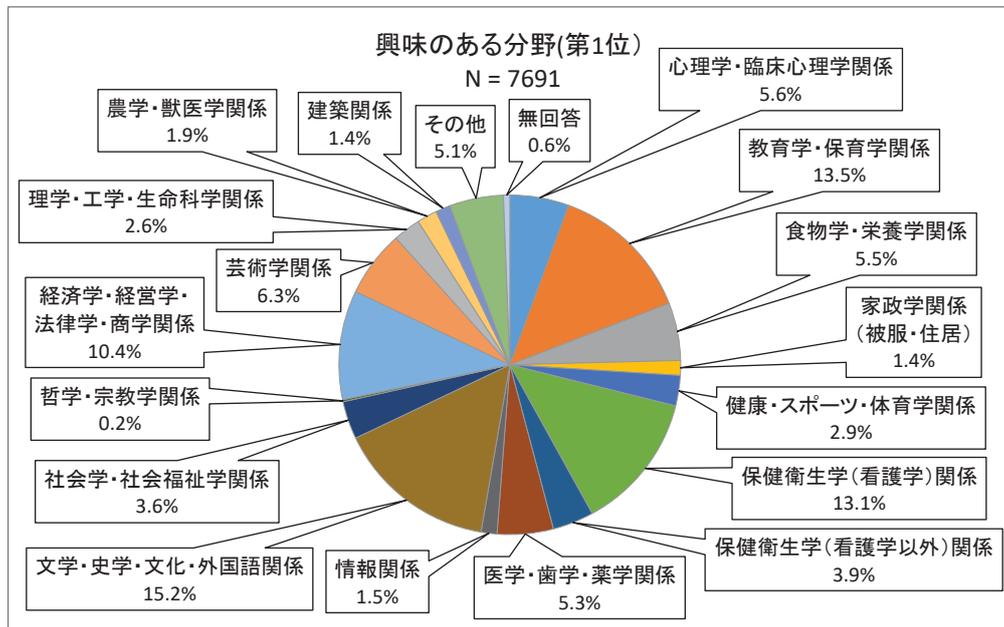
希望する設置主体(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	1,111	14.4
2	私立	2,642	34.4
3	国公立・私立を問わない	2,595	33.7
	無回答	1,343	17.5
	N ( % <sup>*</sup> -)	7,691	100



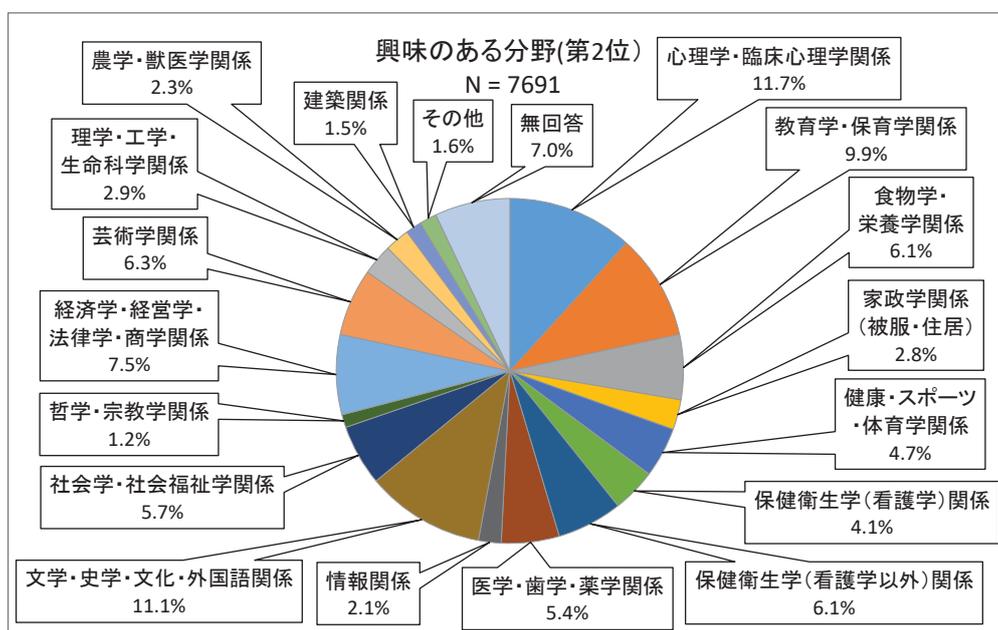
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	430	5.6
2	教育学・保育学関係	1,039	13.5
3	食物学・栄養学関係	420	5.5
4	家政学関係(被服・住居)	111	1.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	222	2.9
6	保健衛生学(看護学)関係	1,004	13.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	300	3.9
8	医学・歯学・薬学関係	404	5.3
9	情報関係	112	1.5
10	文学・史学・文化・外国語関係	1,171	15.2
11	社会学・社会福祉学関係	276	3.6
12	哲学・宗教学関係	19	0.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	798	10.4
14	芸術学関係	487	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	200	2.6
16	農学・獣医学関係	147	1.9
17	建築関係	111	1.4
18	その他	392	5.1
	無回答	48	0.6
	N(%)	7,691	100



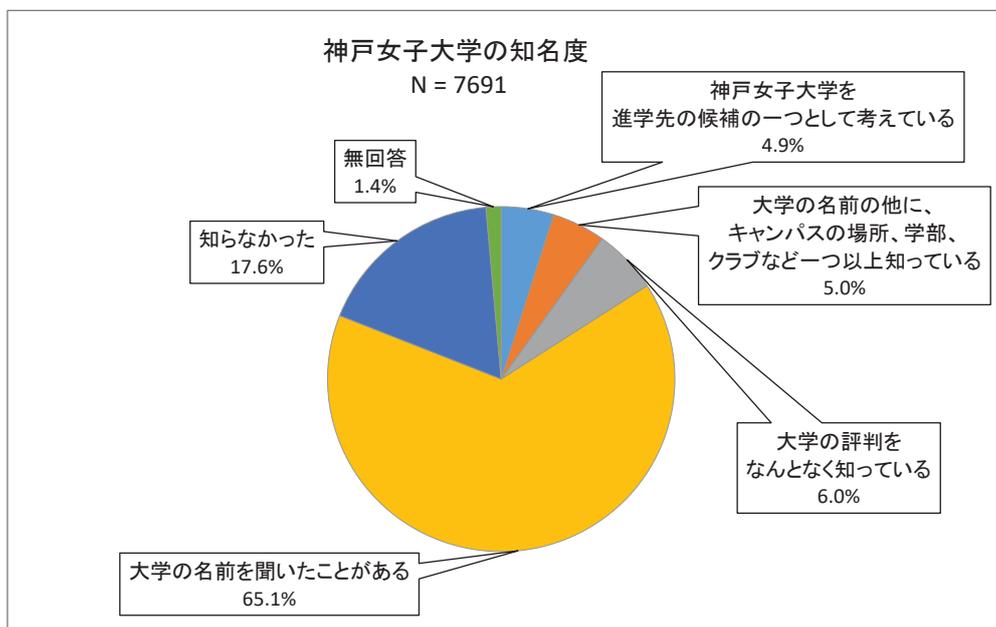
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	901	11.7
2	教育学・保育学関係	765	9.9
3	食物学・栄養学関係	470	6.1
4	家政学関係(被服・住居)	213	2.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	363	4.7
6	保健衛生学(看護学)関係	313	4.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	472	6.1
8	医学・歯学・薬学関係	412	5.4
9	情報関係	163	2.1
10	文学・史学・文化・外国語関係	851	11.1
11	社会学・社会福祉学関係	440	5.7
12	哲学・宗教学関係	94	1.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	575	7.5
14	芸術学関係	484	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	221	2.9
16	農学・獣医学関係	179	2.3
17	建築関係	113	1.5
18	その他	121	1.6
	無回答	541	7.0
	N(パーセント)	7,691	100



神戸女子大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている	379	4.9
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	382	5.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	465	6.0
4	大学の名前を聞いたことがある	5,008	65.1
5	知らなかった	1,351	17.6
	無回答	106	1.4
	N ( %ベース)	7,691	100

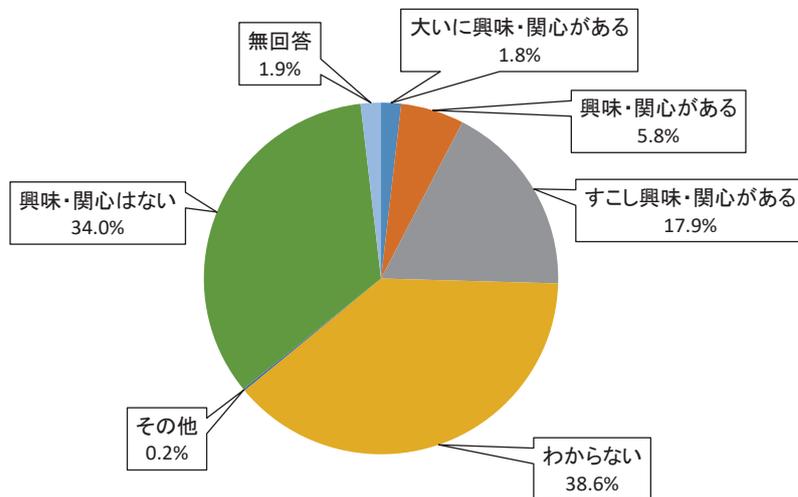


神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	140	1.8
2	興味・関心がある	444	5.8
3	すこし興味・関心がある	1,373	17.9
4	わからない	2,966	38.6
5	その他	12	0.2
6	興味・関心はない	2,613	34.0
	無回答	143	1.9
	N ( %ベース)	7,691	100

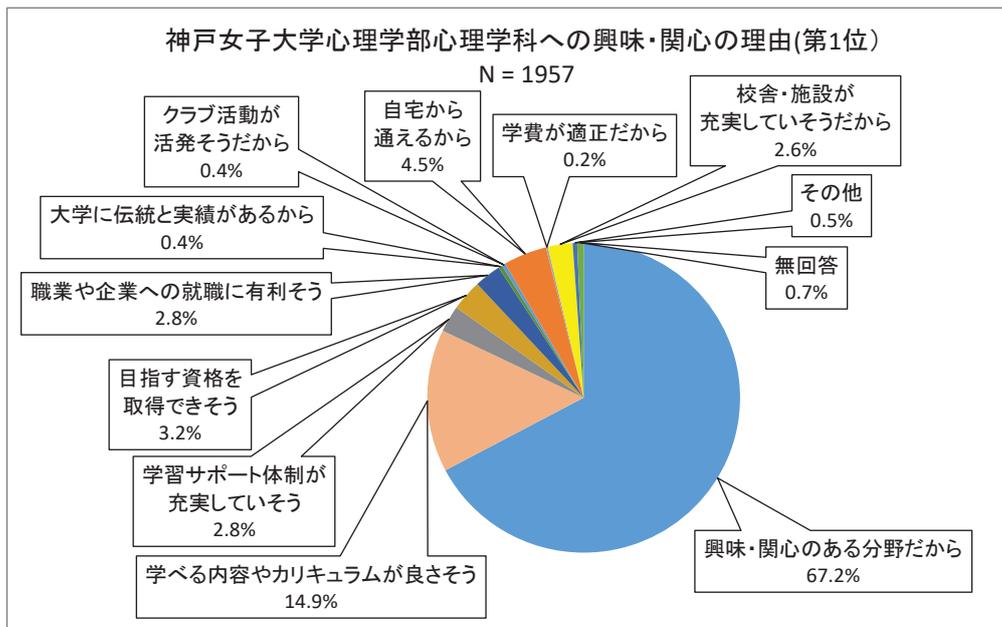
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

N = 7691



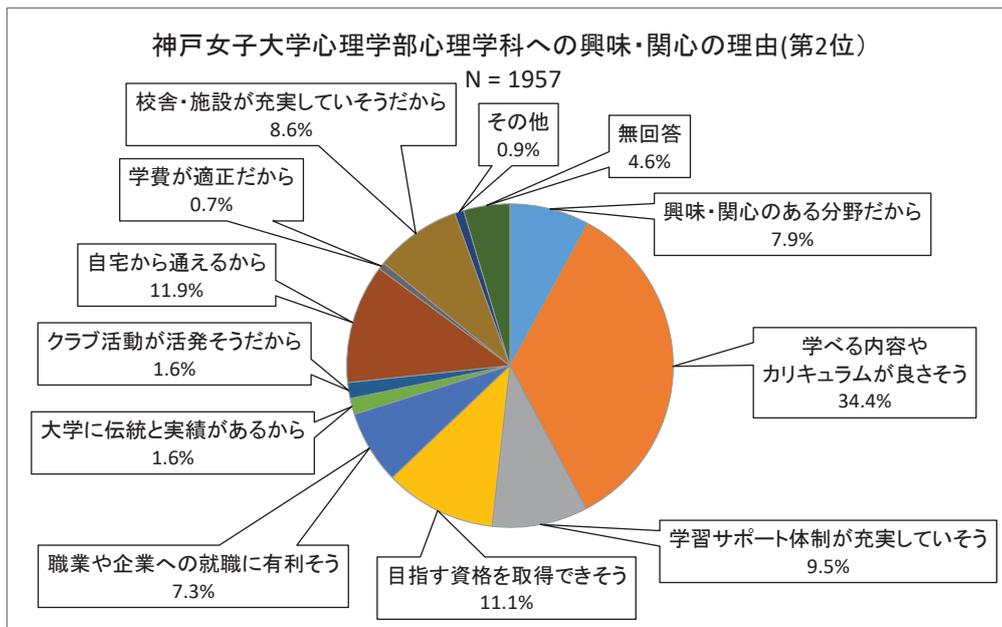
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	1,316	67.2
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	291	14.9
3	学習サポート体制が充実していそう	54	2.8
4	目指す資格を取得できそう	63	3.2
5	職業や企業への就職に有利そう	54	2.8
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	7	0.4
8	自宅から通えるから	88	4.5
9	学費が適正だから	4	0.2
10	校舎・施設が充実していそうだから	50	2.6
11	その他	9	0.5
	無回答	13	0.7
	N ( %ベース)	1,957	100



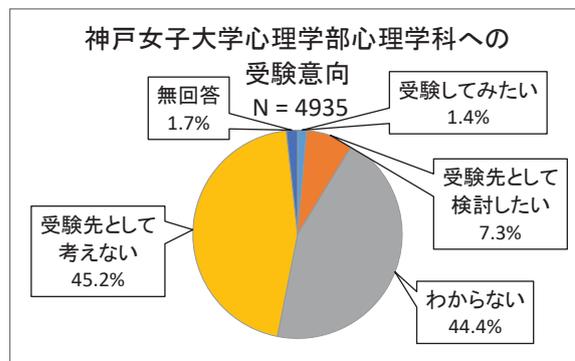
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	154	7.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	673	34.4
3	学習サポート体制が充実していそう	186	9.5
4	目指す資格を取得できそう	218	11.1
5	職業や企業への就職に有利そう	143	7.3
6	大学に伝統と実績があるから	31	1.6
7	クラブ活動が活発そうだから	31	1.6
8	自宅から通えるから	232	11.9
9	学費が適正だから	13	0.7
10	校舎・施設が充実していそうだから	169	8.6
11	その他	17	0.9
	無回答	90	4.6
	N ( %ベース)	1,957	100



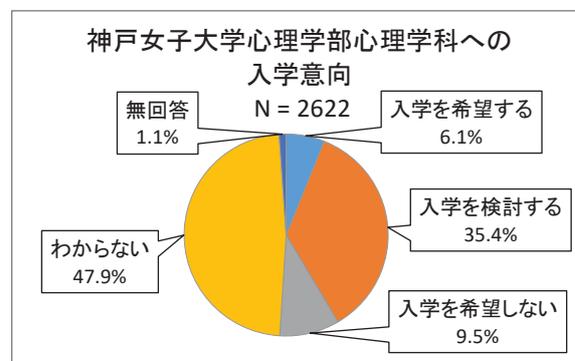
神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	69	1.4
2	受験先として検討したい	361	7.3
3	わからない	2,192	44.4
4	受験先として考えない	2,231	45.2
	無回答	82	1.7
	N ( %ベース)	4,935	100



神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	160	6.1
2	入学を検討する	928	35.4
3	入学を希望しない	248	9.5
4	わからない	1,256	47.9
	無回答	30	1.1
	N ( %ベース)	2,622	100



---

---

神戸女子大学  
「心理学部 心理学科」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【高校生対象調査】

---

---

令和3年7月  
株式会社 進研アド

# 高校生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の神戸女子大学「心理学部 心理学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		高校生対象調査	
調査対象		神戸女子大学への 資料請求者 (文学部志望者中心に抽出)	(株)進研アド保有の DMリストのうち、 文学系統志望者
調査対象者の学年		高校3年生	
調査エリア		全国	兵庫県、大阪府 京都府、滋賀県
調査方法		郵送調査	
調査 対象数	依頼数	6,603人 (資料請求者:5,974人、DMリスト:629人)	
	有効 回収数	1,474人 有効回収率:22.3%	
調査時期		2021年5月14日(金)～2021年6月2日(水)	
調査実施機関		株式会社 進研アド	

## 3. 調査項目

高校生対象調査	
<ul style="list-style-type: none"><li>・性別・学年</li><li>・高校種別</li><li>・高校所在地</li><li>・所属クラス</li><li>・高校卒業後の希望進路</li><li>・興味のある学問系統</li><li>・神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度</li><li>・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向</li><li>・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向</li></ul>	

## 高校生対象 調査結果まとめ



# 高校生対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性 (調査結果集計表:P7~P9)

※本調査は、神戸女子大学の「心理学部 心理学科」に対する需要を確認するための調査として設計。神戸女子大学への資料請求者(文学部志望者中心に抽出)と、(株)進研アドが保有するDMリストのうち、文学系統志望者の高校3年生に調査を実施し、1,474人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%、学年は「高校3年生」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「国立」が8人(0.5%)、「公立」が990人(67.2%)、「私立」が451人(30.6%)である。
- 回答者の在籍高校所在地は、神戸女子大学の所在地である「兵庫県」が578人(39.2%)で最も多い。次に隣県の「大阪府」が319人(21.6%)、「京都府」が88人(6.0%)と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が912人(61.9%)で最も多い。

## 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

(調査結果集計表:P10~11)

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が1,097人(74.4%)で最も多い。次いで「国公立大学に進学」が504人(34.2%)、「専門学校・専修学校に進学」が149人(10.1%)と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、神戸女子大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人(29.4%)で最も多い。次いで「生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学など含む)」が346人(23.5%)、「教員養成・教育学」が342人(23.2%)と続く。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

(調査結果集計表:P12~P13)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。」の1,294人(87.8%)であり、僅差で「C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。」が1,292人(87.7%)で続く。  
次いで、「B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。」が1,260人(85.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

## 神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向・入学意向

(調査結果集計表:P14)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、430人(29.2%)である。
- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた430人のうち、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、385人(89.5%)である。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向者数

(調査結果集計表:P15)

※ここからは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向者は**385人**(26.1%)で、予定されている入学定員80人を4.8倍以上上回る入学意向者数がみられた。

<属性別>

### ◇高校所在地別

- 「近畿」エリア(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)の高校在籍者からの入学意向者は、1,058人中、**251人**(23.7%)と、予定している入学定員数を3.1倍以上上回る入学意向者数がみられた。

### ◇高校卒業後の希望進路別

- 神戸女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向者は、1,097人中、**320人**(29.2%)と、予定している入学定員数の4.0倍の入学意向者数がみられた。

### ◇興味のある学問系統別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」に興味がある回答者の入学意向者は、433人中、**261人**(60.3%)と、予定している入学定員数を3.2倍以上上回る入学意向者数がみられた。

### ◇神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向者は、いずれの特色でも**350人**を超えており、入学意向者数はすべて、予定している入学定員数を4.5倍以上上回っている。新学部の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

## 高校生対象 調査結果集計表



# 回答者の属性(性別/学年/高校種別)

## ■性別

	標本数	男性	女性	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	0.0	100.0	0.0
		0	1,474	0

## ■学年

	標本数	1年生	2年生	3年生	その他	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		0	0	1,474	0	0

## ■高校種別

	標本数	国立	公立	私立	無回答
上段:% 下段:件数					
全体	1,474	0.5	67.2	30.6	1.7
		8	990	451	25

# 回答者の属性(高校所在地)

## ■高校所在地

	標本数	北海道	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
上段:% 下段:件数										
全体	1,474	0.5 8	0.1 1	0.2 3	0.1 1	0.1 2	0.2 3	0.1 2	0.3 4	0.1 1

	標本数	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
上段:% 下段:件数										
全体	1,474	0.1 1	0.3 5	0.6 9	1.2 17	1.2 18	0.5 7	0.5 8	1.4 21	1.2 17

	標本数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県
上段:% 下段:件数										
全体	1,474	2.2 32	6.0 88	21.6 319	39.2 578	1.4 21	1.4 20	1.1 16	0.6 9	3.3 48

	標本数	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県
上段:% 下段:件数										
全体	1,474	3.1 45	0.6 9	0.7 11	1.6 24	2.2 33	0.5 8	1.6 23	0.2 3	0.1 2

	標本数	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
上段:% 下段:件数							
全体	1,474	0.7 11	0.1 2	0.4 6	0.5 7	0.4 6	1.7 25

# 回答者の属性(所属クラス)

## ■所属クラス

	標本数	文系クラス (文系コース)	理系クラス (理系コース)	コース 選択はない	その他	無 回 答
上段: % 下段: 件数						
全体	1,474	61.9 912	16.6 244	11.1 164	9.0 132	1.5 22

# 高校卒業後の希望進路

## ■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。  
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

	標本数	国公立大学に進学	私立大学に進学	短期大学に進学	専門学校・専修学校に進学	就職	その他	無回答
上段:%		34.2	74.4	8.9	10.1	2.6	1.2	0.1
下段:件数		504	1,097	131	149	39	17	1
全体	1,474							

# 興味のある学問系統

## ■興味のある学問系統

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)  
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

	標本数	心理学	文学 (考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	語学 (言語学など含む)	法学 (政治学など含む)	経済・経営・商学	社会学	国際関係学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	29.4	16.8	17.1	6.6	14.4	12.3	14.5
		433	248	252	97	212	181	214

	標本数	教員養成・教育学	生活科学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む)	芸術学 (美術・デザイン、音楽など含む)	総合科学	看護・保健学	医・歯・薬学	理学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	23.2	23.5	8.7	3.1	17.5	7.5	2.6
		342	346	128	45	258	110	38

	標本数	工学	農・水産学	その他	まだ決めていない	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	2.2	3.0	4.5	1.8	0.1
		32	44	66	27	1

# 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

## ■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q3. 神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	87.8	35.1	52.6	10.4	1.6	0.2
		1,294	518	776	154	23	3

B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	85.5	29.3	56.2	12.6	1.7	0.2
		1,260	432	828	186	25	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

## ■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。

	標本数	魅力度（※）	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
			上段：％	下段：件数	上段：％	下段：件数	
全体	1,474	87.7	30.9	56.7	10.7	1.5	0.2
		1,292	456	836	157	22	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向／ 入学意向

## ■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向

- Q4. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	受験したいと思う	受験したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	29.2 430	70.2 1,035	0.6 9

「受験したいと思う」と答えた  
430人のみ抽出

## ■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向

- Q5. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	入学したいと思う	入学したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	430	89.5 385	9.8 42	0.7 3

※母数は、Q4で「受験したいと思う」と答えた430人

# 神戸女子大学「心理学部 心理学科」への 受験意向別入学意向

## ■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向別入学意向

※「Q4 受験意向」と「Q5 入学意向」の回答をかけあわせて集計(母数は全回答者)

※神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を神戸女子大学「心理学部 心理学科」の入学意向者と定義する。

入学意向者

		標本数	Q5 「受験したいと思う」 かつ	Q4 「受験したいと思う」 でない」が	Q4 「受験したいと思わない」	無回答	
上段:% 下段:件数							
全体		1,474	26.1 385	2.8 42	70.2 1,035	0.8 12	
属性別集計	高校所在地別	近畿 1,058	23.7 251	2.6 27	73.1 773	0.7 7	
	高校卒業後の希望進路別	私立大学に進学 1,097	29.2 320	2.9 32	67.1 736	0.8 9	
	興味のある学問系統別	心理学 433	60.3 261	4.4 19	33.7 146	1.6 7	
	「心理学部心理学科」の特色に対する魅力度別	特色A 魅力あり	1,294	29.3 379	3.1 40	66.8 865	0.8 10
		特色B 魅力あり	1,260	29.0 365	3.2 40	67.1 845	0.8 10
		特色C 魅力あり	1,292	28.3 366	3.2 41	67.7 875	0.8 10

## 卷末資料 調查票







## 巻末資料 心理学部紹介リーフレット



# 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

## 学科の概要

開設時期：2022年4月  
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2  
 修業年限：4年  
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定  
 取得学位：学士（心理学）※予定  
 取得資格：認定心理士、情報処理士等  
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

## 設置の理念

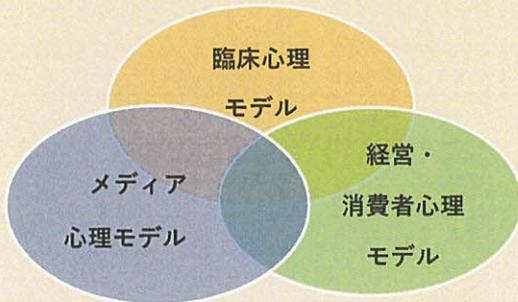
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

## 養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、  
 興味のある進路に向けて、  
 以下のような履修モデルがあります。



### <臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）  
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

### <経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

### <メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

## 心理学の基礎に関する科目

### <心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

## 学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。  
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。  
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

## アクセス



上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

なんだ、  
なんだ。  
なんだ。



心と社会をつなぐ。動かす。  
**心理学部 心理学科** (仮称)  
設置構想中

## 神戸女子大学 心理学部 心理学科 基本情報

開設時期	2022年4月	入学定員	80名 ※#1
取得できる主な資格・免許	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公認心理師 受験資格*</li> <li>■ 認定心理士 (心理調査)</li> <li>■ 上級情報処理士 など</li> </ul>		
修業年限	4年	取得学位	学士 (心理学) ※#2

心理学部心理学科では、次のような人材の養成をめざします。

- ① 心理学における知能・言語・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究手法についての学びによって、人間的心と行動を体系的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を有する人材。
- ② 人間における心身の相互的関連を理解し、福みや悪徳、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技術を備えた人材。
- ③ 企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手法に基づいて調査し、分析することができる人材。
- ④ 発達に発達するメディアを介した情報やコミュニケーションのあり方に関与する商品開発やディスプレイを体験し、※3月実施

Kobe Women's University Open Campus 2021

# オープンキャンパス

詳しくはホームページへアクセス!!

イベント 盛りだくさんの1日!

- ◆ バックステージデザイン※ 「たくさん遊ばれるお菓子のパッケージを考えよう!」
- ◆ パーチャルコンビニ※ 「売上がアップする商品陳列やディスプレイを体験!」 ※3月実施

模擬授業 相談コーナー

内容は変更になる場合があります。必ず公式HPをご確認ください。

### ポートアイランドキャンパスへのアクセス

大阪から	姫路から	新神戸から	神戸空港から
<b>JR利用の場合</b> 大塚駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約40分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車	<b>JR利用の場合</b> 姫路駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約40分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車	<b>神戸市営地下鉄</b> 新神戸駅から 西神・山手線(約2分) 三宮駅下車 三宮駅下車	<b>ポートライナー</b> 神戸空港駅から ポートライナーの三宮行き(約9分) 三宮駅下車(約9分) 三宮駅下車(約9分) 三宮駅下車(約9分)
神戸空港・北岸線方面行きの約10分)すべての行先のもののみならず駅に停車します。 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車			
みなとじま駅より西へ徒歩約5分 <b>神戸女子大学</b> ポートアイランドキャンパス			

神戸女子大学 KOBE WOMEN'S UNIVERSITY

詳細はコチラをCHECK!

オフショール HP

Twitter @shup.univ

QRコード

ポートアイランドキャンパス

心臓学部 (仮称) / 健康福祉学部 / 看護学部 / 短期大学  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2

須磨キャンパス  
文学部 / 家政学部  
〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青島2-1  
〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青島2-1  
※ホットライン  
Tel.078-737-2329 (入試広報課直通)  
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/

# なんだ、こころ なんだ。

心理学で解き明かせば、世の中がよーく見えてくる。

こんな時、どうするの？ かわいいのかな？

## Case 01

「すごいね！」って誰かをほめるとき、あなたならどうする？

- 「すごい！がんばったね」と直接ほめる
- 「あの人がね。すごいってほめてたよ」と伝える

Answer | 口コミやレビューなどの第三者から間接的に情報が伝達することによって、より信頼性や信頼感が増す「ワインザー効果」という心理効果です。

## Case 02

カフェでランチの約束。今日こそ彼に告白！どっちがいいかな？

- 運ばれてきた料理を楽しみながら、告白しちゃう
- 大事な話だから、料理が運ばれてくる前に告白する

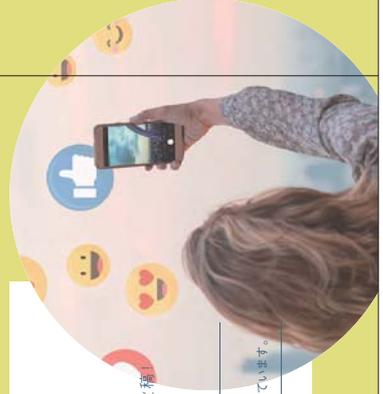
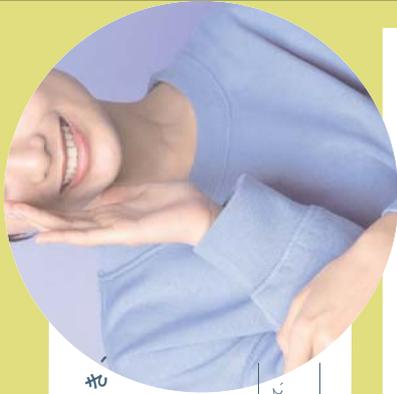
Answer | 食事は空腹を満たすだけでなく、人の心にも影響することが解明されています。人はおいしいものを食べると気分がポジティブになる「ランチヨングニック」という心理効果です。

## Case 03

めざせインフルエンサー！ SNSへの投稿、あなたならどうする？

- 充実した情報を発信するため、しっかり調べて納得がいけば投稿！
- とにかく発信数を重視！少しの情報でも、毎日定期的に投稿！

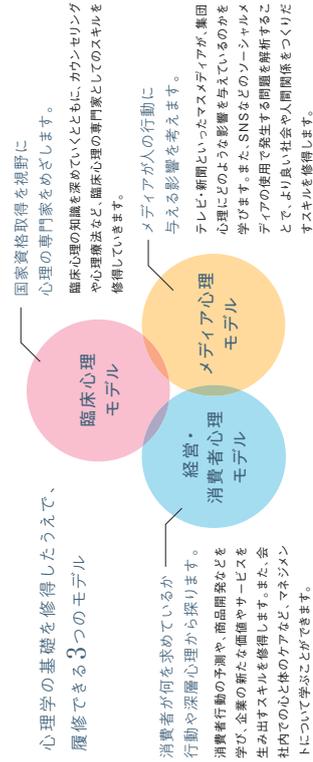
Answer | 「人間は接触回数が多ければ多いほど、親近感がわきやすくなる」という感情の動きは「ザイオンズ効果」という心理効果でインフルエンサーマーケティングにおいて重要視されています。



## 2022年4月 心理学部 心理学科 誕生

人の心と行動の関係など身近なテーマを専門的に探究する心理学。身につけた力は、カウンセラーなどの心理専門職から一般企業まで、あらゆる場で発揮できます。

### StudyX どんなことが学べるの？



### Qualification どんな資格が取れるの？

- 臨床心理
- 公認心理師受験資格\*
- 経営・消費者心理
- 認定心理士 (心理調査)
- メディア心理
- 上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

\*受験資格を得るには前記の単位の単位を修得し、一定の実務経験が必要

### Future 将来どんなところで活躍ができるの？

- 臨床心理
- 公務員(心理職)
- 病院
- 福祉センター
- 児童相談所
- 福祉施設関連企業 など
- 経営・消費者心理
- 商品企画
- マーケティング職
- 人事
- 営業職
- 販売関連 など
- メディア心理
- マスコミ
- メディア関係
- 広告業界
- 企業広報 など

※記載の内容は、構想中のため変更になる場合があります。

## (資料13)

## 近隣女子大学心理学科系学納金一覧

(円)

大学名	学部学科名	初年次			2年次以降 授業料等	4年間総合計
		入学金	授業料等※	合計		
武庫川女子大学	文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000	1,225,000	5,100,000
神戸女学院大学	人間科学部心理・行動科学科	200,000	1,307,000	1,507,000	1,307,000	5,428,000
甲南女子大学	人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000	1,150,000	4,810,000
神戸松蔭女子学院大学	人間科学部心理学科	200,000	1,090,000	1,290,000	1,090,000	4,560,000
神戸親和女子大学	発達教育学部心理学科	230,000	1,170,000	1,400,000	1,170,000	4,910,000
神戸女子大学	心理学部心理学科	250,000	1,120,000	1,370,000	1,150,000	4,820,000

※授業料、教育充実費、施設設備費を含む。

(各大学HPより本学で作成)

(資料14)

神戸女子大学文学部3か年間の就職実績

学科名	平成30年3月卒業				平成31年3月卒業				令和2年3月卒業			
	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率
日本語日本文学科	54	43	43	100.0%	51	44	44	100.0%	57	48	48	100.0%
英語英米文学科	58	49	49	100.0%	61	57	54	94.7%	45	43	42	97.7%
国際教養学科	53	51	51	100.0%	35	33	33	100.0%	41	40	39	97.5%
史学科	59	49	46	93.9%	53	50	49	98.0%	53	46	45	97.8%
教育学科	177	169	167	98.8%	172	161	160	99.4%	155	151	149	98.7%
文学部全体	401	361	356	98.6%	372	345	340	98.6%	351	328	323	98.5%

本学に対する求人件数と就職希望者数の推移

	平成30年3月卒業			平成31年3月卒業			令和2年3月卒業		
	求人件数	就職希望者数	求人倍率	求人件数	就職希望者数	求人倍率	求人件数	就職希望者数	求人倍率
大学全体	3,973	708	5.61	4,750	768	6.18	14,499	749	19.35

神戸女子大学心理学部心理学科(仮称)の卒業生に対する  
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

令和3年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

## 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する 企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

### 1. 調査概要

#### (1) 調査目的

令和4年4月に予定している神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の開設に向けて、神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、1都2府20県（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、愛知県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県、長崎県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

#### (2) 調査対象

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の企業等の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、787件の有効回答があった。

#### (3) 調査方法

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の調査対象企業等の採用担当者にアンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

#### (4) 調査実施期間

令和2年11月～令和2年12月

#### (5) 有効回収率等

配布数 : 2,786 件

有効回答数 : 787 件

有効回収率 : 約 28.2% (有効回答 787 件 ÷ 配布数 2,786 件)

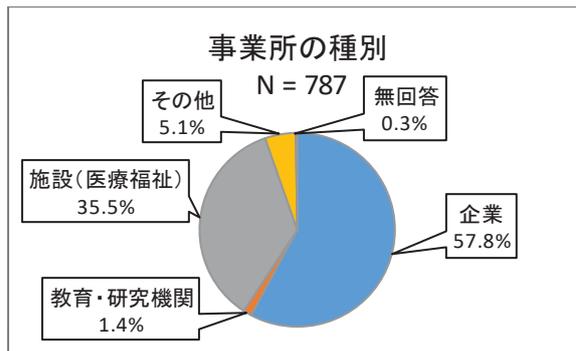
※神戸女子大学が設置を構想している心理学部心理学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

## 2. 調査結果

### (1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「企業」が 455 件 (57.8%) と最も多く、次いで「施設 (医療福祉)」279 件 (35.5%)、「その他」40 件 (5.1%)、「教育・研究機関」11 件 (1.4%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.3%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100

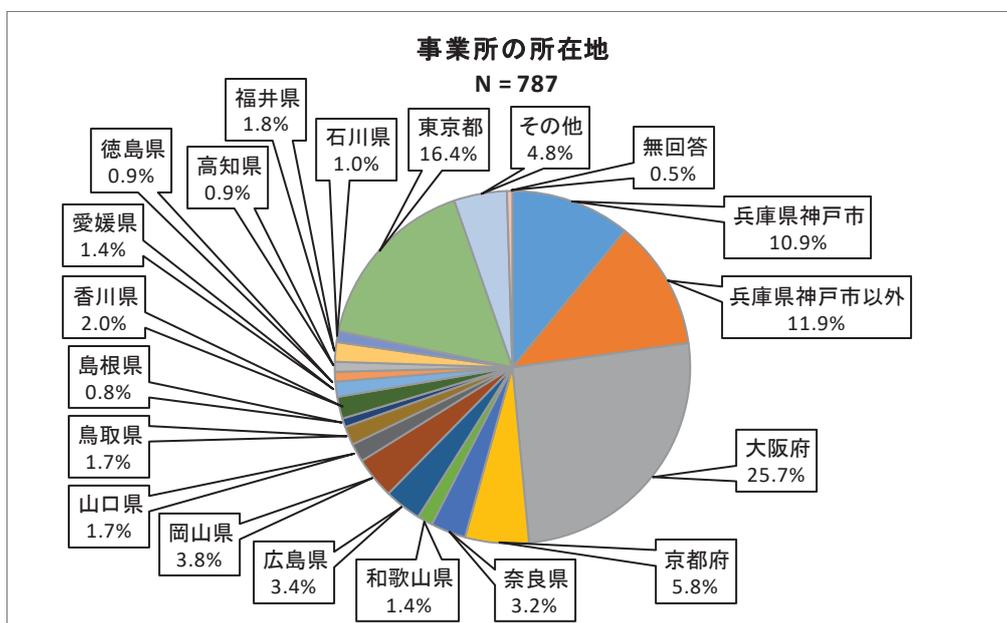


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「大阪府」が 202 件 (25.7%) と最も多く、次いで「東京都」129 件 (16.4%)、「兵庫県神戸市以外」94 件 (11.9%)、「兵庫県神戸市」86 件 (10.9%)、「京都府」46 件 (5.8%)、「その他」38 件 (4.8%)、「岡山県」30 件 (3.8%)、「広島県」27 件 (3.4%)、「奈良県」25 件 (3.2%)、「香川県」16 件 (2.0%)、「福井県」14 件 (1.8%)、「山口県」13 件 (1.7%)、「鳥取県」13 件 (1.7%)、「和歌山県」11 件 (1.4%)、「愛媛県」11 件 (1.4%)、「石川県」8 件 (1.0%)、「徳島県」7 件 (0.9%)、「高知県」7 件 (0.9%)、「島根県」6 件 (0.8%) の順になっている。  
 ※「無回答」4 件 (0.5%)

事業所の所在地

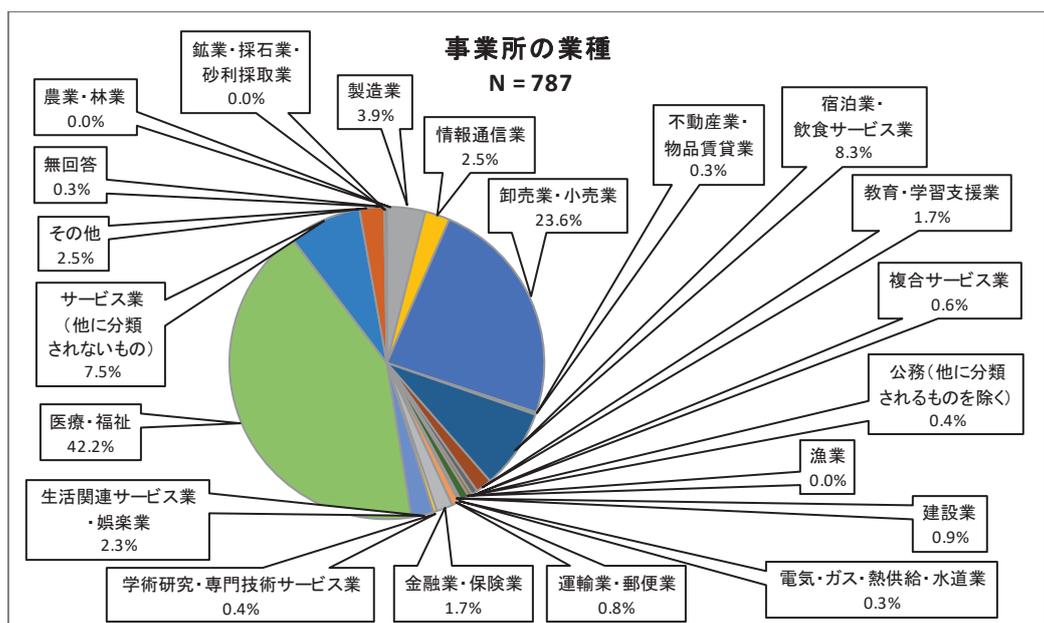
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、10 件以上のものを挙げると、「医療・福祉」が 332 件（42.2%）と最も多く、次いで「卸売業・小売業」186 件（23.6%）、「宿泊業・飲食サービス業」65 件（8.3%）、「サービス業（他に分類されないもの）」59 件（7.5%）、「製造業」31 件（3.9%）、「情報通信業」20 件（2.5%）、「その他」20 件（2.5%）、「生活関連サービス業・娯楽業」18 件（2.3%）、「教育・学習支援業」13 件（1.7%）、「金融業・保険業」13 件（1.7%）の順になっている。 ※「無回答」2 件（0.3%）

事業所の業種		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	農業・林業	0 0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0 0.0
3	製造業	31 3.9
4	情報通信業	20 2.5
5	卸売業・小売業	186 23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2 0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65 8.3
8	教育・学習支援業	13 1.7
9	複合サービス業	5 0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3 0.4
11	漁業	0 0.0
12	建設業	7 0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2 0.3
14	運輸業・郵便業	6 0.8
15	金融業・保険業	13 1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3 0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18 2.3
18	医療・福祉	332 42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59 7.5
20	その他	20 2.5
	無回答	2 0.3
	N (%ベース)	787 100

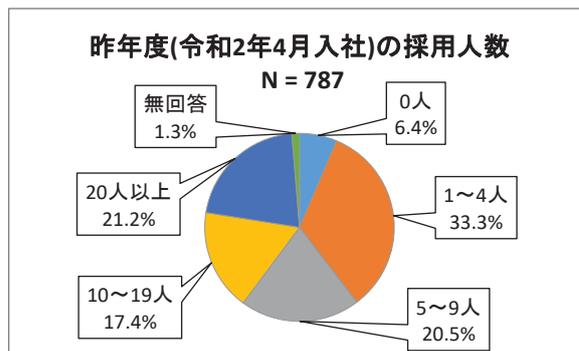


(4) 昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について

昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「1～4人」が262件（33.3%）と最も多く、次いで「20人以上」167件（21.2%）、「5～9人」161件（20.5%）、「10～19人」137件（17.4%）、「0人」50件（6.4%）の順になっている。 ※「無回答」10件（1.3%）

昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

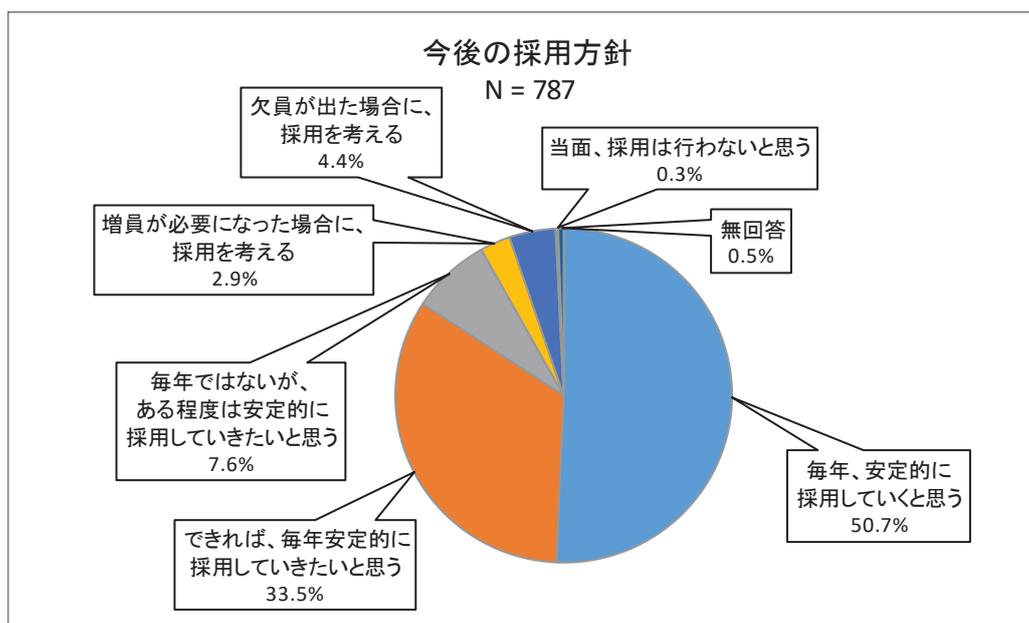
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1～4人	262	33.3
3	5～9人	161	20.5
4	10～19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 399 件（50.7%）と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」264 件（33.5%）、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」60 件（7.6%）、「欠員が出た場合に、採用を考える」35 件（4.4%）、「増員が必要になった場合に、採用を考える」23 件（2.9%）、「当面、採用は行わないと思う」2 件（0.3%）の順になっている。 ※「無回答」4 件（0.5%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N（%ベース）	787	100



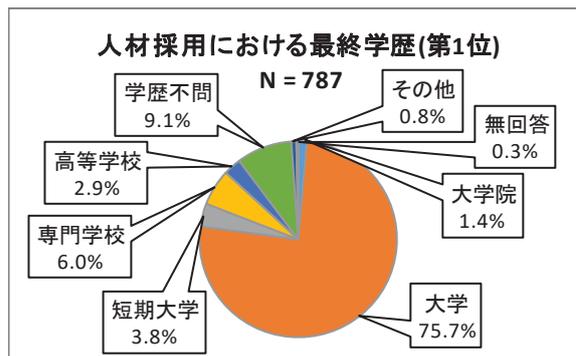
(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「大学」が596件（75.7%）と最も多く、次いで「学歴不問」72件（9.1%）、「専門学校」47件（6.0%）、「短期大学」30件（3.8%）、「高等学校」23件（2.9%）、「大学院」11件（1.4%）、「その他」6件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」2件（0.3%）

人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100



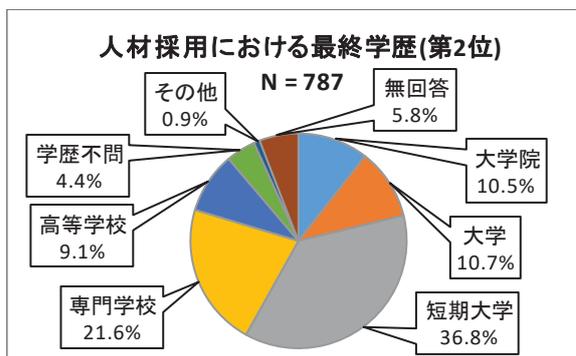
6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「短期大学」が290件（36.8%）と最も多く、次いで「専門学校」170件（21.6%）、「大学」84件（10.7%）、「大学院」83件（10.5%）、「高等学校」72件（9.1%）、「学歴不問」35件（4.4%）、「その他」7件（0.9%）の順になっている。

※「無回答」46件（5.8%）

人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (%ベース)	787	100



(7) 人材を採用する際に重視する点について (第1位)

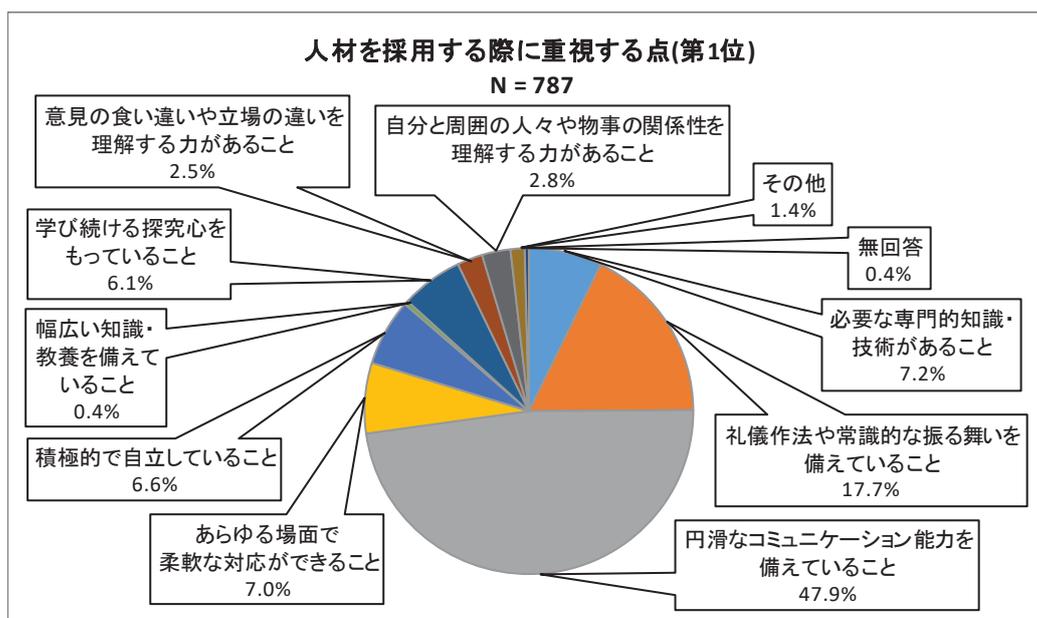
7-1 人材を採用する際に重視する点 (第1位) について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 377 件 (47.9%) と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」139 件 (17.7%)、「必要な専門的知識・技術があること」57 件 (7.2%)、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」55 件 (7.0%)、「積極的に自立していること」52 件 (6.6%)、「学び続ける探究心をもっていること」48 件 (6.1%)、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」22 件 (2.8%)、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」20 件 (2.5%)、「その他」11 件 (1.4%)、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件 (0.4%) の順になっている。

※「無回答」3 件 (0.4%)

人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的に自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



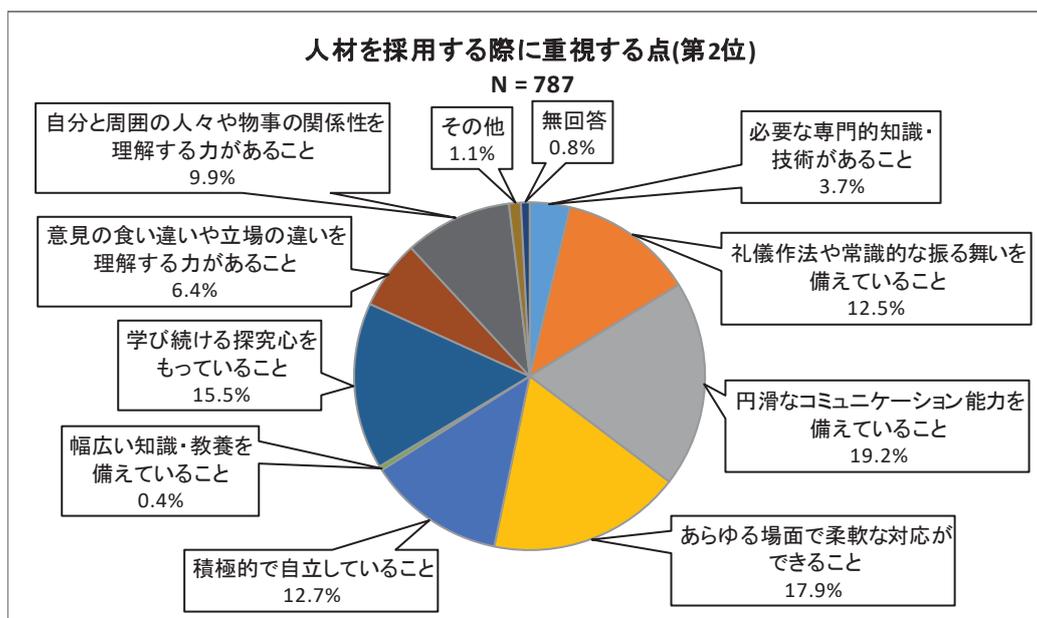
## 7-2 人材を採用する際に重視する点（第2位）について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 151 件（19.2%）と最も多く、次いで「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」141 件（17.9%）、「学び続ける探究心をもっていること」122 件（15.5%）、「積極的で自立していること」100 件（12.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」98 件（12.5%）、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」78 件（9.9%）、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」50 件（6.4%）、「必要な専門的知識・技術があること」29 件（3.7%）、「その他」9 件（1.1%）、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件（0.4%）の順になっている。

※「無回答」6 件（0.8%）

人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



(8) 神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について

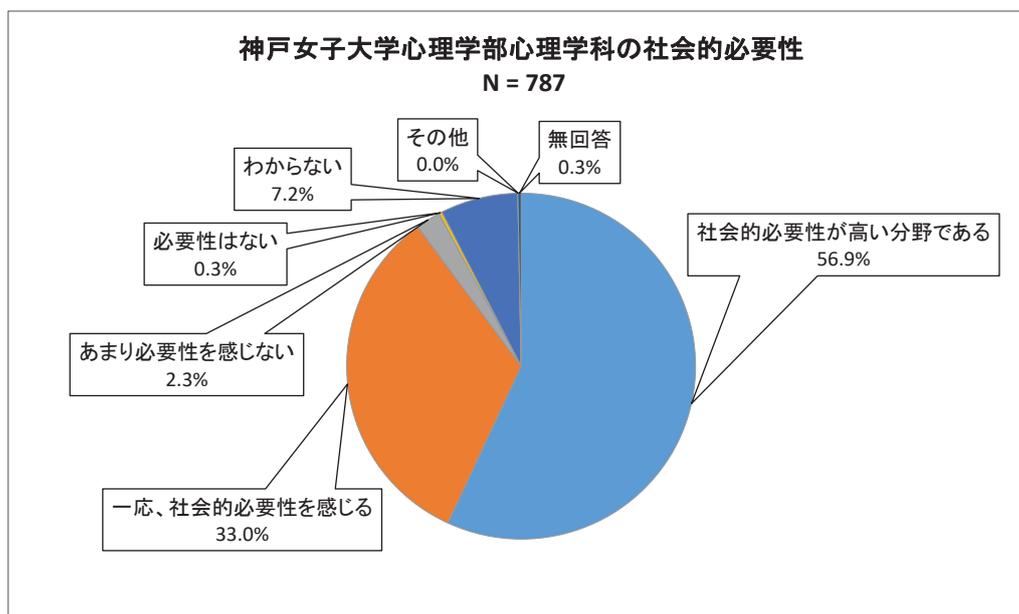
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 448 件 (56.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」260 件 (33.0%)、「わからない」57 件 (7.2%)、「あまり必要性を感じない」18 件 (2.3%)、「必要性はない」2 件 (0.3%) の順になっている。

※「無回答」2 件 (0.3%)

なお、神戸女子大学心理学部心理学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、708 件 (90.0%) となっている。

神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (ベース)	787	100



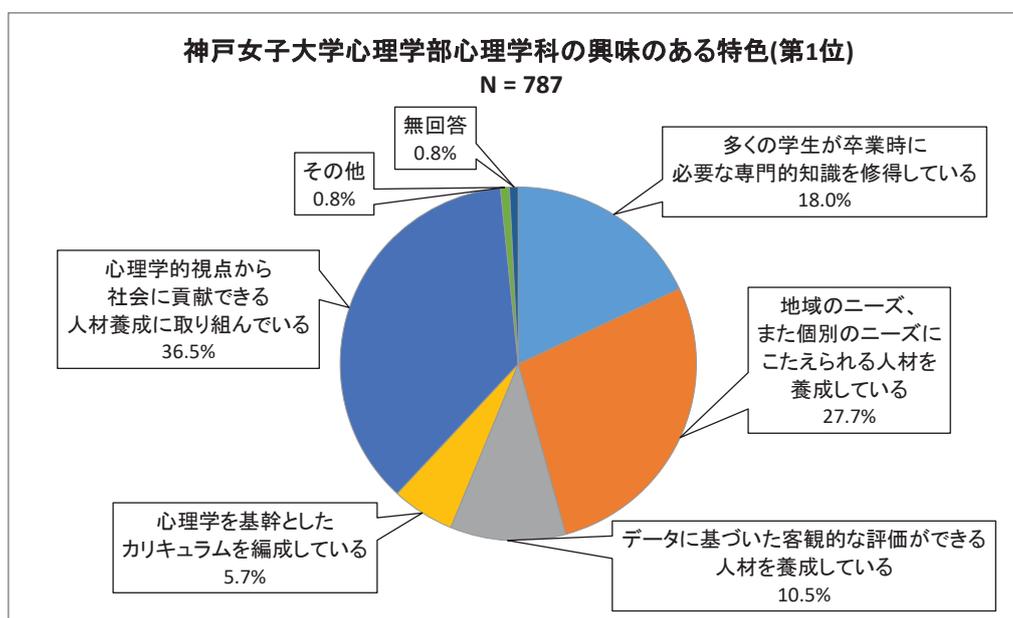
(9) 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色

9-1 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色（第1位）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が287件（36.5%）と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」218件（27.7%）、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」142件（18.0%）、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」83件（10.5%）、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」45件（5.7%）、「その他」6件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」6件（0.8%）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100

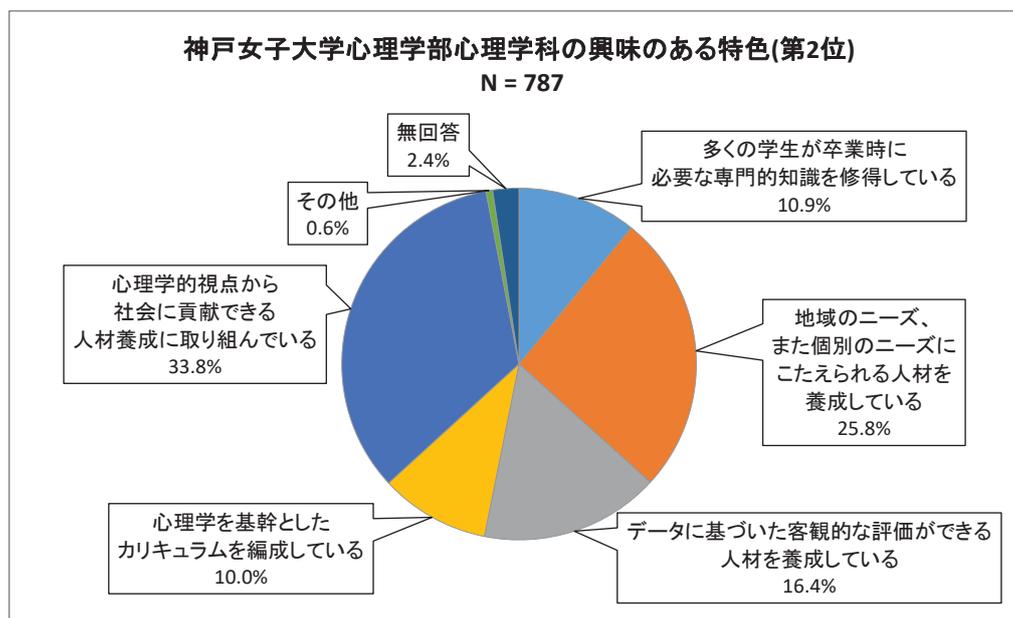


## 9-2 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色（第2位）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が266件（33.8%）と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」203件（25.8%）、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」129件（16.4%）、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」86件（10.9%）、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」79件（10.0%）、「その他」5件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」19件（2.4%）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100

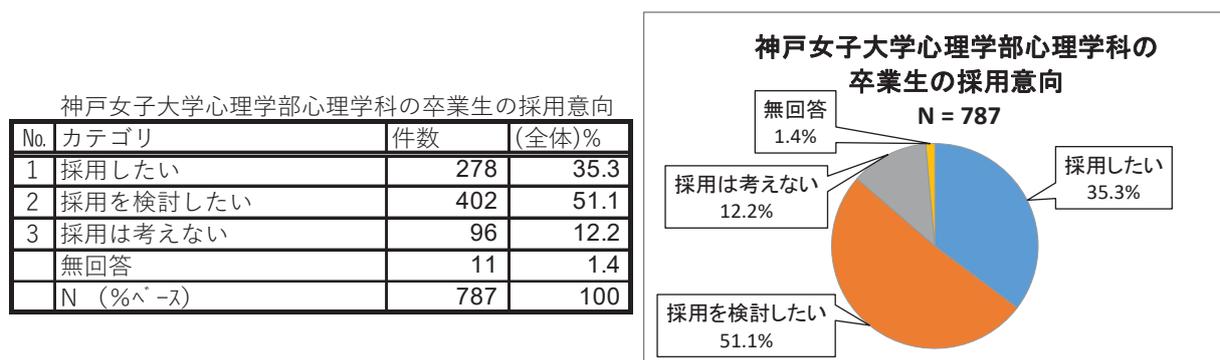


(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「採用を検討したい」が 402 件 (51.1%) と最も多く、次いで「採用したい」278 件 (35.3%)、「採用は考えない」96 件 (12.2%) の順になっている。

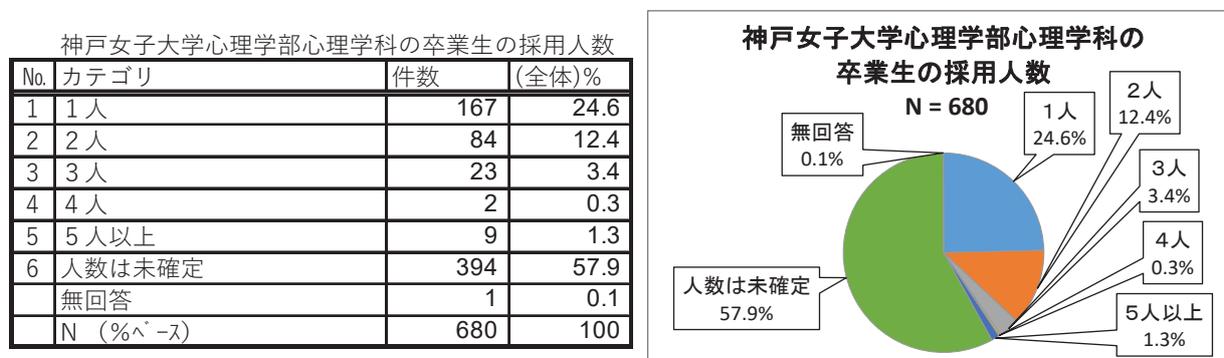
※「無回答」11 件 (1.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、680 件 (86.4%) となっている。



(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について

「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 680 件に対して、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の将来的な採用人数について調査した結果、「人数は未確定」が 394 件 (57.9%) と最も多く、次いで「1 人」167 件 (24.6%)、「2 人」84 件 (12.4%)、「3 人」23 件 (3.4%)、「5 人以上」9 件 (1.3%)、「4 人」2 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.1%)



### 3. 調査結果のまとめ

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定」(※)）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「5人以上」は最低数である「5人」として計算した。

「人数は未確定」とは、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下表より、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、417人分となる。入学定員は80名であるため、約5.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は851人分となり、これは、入学定員80名に対して、約10.6倍となる。

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計	
1人(A)	58	(a)	(A) × (a)	58
2人(B)	59	(b)	(B) × (b)	118
3人(C)	19	(c)	(C) × (c)	57
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	131	(f)	(F) × (f)	131
無回答	-			

合計採用意向 417人

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討した い」の合計		合計	
1人(A)	167	(a)	(A) × (a)	167
2人(B)	84	(b)	(B) × (b)	168
3人(C)	23	(c)	(C) × (c)	69
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	394	(f)	(F) × (f)	394
無回答	1			

合計採用意向 851人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

# 調查票



Q7. 人材を採用する際に、貴社ではどのようなことを重視していますか。  
該当する番号を第2位までお選びください。

1. 必要な専門的知識・技術があること
2. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
3. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること
4. あらゆる場面で柔軟な対応ができること
5. 積極的に自立していること
6. 幅広い知識・教養を備えていること
7. 学び続ける探究心をもっていること
8. 意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること
9. 自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること
10. その他（具体的に: )

第1位

第2位

〔ここからは、同封の「神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要」リーフレットを〕  
ご覧になりながらお答えください

Q8. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他（具体的に: )

Q9. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の特徴や目指している事柄の中で、興味のあるものはどれですか。あてはまる番号を第2位までお選びください。

1. 多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している
2. 地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している
3. データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している
4. 心理学を基幹としたカリキュラムを編成している
5. 心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる
6. その他（具体的に: )

第1位

第2位

Q10. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）卒業生の採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2を選ばれた方はQ11へお進みください。  
3を選ばれた方はQ12へお進みください。

Q11. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. 人数は未確定

番号でご回答ください

Q12. 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の設置計画について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

学校法人行吉学園 神戸女子大学 学園企画部（担当：三嶋）

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2 電話：(078) 303-4814

# 計画概要

# 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

## 学科の概要

開設時期：2022年4月  
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2  
 修業年限：4年  
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定  
 取得学位：学士（心理学）※予定  
 取得資格：認定心理士、情報処理士等  
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

## 設置の理念

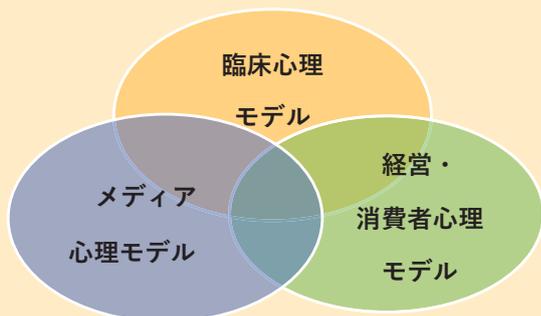
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

## 養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、興味のある進路に向けて、以下のような履修モデルがあります。



### <臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）  
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

### <経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

### <メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

## 心理学の基礎に関する科目

### <心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

## 学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。  
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。  
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

## アクセス

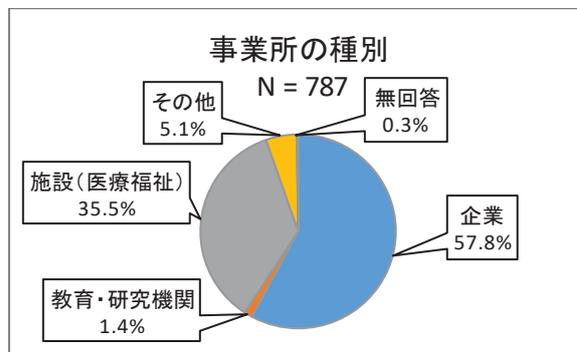


上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

# 單純集計表

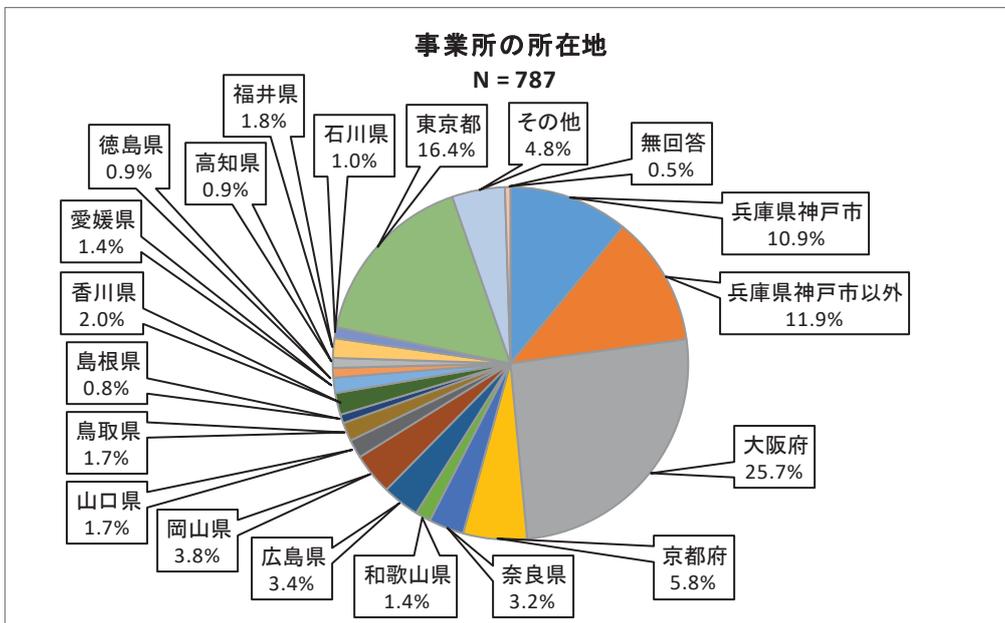
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (% <sup>^</sup> - <sup>ス</sup> )	787	100



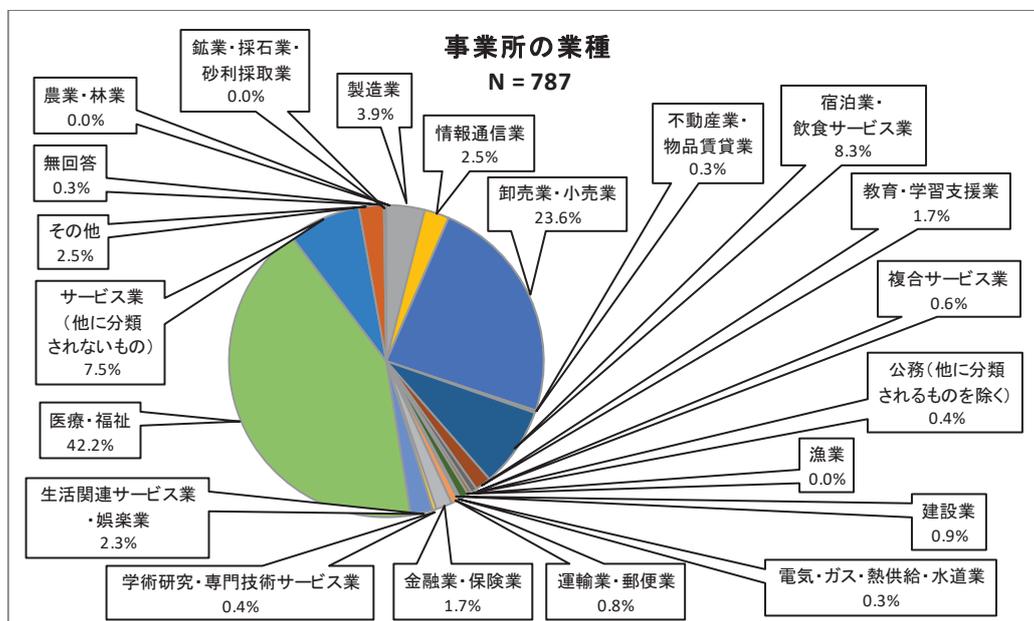
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%へ-入)	787	100



事業所の業種

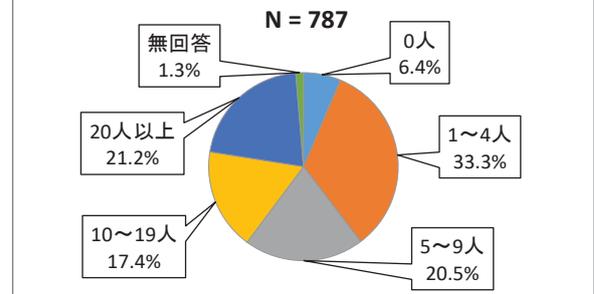
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	0	0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
3	製造業	31	3.9
4	情報通信業	20	2.5
5	卸売業・小売業	186	23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2	0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65	8.3
8	教育・学習支援業	13	1.7
9	複合サービス業	5	0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3	0.4
11	漁業	0	0.0
12	建設業	7	0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3
14	運輸業・郵便業	6	0.8
15	金融業・保険業	13	1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3	0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18	2.3
18	医療・福祉	332	42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59	7.5
20	その他	20	2.5
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	787	100



昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1~4人	262	33.3
3	5~9人	161	20.5
4	10~19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100

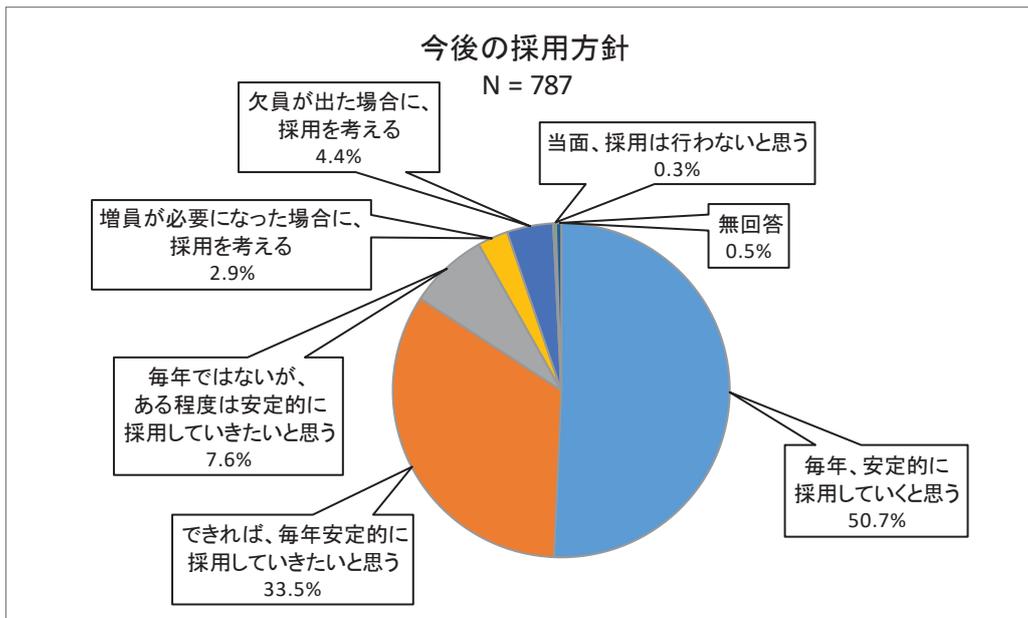
昨年度(令和2年4月入社)の採用人数



今後の採用方針

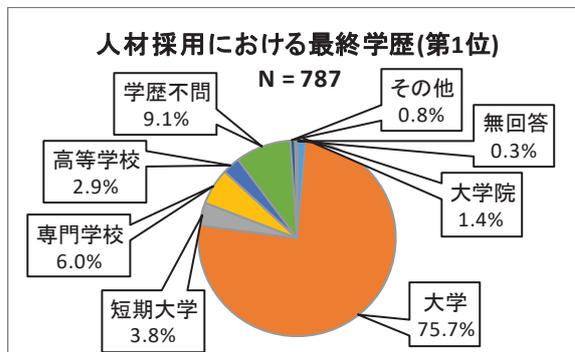
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100

今後の採用方針



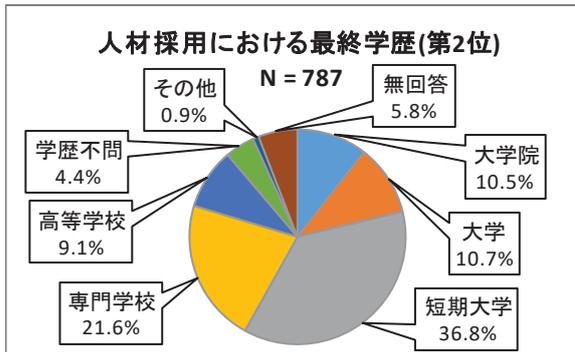
人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (% <sup>^</sup> -)	787	100



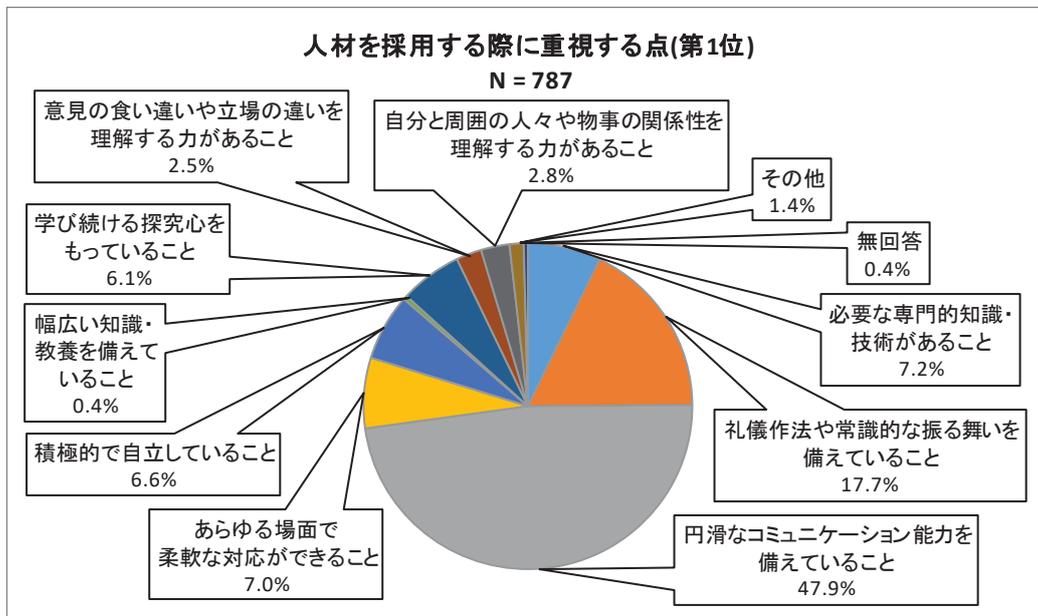
人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (% <sup>^</sup> -)	787	100



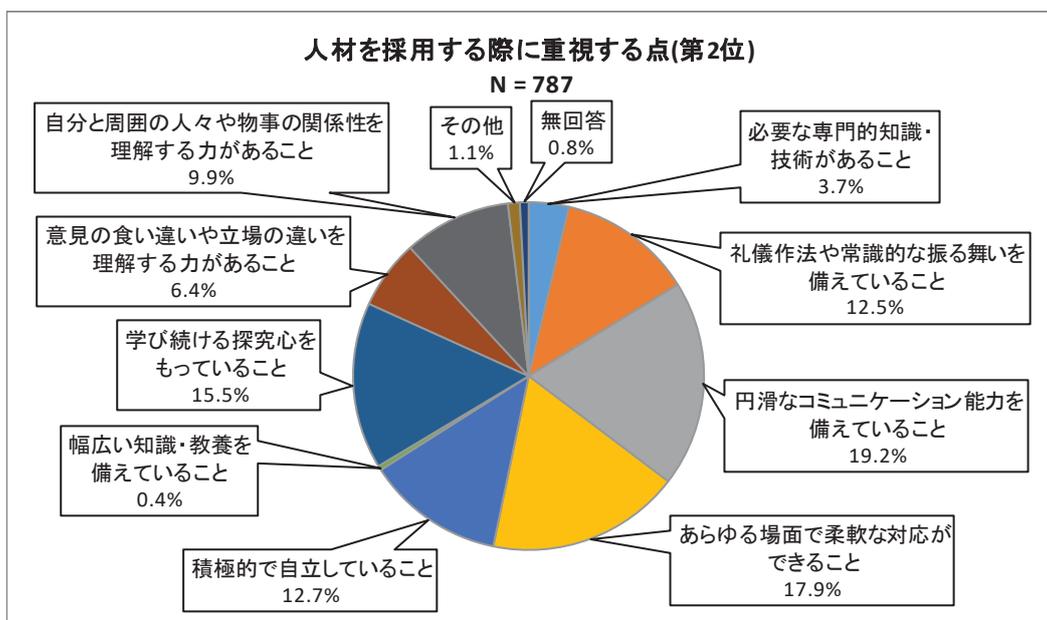
人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的で自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



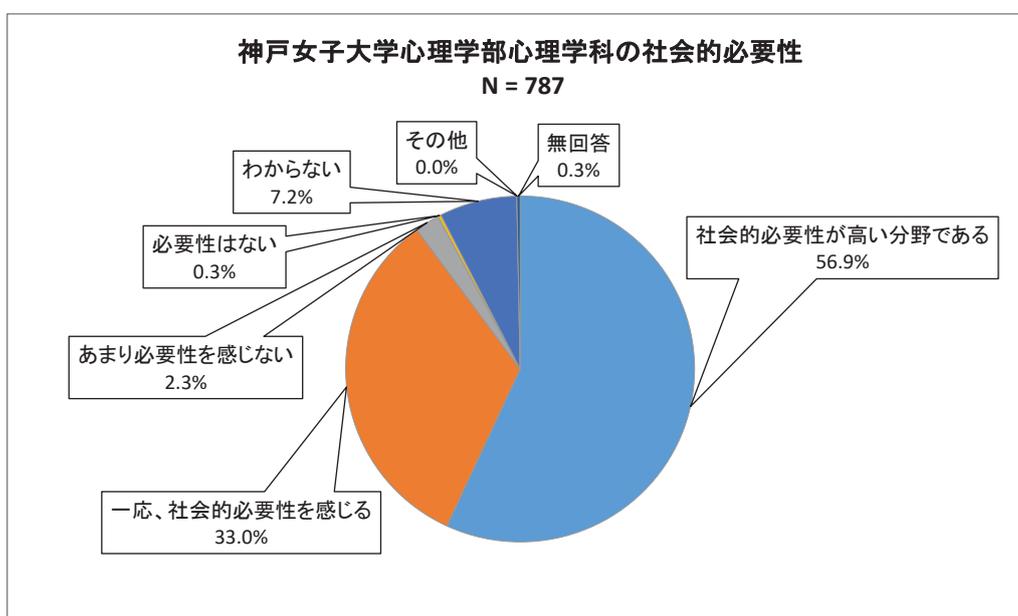
人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



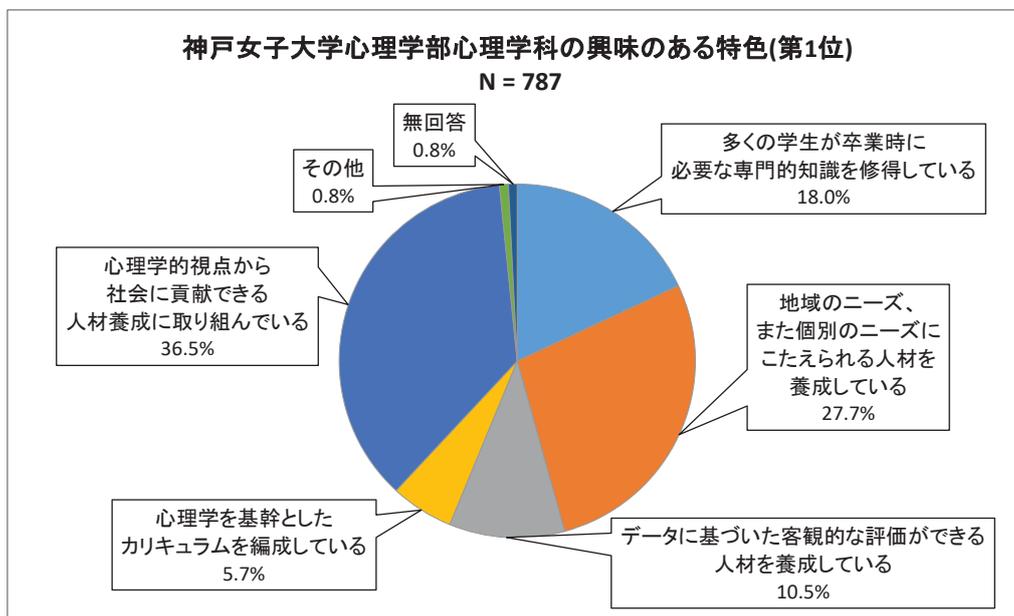
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100



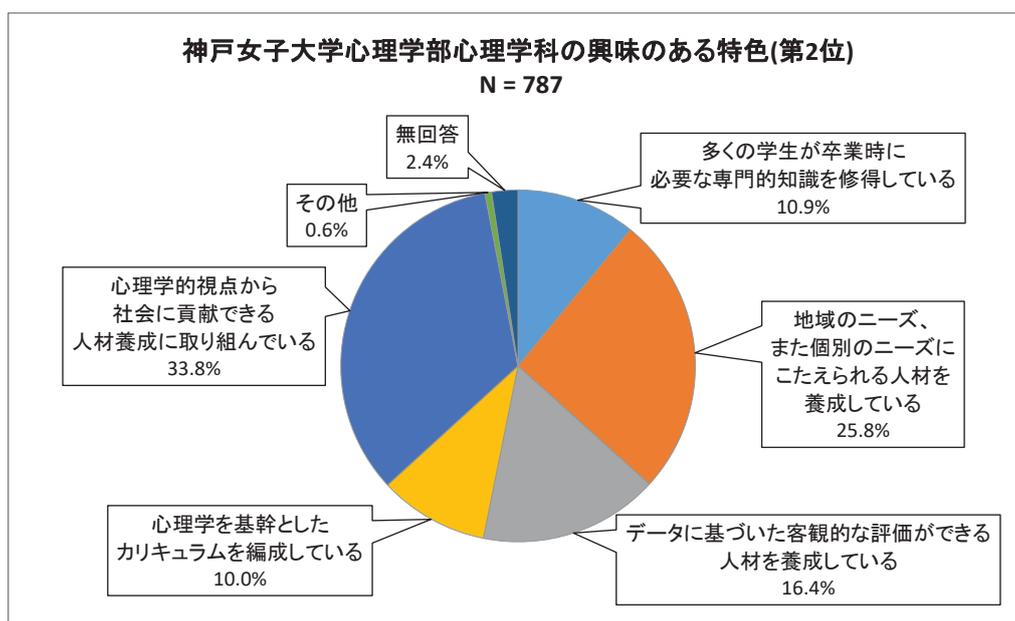
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (% <sup>ペ</sup> -ス)	787	100



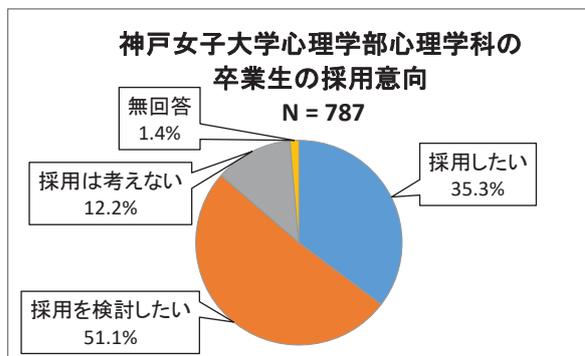
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100



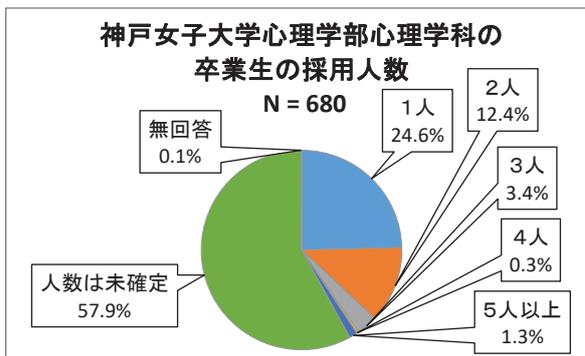
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	278	35.3
2	採用を検討したい	402	51.1
3	採用は考えない	96	12.2
	無回答	11	1.4
	N (%ベース)	787	100



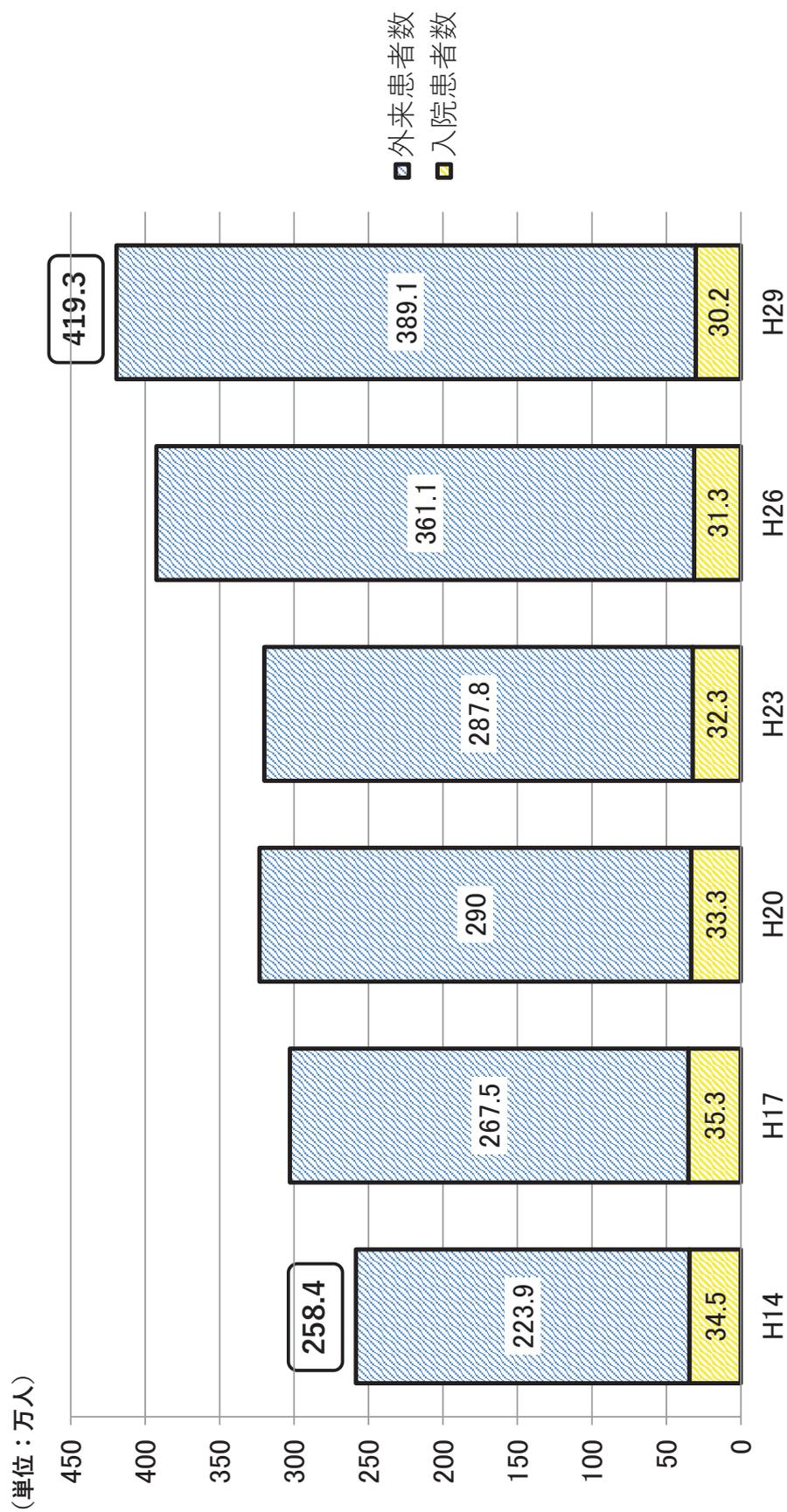
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	167	24.6
2	2人	84	12.4
3	3人	23	3.4
4	4人	2	0.3
5	5人以上	9	1.3
6	人数は未確定	394	57.9
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	680	100



## 精神疾患を有する患者数の推移

- 精神疾患を有する総患者数は約419.3万人であり、増加傾向である。
- 入院患者数は過去15年間で減少傾向である一方、外来患者数は増加傾向である。



※H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている

資料：厚生労働省「患者調査」より  
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課で作成

## 児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

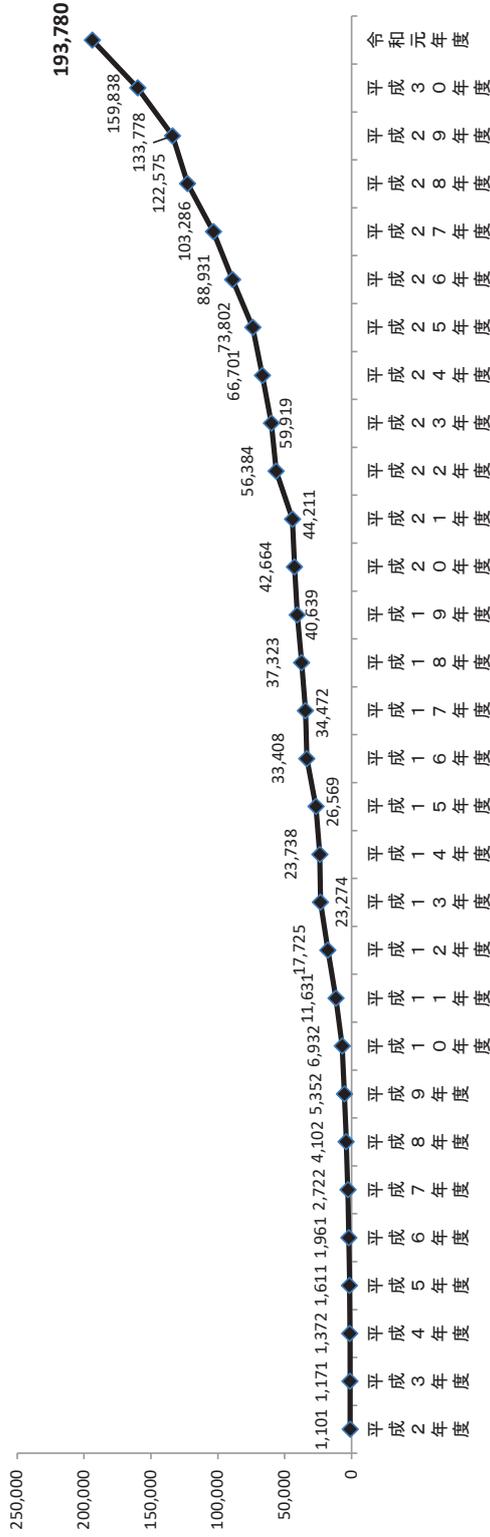
### 1. 令和元年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

令和元年度中に、全国215か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は193,780件で、過去最多。

※ 対前年度比+21.2% (33,942件の増加)

※ 相談対応件数とは、令和元年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

### 2. 児童虐待相談対応件数の推移



年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	42,664	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780
対前年度比	+5.0%	+3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%

(注) 平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

### 3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加 (平成30年度：88,391件→令和元年度：109,118件 (+20,727件))
  - 警察等からの通告の増加 (平成30年度：79,138件→令和元年度：96,473件 (+17,335件))
- (平成30年度と比して児童虐待相談対応件数が大幅に増加した自治体からの聞き取り)
- 心理的虐待が増加した要因として、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力がある事案 (面前DV) について、警察からの通告が増加。

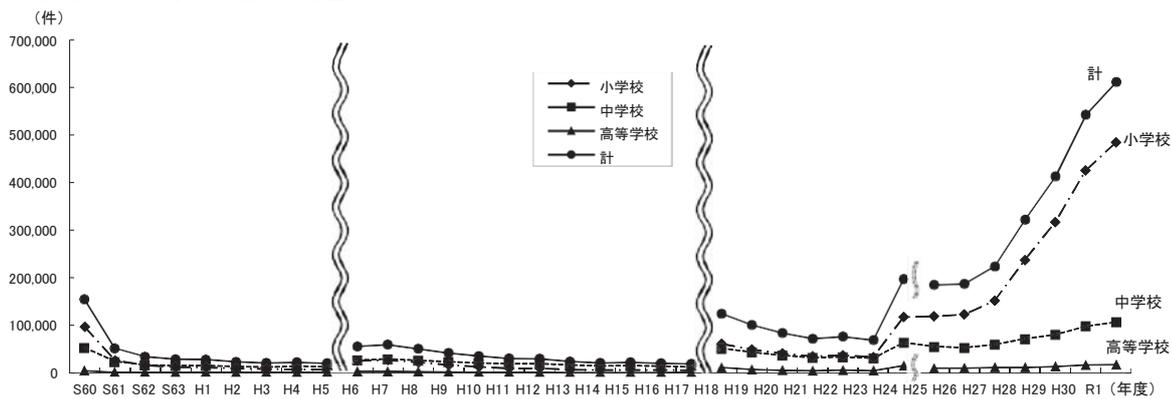
厚生労働省 「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」より

## 新プランの目標

	計画期間(2019年度から2022年度まで) ※保健師については2020年度を目標とする。			
	2017年度実績		配置目標	増員数
<b>【児童相談所】</b>				
児童福祉司	3,240 人	→	5,260 人	+ 2,020 人程度
うち スーパーバイザー	620 人	→	920 人	+ 300 人程度
うち 里親養育支援児童福祉司			各児童相談所	—
うち 市町村支援児童福祉司			都道府県:30市町村に1人 指定都市:1人	—
児童心理司	1,360 人	→	2,150 人 <sup>【注3】</sup>	+ 790 人程度
保健師 <sup>【注1】</sup>	100 人 <sup>【注2】</sup>	→	各児童相談所 (2020年度まで)	+ 110 人程度
合計	4,690 人	→	7,620 人	+ 2,930 人程度
<b>【市町村、要対協調整機関】</b>				
子ども家庭総合支援拠点 (2018年2月実績)	106 市町村	→	全市町村	—
要対協調整機関調整担当者 (2018年2月実績)	988 市町村	→	全市町村	—
【注1】「保健師」については、児童福祉法の規定上は「医師又は保健師」とされている。				
【注2】複数人配置している児童相談所の人数を含めると、140人				
【注3】2024年度までに2,500人				
【注4】進捗状況等を踏まえ、必要に応じて目標の前倒し等の見直しを行うことがあり得る。				

「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」より

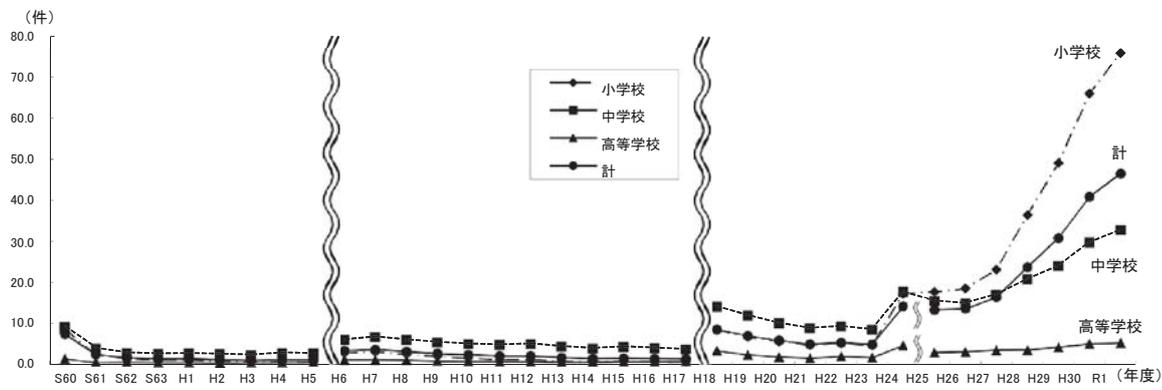
<参考1> いじめの認知(発生)件数の推移



	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
小学校	96,457	26,306	15,727	12,122	11,350	9,035	7,718	7,300	6,390			
中学校	52,891	23,690	16,796	15,452	15,215	13,121	11,922	13,632	12,817			
高等学校	5,718	2,614	2,544	2,212	2,523	2,152	2,422	2,326	2,391			
計	155,066	52,610	35,067	29,786	29,088	24,308	22,062	23,258	21,598			
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	25,295	26,614	21,733	16,294	12,858	9,462	9,114	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087
中学校	26,828	29,069	25,862	23,234	20,801	19,383	19,371	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794
高等学校	4,253	4,184	3,771	3,103	2,576	2,391	2,327	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191
特殊教育諸学校	225	229	178	159	161	123	106	77	78	71	84	71
計	56,601	60,096	51,544	42,790	36,396	31,359	30,918	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	60,897	48,896	40,807	34,766	36,909	33,124	117,384	118,748	122,734	151,692	237,256	317,121
中学校	51,310	43,505	36,795	32,111	33,323	30,749	63,634	55,248	52,971	59,502	71,309	80,424
高等学校	12,307	8,355	6,737	5,642	7,018	6,020	16,274	11,039	11,404	12,664	12,874	14,789
特別支援学校(特殊教育諸学校)	384	341	309	259	380	338	817	768	963	1,274	1,704	2,044
計	124,898	101,097	84,648	72,778	77,630	70,231	198,109	185,803	188,072	225,132	323,143	414,378
	30年度	R元年度										
小学校	425,844	484,545										
中学校	97,704	106,524										
高等学校	17,709	18,352										
特別支援学校	2,676	3,075										
計	543,933	612,496										

(注1)平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。  
 (注2)平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。  
 (注3)平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。  
 (注4)平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。  
 (注5)小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

<参考2> いじめの認知(発生)率の推移(1,000人当たりの認知件数)



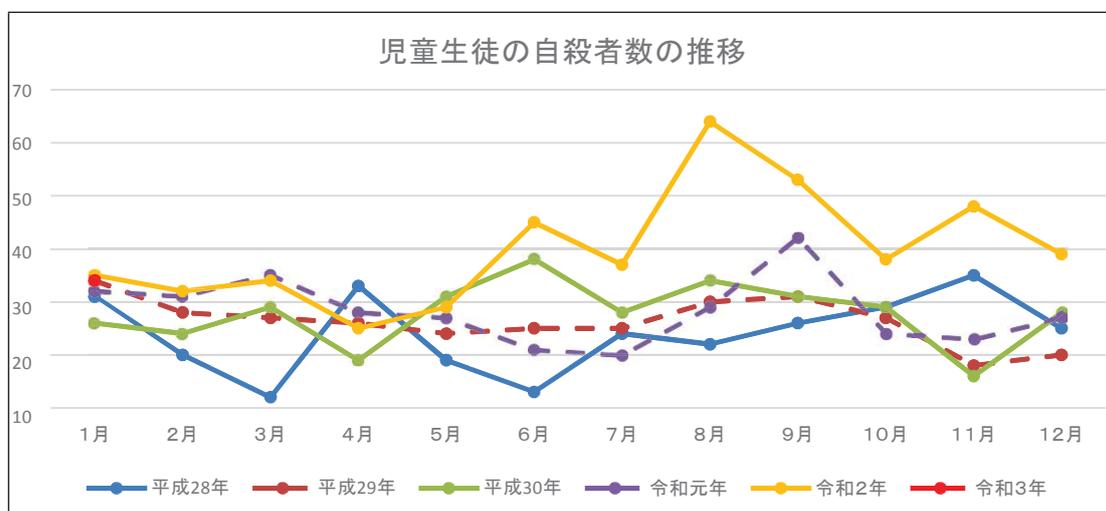
	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
小学校	8.8	2.5	1.6	1.2	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7			
中学校	9.2	4.0	2.9	2.7	2.8	2.6	2.4	2.9	2.8			
高等学校	1.5	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.7			
計	7.6	2.6	1.8	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3			
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	3.0	3.2	2.7	2.1	1.7	1.3	1.3	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7
中学校	6.1	6.8	6.1	5.5	5.1	4.9	5.1	4.5	4.0	4.4	4.1	3.8
高等学校	1.3	1.3	1.2	1.0	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
特殊教育諸学校	2.6	2.6	2.1	1.8	1.8	1.4	1.2	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7
計	3.5	3.8	3.3	2.8	2.5	2.2	2.2	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	8.5	6.9	5.7	4.9	5.3	4.8	17.4	17.8	18.6	23.2	36.5	49.1
中学校	14.2	12.0	10.2	8.9	9.4	8.6	17.8	15.6	15.0	17.1	20.8	24.0
高等学校	3.5	2.5	2.0	1.7	2.1	1.8	4.8	3.1	3.2	3.6	3.7	4.3
特別支援学校(特殊教育諸学校)	3.7	3.2	2.8	2.2	3.1	2.7	6.4	5.9	7.3	9.4	12.4	14.5
計	8.7	7.1	6.0	5.1	5.5	5.0	14.3	13.4	13.7	16.5	23.8	30.9
	30年度	R元年度										
小学校	66.0	75.8										
中学校	29.8	32.8										
高等学校	5.2	5.4										
特別支援学校	19.0	21.7										
計	40.9	46.5										

(注1)平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。  
 (注2)平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。  
 (注3)平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。  
 (注4)平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。  
 (注5)小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」より

### 厚生労働省の自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移



児童生徒の月別自殺者数の総数(小・中・高)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
令和元年	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
令和2年	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
令和3年	34												34

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
H28	総数	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
	小学生	3	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1	1	12
	中学生	8	6	3	9	3	2	5	10	5	10	9	11	81
	高校生	20	13	9	23	15	11	17	12	20	18	25	13	196
H29	総数	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
	小学生	1	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	1	9
	中学生	9	9	9	7	6	5	11	10	8	10	6	10	100
	高校生	24	19	17	19	16	19	12	19	23	17	12	9	206
H30	総数	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
	小学生	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	6
	中学生	11	8	7	2	6	7	11	15	11	9	7	15	109
	高校生	13	16	22	16	25	31	17	18	20	20	7	13	218
R1	総数	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
	小学生	0	0	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	6
	中学生	11	7	10	7	5	6	6	10	12	2	9	11	96
	高校生	21	24	22	20	22	15	13	19	29	22	14	16	237
R2	総数	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
	小学生	2	1	1	1	0	1	0	1	2	1	3	1	14
	中学生	12	14	9	7	6	17	9	17	14	9	6	16	136
	高校生	21	17	24	17	23	27	28	46	37	28	39	22	329
R3	総数	34												34
	小学生	0												0
	中学生	9												9
	高校生	25												25

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

文部科学省「令和2年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」より

### 3 メンタルヘルス対策に関する事項

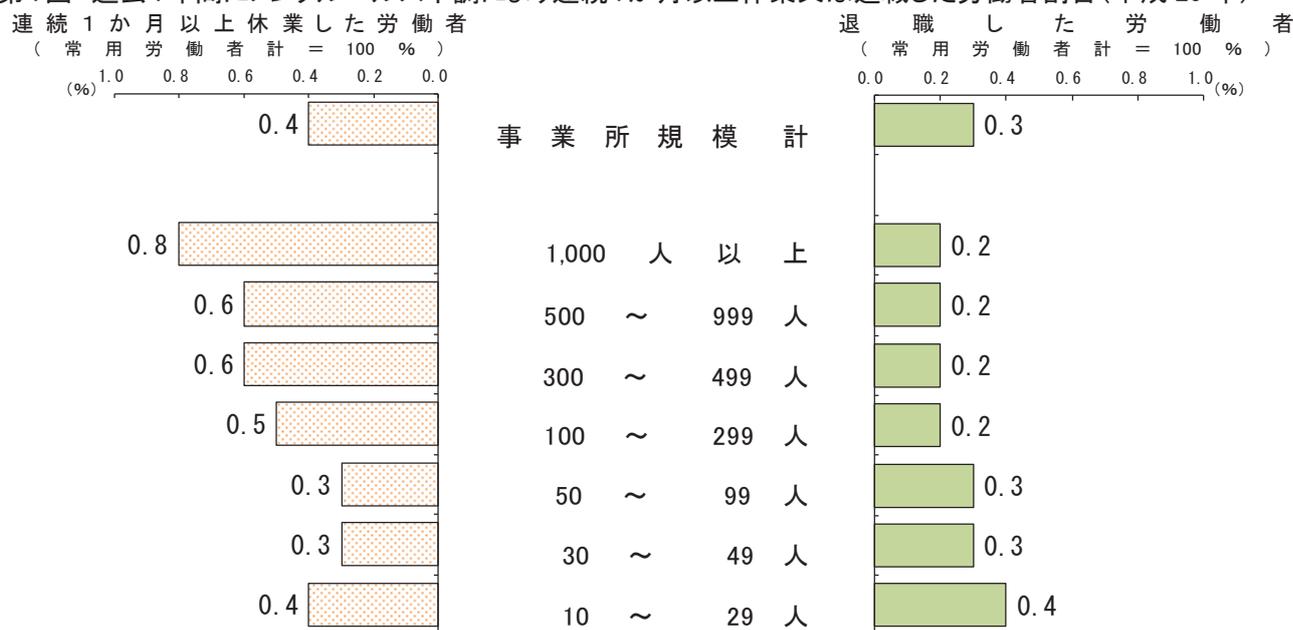
#### (1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者の状況

過去1年間(平成28年11月1日から平成29年10月31日までの期間。以下同じ。)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者を除く。以下、本項では同じ。)の割合は0.4%[平成28年調査0.4%]、退職した労働者の割合は0.3%[同0.2%]となっている。

事業所規模別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「1,000人以上」が0.8%と最も高く、退職した労働者は「10～29人」が0.4%と最も高くなっている。

産業別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「情報通信業」及び「金融業、保険業」が1.2%と最も高く、退職した労働者は「運輸業、郵便業」が0.5%と最も高くなっている。(第1図、第4表)

第1図 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合(平成29年)



注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

第4表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合

(単位:%)

区 分	連続1か月以上休業した労働者	退職した労働者
<b>平成29年</b>	<b>0.4</b>	<b>0.3</b>
(産業)		
農業, 林業(林業に限る。)	0.2	0.1
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.2	0.1
建設業	0.4	0.3
製造業	0.5	0.2
電気・ガス・熱供給・水道業	0.9	0.1
情報通信業	1.2	0.3
運輸業, 郵便業	0.3	0.5
卸売業, 小売業	0.4	0.3
金融業, 保険業	1.2	0.3
不動産業, 物品賃貸業	0.4	0.3
学術研究, 専門・技術サービス業	0.5	0.1
宿泊業, 飲食サービス業	0.3	0.2
生活関連サービス業, 娯楽業	0.2	0.3
教育, 学習支援業	0.3	0.2
医療, 福祉	0.4	0.3
複合サービス事業	0.8	0.2
サービス業(他に分類されないもの)	0.3	0.4
平成28年	0.4	0.2

注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、「退職した労働者」のみに計上している。

## 結果の概要

### 【事業所調査】

#### 1 メンタルヘルス対策に関する事項

##### (1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者がいる事業所の状況

過去1年間(平成29年11月1日から平成30年10月31日までの期間)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は6.7%、退職者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は5.8%となっている(第1表)。

第1表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業  
又は退職した労働者数階級別事業所割合

区 分	事業所計	該当する労働者の人数				該当する労働者がいなかった
		該当する労働者がいた	1人	2人	3人	
(単位:%)						
<b>連続1か月以上の休業者 1)</b>	<b>100.0</b>	<b>6.7</b>	<b>4.6</b>	<b>1.0</b>	<b>0.5</b>	<b>0.1</b>
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	91.9	1.7	5.2	4.8	4.6
500～999人	100.0	76.8	14.2	13.2	8.5	5.8
300～499人	100.0	65.6	20.9	14.8	6.2	5.1
100～299人	100.0	37.4	22.8	5.9	5.0	1.2
50～99人	100.0	14.6	10.4	3.1	0.9	-
30～49人	100.0	7.1	5.9	0.9	0.2	-
10～29人	100.0	2.4	2.2	0.2	0.0	-
(再掲)50人以上	100.0	26.4	14.8	4.8	2.7	0.8
<b>退職者 1)2)</b>	<b>100.0</b>	<b>5.8</b>	<b>4.2</b>	<b>1.0</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	70.3	19.2	12.5	11.4	3.3
500～999人	100.0	39.9	19.1	10.6	4.3	3.5
300～499人	100.0	31.1	17.1	7.1	1.4	2.5
100～299人	100.0	16.0	11.4	1.8	1.7	0.1
50～99人	100.0	10.6	7.2	1.3	0.9	0.5
30～49人	100.0	7.7	5.0	2.0	0.2	0.4
10～29人	100.0	3.6	2.9	0.5	0.1	0.0
(再掲)50人以上	100.0	14.6	9.4	2.1	1.4	0.6

区 分	該当する労働者の人数				該当する労働者がいなかった
	5人	6～9人	10～29人	30人以上	
<b>連続1か月以上の休業者 1)</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>93.3</b>
(事業所規模)					
1,000人以上	2.7	19.7	42.1	11.2	8.1
500～999人	8.0	18.7	8.4	-	23.2
300～499人	6.3	9.5	2.7	-	34.4
100～299人	0.6	1.5	0.4	-	62.6
50～99人	0.1	-	-	-	85.4
30～49人	-	-	-	-	92.9
10～29人	-	-	-	-	97.6
(再掲)50人以上	0.8	1.6	0.9	0.1	73.6
<b>退職者 1)2)</b>	<b>0.1</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>94.2</b>
(事業所規模)					
1,000人以上	5.1	9.9	8.1	0.9	29.7
500～999人	1.3	0.4	0.7	0.1	60.1
300～499人	0.9	0.9	0.6	0.5	68.9
100～299人	0.4	0.2	0.4	-	84.0
50～99人	0.3	0.4	-	-	89.4
30～49人	0.0	-	-	-	92.3
10～29人	-	-	-	-	96.4
(再掲)50人以上	0.5	0.5	0.3	0.0	85.4

注: 1) 「連続1か月以上の休業者」及び「退職者」には、受け入れている派遣労働者は含まれない。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、退職者のみに計上している。